

環境白書

平成 22 年度版

**未来につなげよういきいき自然！
やさしさと行動力あふれるまち・高知**



高 知 市

目 次

I 総論

1. 高知市の概況	
1-1 沿革	1
1-2 自然的条件	1
1-3 社会的条件	3
2. 総合的な環境行政の推進	
2-1 環境行政のあゆみ	7
2-2 環境行政の体制	8
2-3 高知市環境基本条例	13
2-4 高知市環境基本計画	15
2-5 高知市環境保全率先実行計画	18
2-6 高知市地球温暖化対策地域推進実行計画（区域施策編）	21

II 各論

1. 自然環境の保全	
1-1 清流保全と河川浄化対策	24
1-2 動植物の保護	27
1-3 里山の保全	33
2. 生活環境の保全	
2-1 大気汚染	34
2-2 騒音・振動	39
2-3 悪臭	43
2-4 水質汚濁	45
2-5 地盤沈下	52
2-6 公害苦情	54
2-7 ダイオキシン類	55
3. 地球環境の保全	
3-1 地球温暖化	56
3-2 オゾン層の破壊	59
3-3 酸性雨	60
3-4 循環型社会の構築	62
4. みどりのまちづくり	
4-1 みどりの環境の保全と創出に関する条例	73
4-2 緑の基本計画	73
4-3 都市緑化	73
4-4 美しいまちづくり事業	77
4-5 わんぱくこうち	78
4-6 アニマルランド	78
5. 参加と協働	
5-1 環境教育・環境学習	79
5-2 環境保全活動の推進	81
5-3 環境情報の提供	82

III 資料

1. 環境関連条例	85
2. 廃棄物関連条例	114
3. その他条例	123
4. 環境年表	155

I 総論

1. 高知市の概況
2. 総合的な環境行政の推進

1. 高知市の概況

1-1 沿革

本市は土佐 24 万石の藩主山内家の城下町として発展してきた都市である。

明治 22 年に市制が施行された当時は人口 2 万 1,823 人、面積 2.81km²であったが、その後多くの自治体を編入合併し、現在は市域も 309km²に広がり、人口も約 34 万人までに発展した。

市街地は昭和 20 年 7 月の戦災により中央地域のほとんどを焼失し、加えて翌 21 年 12 月の南海大地震により甚大な被害を受けたが、戦災復興都市計画事業を中核に、周辺部は都市開発事業、新市街地整備区画整理事業等により現在の姿に成長した。

本市は、高知県の県都として産業、経済、教育、文化の中核的役割を担っている地方中核都市であり、平成 10 年 4 月には四国で初めて「中核市」に移行した。

1-2 自然的条件

本市は、四国の南部ほぼ中央に位置し、南方は浦戸湾を経て太平洋に臨んでおり、北方と西方には山地が連なっている。また、南部にも低い山地があり、これらに囲まれて東方には高知平野が広がっている。市域の平坦地は総体的に低く、東・南部の市街地や農地には約 7 km²におよぶ海拔ゼロメートル地帯が広がっている。

平成 17 年 1 月 1 日には、合併によって新たに水と緑豊かな鏡・土佐山地区が加わり、また、20 年 1 月 1 日の春野町との合併により、都市部、中山間地、田園地域、臨海部がバランスよく調和し、鏡川と仁淀川という 2 つの清流を有する「森・里・海のまち」となった。

また、市内には東経 133 度 33 分 33 秒、北緯 33 度 33 分 33 秒と「3」が 6 桁も続く地点が存在し、「地球 33 番地」のモニュメントが建てられている。

東 経	133 度 31 分 53 秒
北 緯	33 度 33 分 32 秒
東西最長	21.49km
南北最長	24.83km
面 積	309.22km ²

(世界測地系緯度表示による)



(本市の気象は温暖多雨であるものの、年間日照時間が長く、太陽が輝く明るい街である。)

気 象

(1) 気 温

(単位 °C)

区 分	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	全年	
11 ～ 20 年	最高	20.6	22.3	24.2	29.1	32.3	33.5	38.3	37.4	36.9	31.5	28.0	23.2	38.3
	最低	-5.1	-4.2	-2.1	1.3	8.5	14.2	18.9	19.0	13.6	6.2	0.3	-2.5	-5.1
	平均	6.8	7.8	11.1	15.9	20.2	23.4	27.1	27.8	25.4	20.1	14.2	8.8	17.4
21 年	最高	16.1	24.3	22.4	25.3	30.7	33.0	33.0	36.5	35.0	30.0	25.0	23.0	36.5
	最低	-2.6	1.6	0.8	3.9	11.8	14.0	18.7	20.1	16.8	11.3	5.9	-1.0	-2.6
	平均	6.8	10.1	11.4	15.9	20.4	23.3	26.5	27.6	25.0	19.4	14.7	9.1	17.5

(市政あんない)

(2) 降水量

(単位 mm)

区 分	11 ～ 20年			21年	区 分	11 ～ 20年			21年
	最 高	最 低	平 均			最 高	最 低	平 均	
1月	119.5	12.0	63.5	78.5	8月	576.0	111.0	289.5	228.0
2月	277.0	34.5	96.6	176.0	9月	748.0	176.5	396.3	76.0
3月	245.0	69.5	168.9	240.0	10月	580.0	31.0	195.0	158.0
4月	406.0	71.0	202.5	126.0	11月	279.5	13.5	140.8	349.0
5月	637.5	147.0	350.2	48.5	12月	190.0	8.5	64.0	47.0
6月	563.0	74.0	282.5	244.0	全年	3,581.0	1,745.5	2,590.5	2,062.5
7月	837.0	40.5	341.1	291.5					

(注) 全年欄は年間降水量を示す。

(市政あんない)

(3) 気 象 (平成 21 年)

区 分	日 数	期 間	最大 継続 日数	区 分	日 数	期 間	最大 継続 日数
日最低気温<0°C (寒候期)	9	12.7~1.25	4	日最高気温≥30°C	62	5.13~10.3	13
日平均気温<0°C (寒候期)	0	—	0	日最高気温≥35°C	4	8.13~9.8	2
日平均気温≥25°C	76	6.21~9.29	52	日最低気温≥25°C	22	7.9~8.22	5
日最高気温≥25°C	153	4.9~11.8	117				

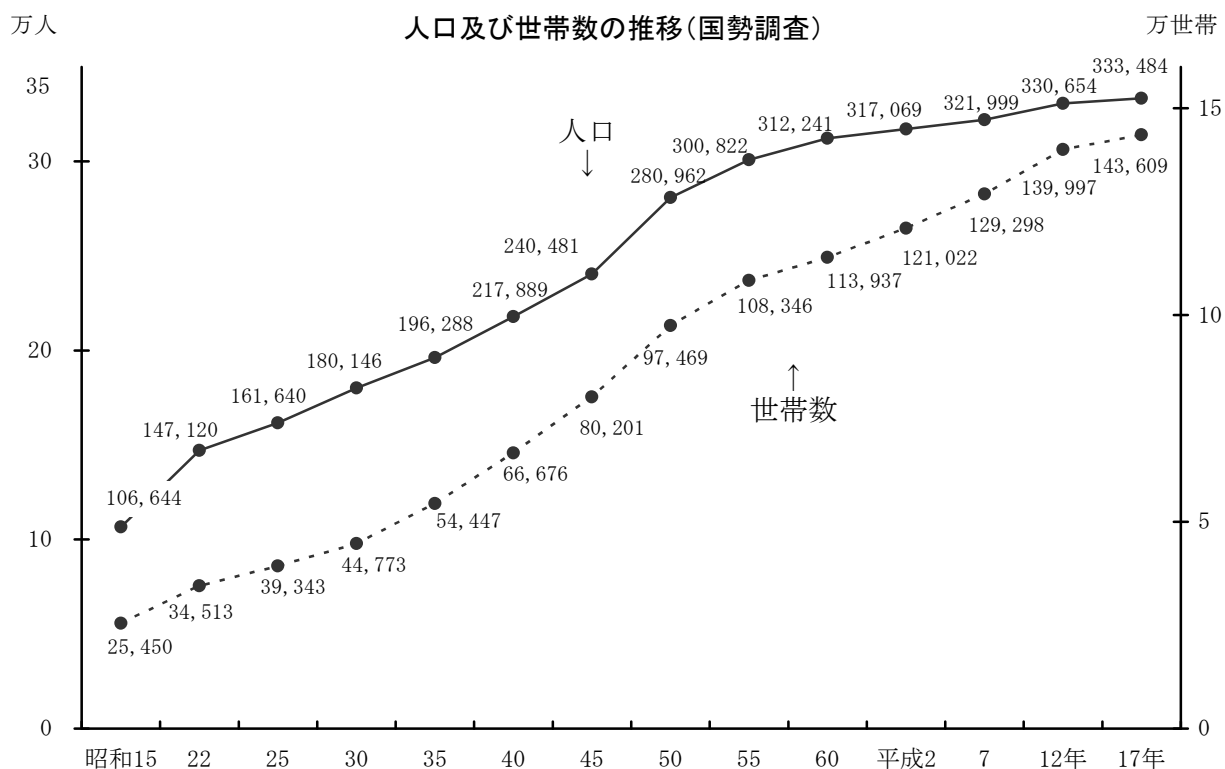
・桜(そめいよしの)開花日 3月16日 ・梅雨期間 6月3日頃~7月30日頃

(市政あんない)

1-3 社会的条件

●人口

本市の人口は高知県全体の約4割に当たる。県都として、著しい人口増加の傾向が長く続いたが、近年はほぼ横ばいであり、少子高齢化が進んでいる。



(高知市統計書)

年齢(3区分)別人口の推移(国勢調査)

区分 年	人 口				構 成 比		
	総 数 (1)	年少人口 (0~14歳)	生産年齢人口 (15~64歳)	老年人口 (65歳以上)	年少人口	生産年齢人口	老年人口
50	280,962	63,065	193,398	24,029	22.4	68.8	8.6
55	300,822	67,137	204,125	28,903	22.3	67.9	9.6
60	321,241	65,527	211,525	33,956	21.0	67.7	10.9
平成2年	317,069	57,041	216,199	40,890	18.0	68.2	12.9
7	321,999	51,064	220,188	50,102	15.9	68.4	15.6
12	330,654	47,335	221,951	60,130	14.3	67.1	18.2
17	333,484	45,802	219,180	68,418	13.7	65.7	20.5

(注) (1) は「年齢不詳」を含む。

(高知市統計書)

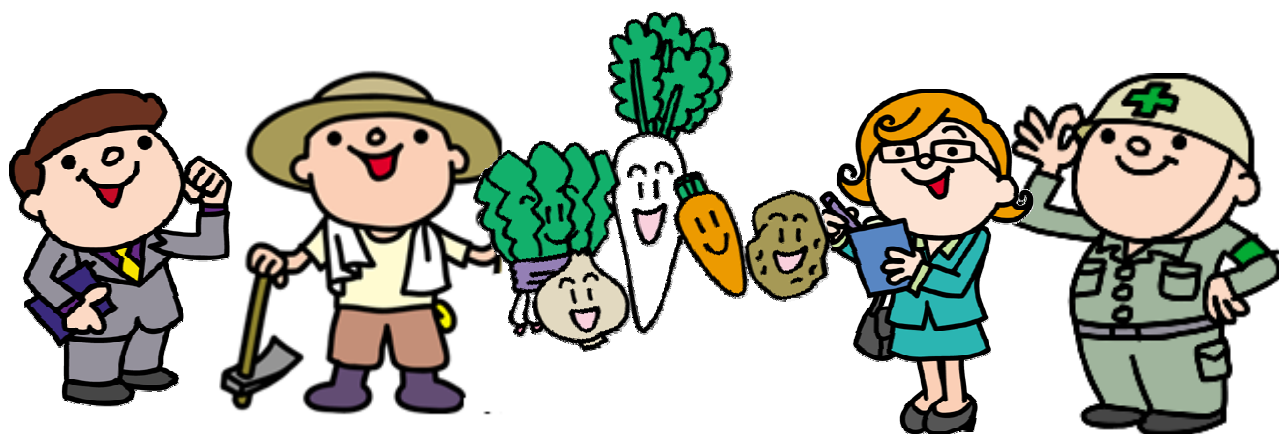
●産 業

本市の産業構造を就業人口から見た場合、平成17年の国勢調査では1次産業1,817人(1.4%)、2次産業2万1,581人(16.8%)、3次産業10万1,578人(79.3%)となっており、3次産業の比率が非常に高くなっている。また、就業人口の推移は、減少傾向にある。

産 業 別 人 口 (国勢調査)

	平成12年			平成17年		
	総 数	男	女	総 数	男	女
総 数	158,343	85,474	72,869	151,711	80,265	71,446
農 業	2,592	1,494	1,098	3,453	1,803	1,650
林 業	216	144	72	210	176	34
漁 業	432	414	18	287	258	29
鉱 業	252	216	36	111	94	17
建 設 業	17,244	14,904	2,340	14,989	12,774	2,215
製 造 業	12,595	7,996	4,599	10,998	7,349	3,649
電気・ガス・熱供給・水道業	648	612	36	622	542	80
情 報 通 信 業	3,024	2,070	954	2,819	1,950	869
運 輸 業	6,229	5,563	666	6,224	5,382	842
卸 売 ・ 小 売 業	37,414	18,503	18,911	32,555	15,563	16,992
金 融 ・ 保 険 業	6,175	3,006	3,169	5,019	2,459	2,560
不 動 産 業	1,855	1,207	648	2,023	1,145	878
飲 食 店 , 宿 泊 業	11,798	3,986	7,812	9,915	3,518	6,397
医 療 , 福 祉	17,677	3,834	13,843	21,047	4,790	16,257
教 育 , 学 習 支 援 業	8,444	3,898	4,546	8,179	3,518	4,661
複 合 サ ー ビ ス 事 業	1,584	954	630	1,647	1,047	600
サービス業(他に分類されないもの)	21,737	11,254	10,483	21,404	11,442	9,962
公務(他に分類されないもの)	6,625	4,464	2,161	6,471	4,400	2,071
分 類 不 能 の 産 業	1,802	955	847	3,738	2,055	1,683

(高知市統計書)



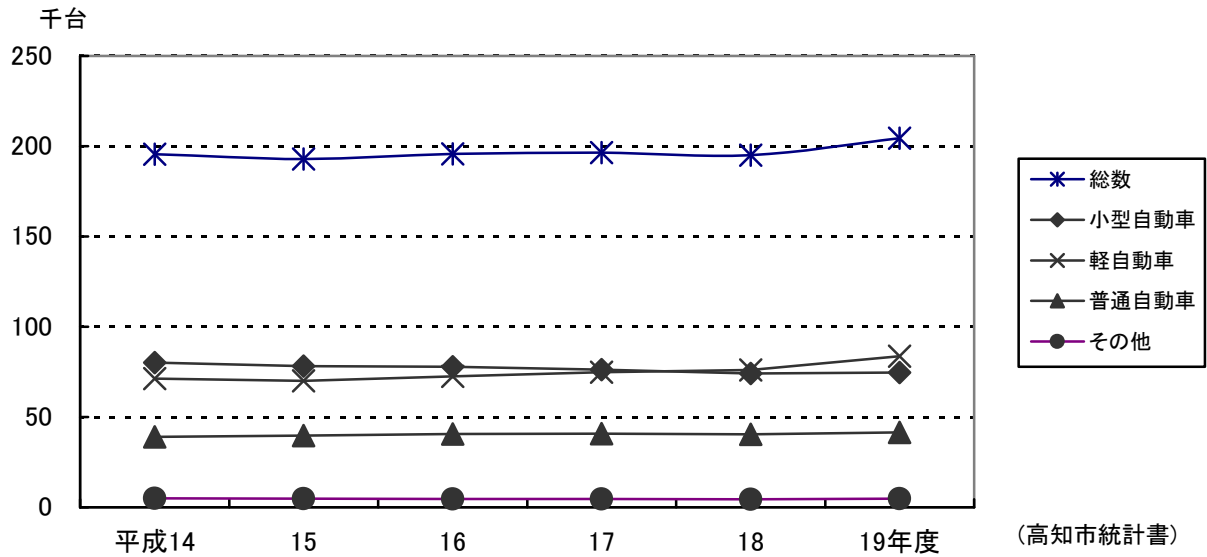
●交 通

市内の道路は、中心部を経て東西方向に延びる国道を中心に形成されており、北部には四国横断自動車道が完成し、東部では高知東部自動車道の建設が進められている。

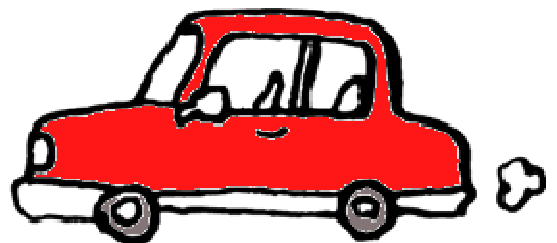
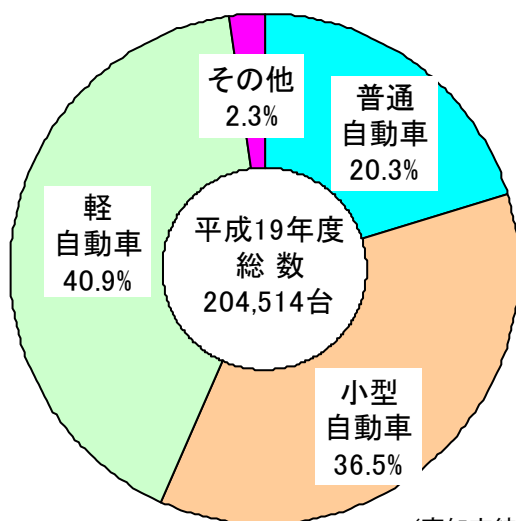
鉄道は、市内中心部を経由して東西方向をJR四国及び土佐電鉄ごめん線・伊野線が結び、土佐電鉄高知駅前線、栈橋線が中心部を南北に結んでいる。

本市の自動車登録台数は、ほぼ横ばい状態であり、平成19年度は20万4,514台となった

四輪自動車登録台数の推移



四輪自動車車種別割合



●土地 利用

(22. 4. 1 現在)

種 類	面 積	種 類	面 積
用 途 地 域	5,071 ha	防 火 地 域	5.7 ha
第一種低層住居専用地域	642	準 防 火 地 域	467.6
第二種低層住居専用地域	-	駐 車 場 整 備 地 区	149.7
第一種中高層住居専用地域	1,763	臨 港 地 区	198.3
第二種中高層住居専用地域	57	高 度 地 区	45.0
第一種住居地域	970		
第二種住居地域	250		
準住居地域	17		
近隣商業地域	252		
商業地域	308		
準工業地域	438		
工業地域	224		
工業専用地域	150		

(市政あんない)

●下 水 道

(22. 4. 1 現在)

区 分			整備区域, 処理区域	
			現 況	普及率
面 積	行 政 区 域		2,674ha	8.6%
	処 理 区 域	全 体 計 画		50.8
		認 可		81.2
人 口	行 政 区 域		170,781 人	50.2
	処 理 区 域	全 体 計 画		50.9
		認 可		75.1

(市政あんない)



2. 総合的な環境行政の推進

2-1 環境行政のあゆみ

(1) 環境問題の変化

我が国では、高度経済成長期を迎えた昭和30年代半ばから、工場の排水や排気等による産業公害が顕在化し、大きな問題となった。さらに、50年代になると、大量生産・大量消費・大量廃棄型の生活様式が国民に広く浸透し、大都市においては、自動車の排ガスによる大気汚染や生活排水による水質汚濁などの都市生活型公害もたらされるようになった。

そして、これらの問題は、今日に至るまで改善の努力がされているものの、十分な解決を見ないまま、地球温暖化やオゾン層破壊などに代表される地球環境問題へと広がりを見せている。

この地球規模の環境問題の影響は、一つの地域にとどまらず、より深刻となり、将来の世代に及ぶであろうと懸念されており、従来から環境汚染物質として知られていたものだけでなく、ダイオキシン類や環境ホルモンのようにその範囲を広げ、より複雑化している。

今日の環境問題は特定の原因者が存在せず、日常の生活行動や通常の企業活動の在り方に起因する部分が大きいため、その解決に当たっては、常に私たちを取り巻く環境を意識し、ライフスタイルや事業活動を見直し、環境配慮型に転換していくことが求められている。

(2) 環境行政の転換

本市においても、高度経済成長期以降、パルプ工場からの排水による江ノ口川の水質汚濁や浦戸湾に立地する港六社による栈橋地区の大気汚染などの公害問題が生じていたが、法・条例の整備による規制や市民運動の成果もあって一応の解決を見てきた。また、その頃、人口の集中や生活様式の多様化により、ごみの排出量が増大したため、全国に先駆けてごみの分別収集を開始するなど、市民とともにごみ問題に取り組んできた。このように本市の環境行政は、「公害行政」と「清掃行政」が主たる柱となって展開されていた。

続いて、昭和60年代になると、水とみどりに囲まれたうるおいのあるまちづくりを求める市民の声にこたえ、野生鳥獣やホタルの保護、鏡川の清流保全などの自然保護行政が新たに加わることとなった。

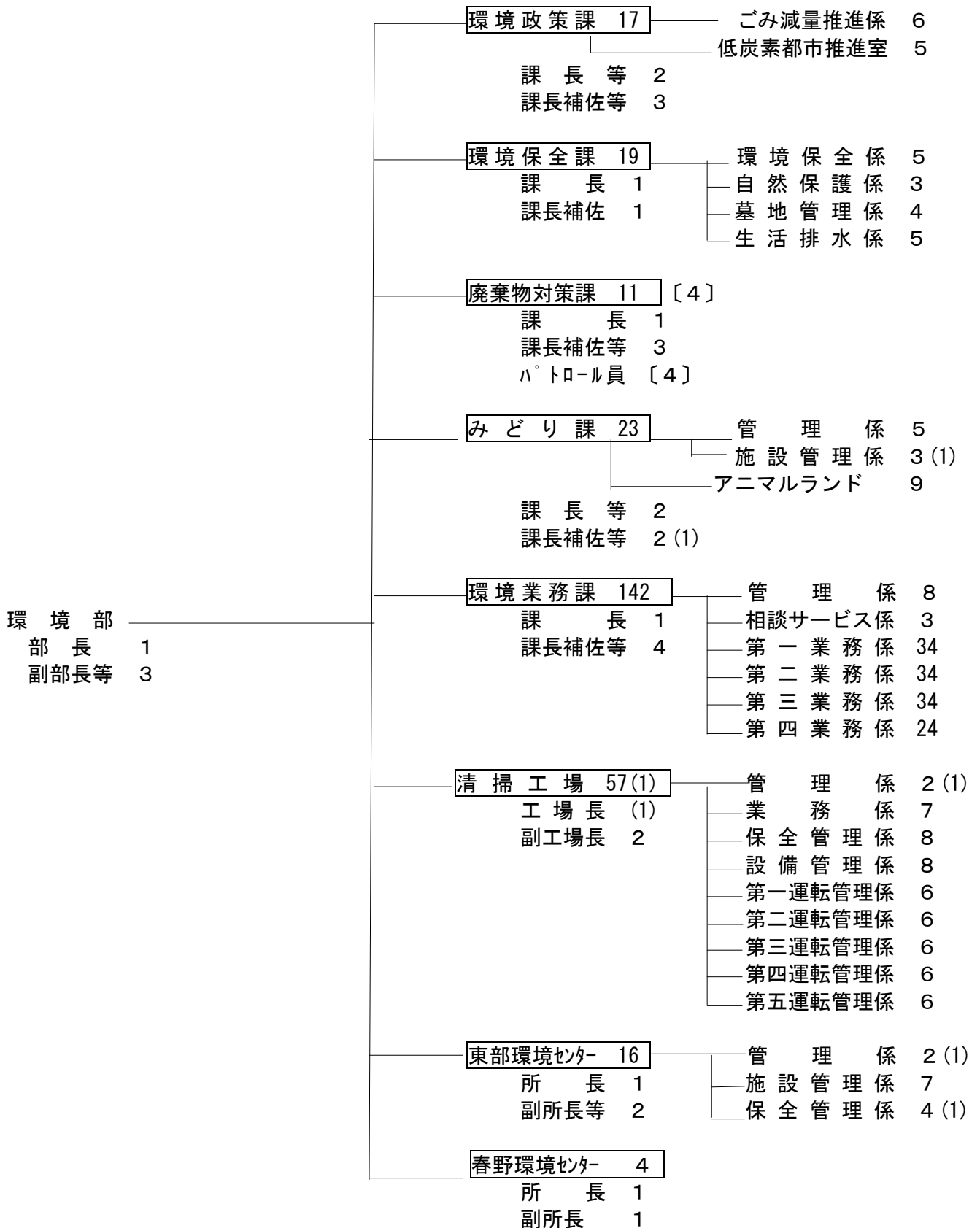
その後、環境問題が多様化・複雑化してきたことを受け、平成9年4月に、環境問題を個々にとらえるのではなく、総合的に対応していくための「高知市環境基本条例」を制定し、12年3月には、さらにその理念を具体化し、環境政策を実行するためのマスタープランとして、「高知市環境基本計画」を策定した。

組織面では、平成12年4月に、初めて環境行政を専管する環境部が設置されたことにより、総合的な環境行政を推進する制度・体制が整備され、循環型社会の構築を目指すエコタウン計画、'98高知豪雨の経験をいかした里山保全、ダイオキシン類対策、廃棄物・リサイクル対策などの様々な環境施策に取り組んでいる。

また、平成17年1月の鏡村、土佐山村との合併、さらに20年1月の春野町との合併により、都市部、中山間地、田園地域、臨海部のバランスが調和した「森・里・海のまち」となり、合併地域の特性を含めた「海、山、川」と都市機能が融合した環境のあり方を追求するとともに、地球環境の保全に向けたいっそうの取組が必要となっている。

2-2 環境行政の体制

(1) 環境部機構（平成22年4月1日現在）



※ () 内の人数は兼務, [] 内は非常勤特別職（高知市廃棄物不法投棄防止パトロール員）の人数

(2) 事務分掌（高知市事務分掌規則より抜粋）

環境政策課

- ・環境の保全の企画及び調整に関する事。
- ・廃棄物処理の企画及び調整に関する事。
- ・環境美化の促進に関する事。
- ・廃棄物の減量及び再資源化に関する事。
- ・廃棄物の減量及び適正処理等の啓発及び情報提供等に関する事（春野環境センターの所管するものを除く。）。
- ・一般廃棄物処理システムの調査及び研究に関する事。
- ・エコタウン事業に関する事。
- ・廃棄物処理用地等の取得に関する事。
- ・環境保全課、廃棄物対策課及びみどり課の財務に関する事。
- ・部内事務の総括に関する事。
- ・部の庶務に関する事。
- ・部内の調整及び部内他課の所管に属さない事項に関する事。

環境保全課

- ・環境保全に係る調査及び測定に関する事。
- ・自然環境及び鳥獣の保護に関する事。
- ・生活排水対策に関する事。
- ・浄化槽法に関する事。
- ・浄化槽整備事業に関する事。
- ・大気汚染防止等に係る規制及び指導に関する事。
- ・大気汚染防止等の測定及び調査に関する事。
- ・公害対策に関する事。
- ・公害関係の届出に関する事。
- ・公害に係る工場、事業所等への立入指導、改善勧告及び措置命令に関する事。
- ・公害の苦情、相談及び紛争に関する事。
- ・植物の保護に関する事。
- ・みどりの募金に関する事。
- ・墓地、埋葬等に関する事（中央窓口センターの所管に属するものを除く。）。
- ・市営墓地に関する事（みどり課の所管に属するものを除く。）。

廃棄物対策課

- ・廃棄物の不法投棄に関する事。
- ・産業廃棄物の排出事業者に対する指導及び監督に関する事。
- ・産業廃棄物処理業・処理施設の許可並びに指導及び監督に関する事。
- ・一般廃棄物処理業・処理施設の許可並びに指導及び監督に関する事。
- ・使用済自動車の再資源化等に関する法律に関する事。
- ・建設工事に係る資材の再資源化等に関する事。
- ・ポリ塩化ビフェニル廃棄物の適正な処理の推進に関する特別措置法に関する事。

環境業務課

- ・廃棄物（し尿を除く。以下この項において同じ。）処理事業の指導管理に関する事。
- ・廃棄物の収集及び運搬に関する事（春野環境センターの所管するものを除く。）。
- ・町内美化活動の支援に関する事（春野環境センターの所管するものを除く。）。
- ・廃棄物の不法投棄の防止、指導及び処理に関する事。
- ・廃棄物の処理に係る手数料の徴収に関する事。
- ・廃棄物適正処理等に関する指導育成に関する事。
- ・高知市クリーンセンター及び同センターに付随する施設に係る用地の取得及び財産の維持管理に関する事。
- ・自動車等の維持管理に関する事。

清掃工場

- ・廃棄物(し尿を除く。以下この項において同じ。)の搬入指導・監督及び焼却処理に関する事。
- ・廃棄物の処理に係る手数料の徴収に関する事。
- ・高知市清掃工場(以下この項において「工場」という。)及び工場に関連する施設の管理並びに技術的研究に関する事。
- ・工場に係る排気、排水等の検査及び測定分析並びに公表に関する事。
- ・工場の整備に係る工事の設計施工及び監督に関する事。
- ・清掃施設の技術的調査研究及び技術援助に関する事。
- ・エコ・パーク宇賀及びヨネッツこうちに関する事。
- ・地元対策に係る諸調整に関する事。
- ・工場及び工場に関連する施設に係る用地の取得及び財産の維持管理に関する事。

みどり課

- ・緑化の推進に関する事。
- ・公園(桂浜公園を除く。)、緑地、広場、児童遊園(児童遊び場を除く。)及びわんぱくこうちに関する事。
- ・アニマルランドに関する事。
- ・街路樹等に関する事。
- ・緑化に関する受託工事に関する事。
- ・花いっぱい運動に関する事。
- ・市営墓地の新設に関する事。

東部環境センター

- ・廃棄物処理施設(清掃工場の所管に属するものを除く。以下同じ。)の整備計画及び技術的管理に関する事。
- ・廃棄物処理施設整備に係る工事の設計施工及び監督に関する事。
- ・廃棄物(し尿を除く。)の埋立処分計画及び埋立業務に関する事。
- ・し尿及び浄化槽汚泥の収集・運搬業者の許可及び指導・監督に関する事。
- ・し尿及び浄化槽汚泥の処理計画及び処理業務並びに委託業者の指導・監督に関する事。
- ・廃棄物処理施設の技術的研究に関する事。
- ・廃棄物処理施設に係る排気、排水等の検査、分析、測定に関する事。
- ・地元対策に係る諸調整に関する事。
- ・廃棄物の処理に係る手数料の徴収に関する事。
- ・東部環境センター所管のスポーツ施設の受付に関する事。
- ・東部環境センター及び同センターに付随する施設に係る用地の取得及び財産の維持管理に関する事。
- ・三里最終処分場及び春野最終処分場の財産の維持管理に関する事。

春野環境センター

- ・春野地区の廃棄物(し尿及びペットボトルを除く。以下この項において同じ。)の収集及び運搬に関する事。
- ・春野地区の町内美化活動の支援に関する事。
- ・春野地区の廃棄物の処理に係る手数料の徴収に関する事。
- ・高知市春野清掃センター及び同センターに付随する施設の管理及び財産の維持管理に関する事。
- ・春野地区の廃棄物の減量及び適正処理等の啓発及び情報提供に関する事。
- ・地元対策及び一部事務組合に係る諸調整に関する事。

(3) 環境部予算（歳出）

（単位：千円）

項目	21年度決算額	22年度予算額
環境総務費	381,231	265,177
（事故繰越分）環境総務費	280	・・・
環境対策推進費	264,505	309,395
環境保全啓発推進事業費	129	119
鏡川清流保全対策事業費	1,119	1,247
水質汚濁防止事業費	3,439	3,679
環境監視事業費	934	6,003
大気汚染防止対策事業費	20,048	19,319
ダイオキシン類発生防止対策事業費	1,827	2,578
アスベスト発生防止対策事業費	819	578
里山保全事業費	278	777
浄化槽設置費補助金	98,860	104,898
保存樹木等助成金	718	732
浄化槽・生活排水対策推進費	308	890
浄化槽総合管理推進事業費	450	0
浄化槽管理システム整備事業費	9,293	39,500
浄化槽保守点検適正化事業費	228	58
環境民権運動推進事業費	660	→環境総務費
その他	125,395	129,017
廃棄物対策費	98,294	94,990
産業廃棄物対策事業費	3,559	3,869
その他	94,735	91,121
ごみ減量推進費	77,695	326,546
ごみ減量リサイクル推進事業費	848	1,387
ごみ適正処理対策事業費	1,969	2,683
循環型社会推進事業費	36	243,940
生ごみ処理容器購入費補助金	108	150
特定家庭用機器廃棄物収集運搬助成金	994	1,430
地域雇用環境美化・ごみ減量事業費	13,754	13,110
エコ産業団地用地取得事業費	22,230	21,157
その他	37,756	42,689
公園総務費	546,532	552,196
公園管理費	387,899	380,408
わんぱくこうち指定管理料	26,319	26,904
その他	132,314	144,884
公園整備改良費	161,319	172,000
アニマルランド費	101,797	104,594
（明許繰越分）公園整備改良費	72,650	・・・
塵芥収集費	1,339,606	1,349,071
（明許繰越分）塵芥収集費	25,000	・・・
塵芥処理費	1,168,493	1,195,259
プラスチックごみ処理費	107,156	111,257
最終処分場管理費	54,209	58,860
余熱利用施設費	34,032	29,038
春野環境センター費	180,903	192,728
し尿収集費	33,392	55,862
し尿処理費	342,112	300,638
春野地区し尿処理費	50,940	50,119
市有墓地管理費	42,327	36,283
計 ※その他は人件費や事務費等をまとめたもの	4,174,895	4,375,223

(4) 附属機関等

審議会名称	設置根拠	委員数	主な所掌事務
環境審議会	環境基本条例 第 28 条	1 5	環境の保全及び創造に関する基本的 事項についての調査審議
廃棄物処理運営審議会	廃棄物の減量及び適正 処理等に関する条例 第 16 条	1 5	次の事項についての調査審議 ・一般廃棄物の減量及び再生利用等の 推進 ・一般廃棄物の適正な処理の推進
公害対策審議会	公害防止条例 第 33 条	1 4	公害に関する重要事項の調査審議
ダイオキシン類対策 審議会	ダイオキシン類による 健康被害の防止及び生 活環境の保全に関する 条例 第 10 条	1 2	ダイオキシン類対策に関する基本的 事項についての調査審議
鏡川清流保全審議会	鏡川清流保全条例 第 26 条	1 5	鏡川の清流保全に関する重要事項の 調査審議
里山保全審議会	里山保全条例 第 21 条	1 1	里山の保全に関する事項の調査審議
産業廃棄物処理施設 設置審議会	産業廃棄物処理施設 設置審議会規則第 1 条	5	産業廃棄物処理施設の設置に関する 計画及び維持管理に関する計画が、周 辺地域の生活環境の保全について適 正な配慮がなされたものであるか について審議
放置自動車廃物判定 委員会	放置自動車の発生 の防止及び適正な 処理に関する条例 第 15 条	8	放置自動車の廃物判定及びその他放 置自動車の発生の防止及び適正な処 理に関し、必要な事項を審議
緑政審議会	高知市緑政審議会 条例 第 1 条	11	自然の保護、緑化の推進等に関するこ と、及び都市公園、児童遊園の設置及 び管理に関することの調査審議



2-3 高知市環境基本条例

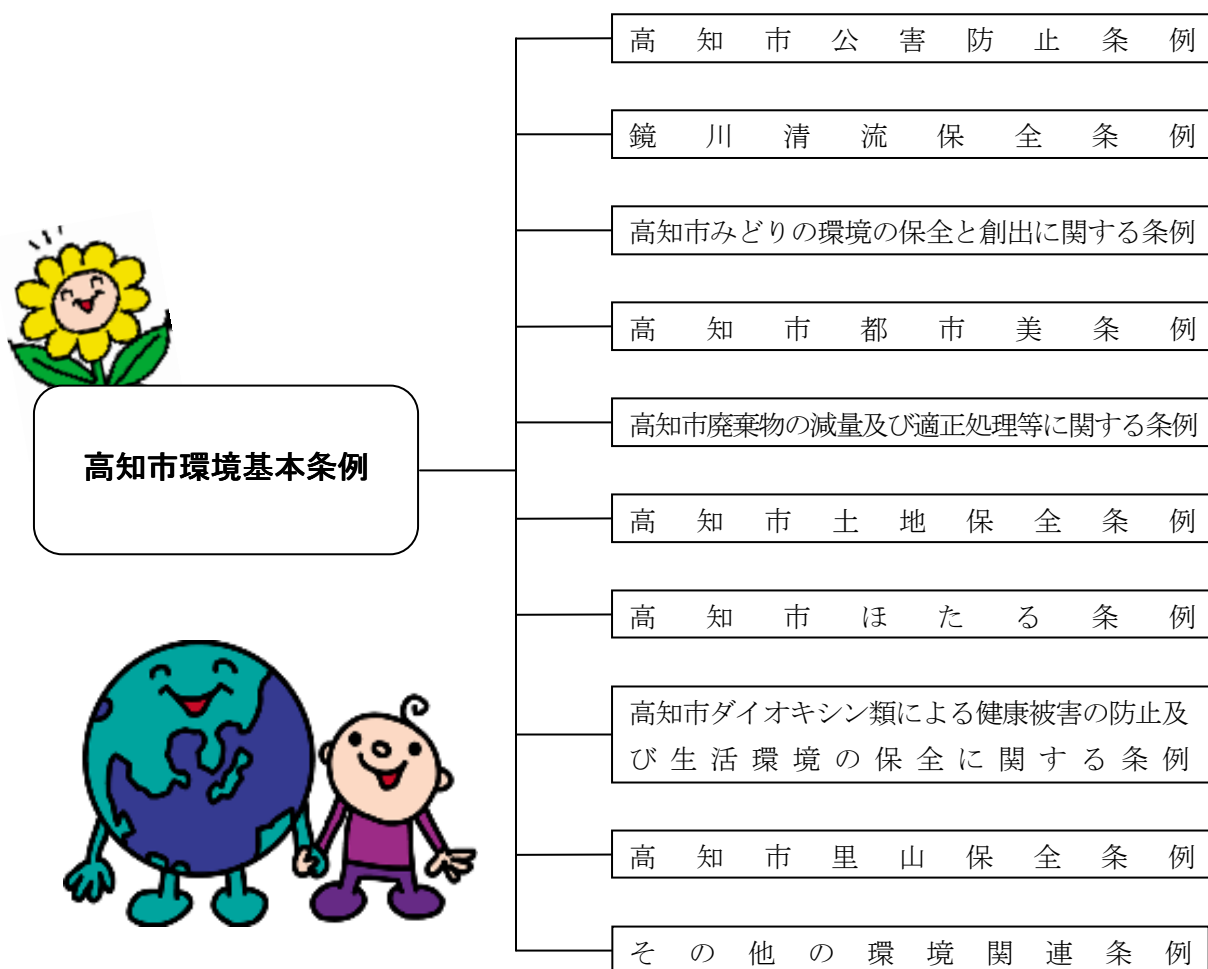
(1) 制定の背景

近年、環境問題の構造変化や地球環境保全への主体的な取組みの必要性が生じ、従来の環境施策の中心であった規制的手法だけでは、問題の解決に向けた対応に限界があり、新たな観点からの施策展開が必要となってきた。

こうしたなか、平成5年11月に環境を総合的にとらえて、計画的に環境施策を講じていくために、環境基本法が制定された。本市においても、この法律の趣旨を踏まえ、市民や学識経験者の意見を聴きながら、自然的・社会的特性に応じた環境施策を総合的かつ計画的に推進する枠組みとして、9年4月1日に「高知市環境基本条例」を制定した。

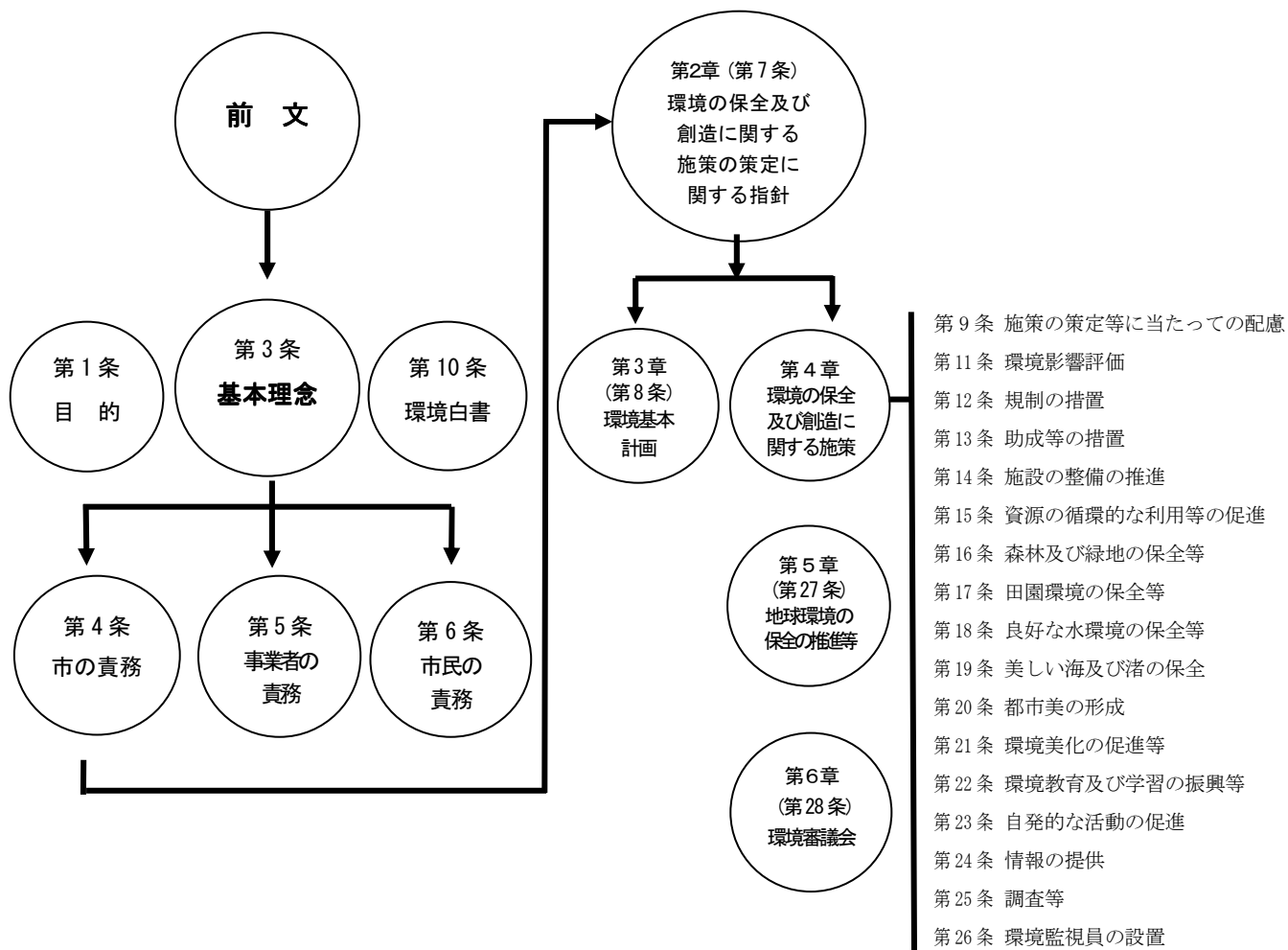
(2) 条例の概要

この条例は、既存の環境に関する条例を理念的に包括し、環境施策全般を方向づけるものとなっており、その規定する内容により、環境の保全及び創造に関する施策を総合的かつ計画的に推進し、市民の安全かつ健康で文化的な生活を守ることを目的としている。



(3) 条例の構成

憲章型条例の性格を持つこの条例は、施策の方向性を示すプログラム規定を中心に構成されているほか、目的・定義・理念及び各主体の役割といった総則的事項、施策の総合的・計画的な推進のための高知市環境基本計画の策定や環境審議会の設置等の規定を盛り込んでいる。



2-4 高知市環境基本計画

(1) 計画策定の背景・目的

本市は青い空にみどりあふれる山々や、市街地を流れる清流など豊かな自然環境が残されている。この恵まれた環境を将来の世代に引き継いでいくために、市・事業者・市民が協力し合い、環境への負荷の少ない循環・共生を基調とした社会に変えていくことが必要である。

このため、身近な自然の減少、増え続けるごみの排出や不法投棄、大気や水質等の生活環境の悪化、ダイオキシン類などの有害化学物質の顕在化、地球温暖化の進行などの様々な環境問題に対し、市・事業者・市民が各々の役割に応じ、また、お互いが連携・協働して、取り組んでいくための指針となる総合的な環境計画の必要性が高まってきた。

こうしたなか、環境の保全及び創造に関する施策を総合的かつ計画的に推進するため、平成10年から市民や学識経験者などで構成される環境審議会や市民環境懇話会などで検討され、環境基本条例第8条に基づき、12年3月に「高知市環境基本計画」が策定された。

(2) 計画の基本的事項

計画の位置づけ	環境行政のマスタープランとして、高知市総合計画をはじめとする諸計画に示されている各施策を、「環境」という視点で関連づけている
対象とする環境の範囲	自然環境、生活環境、都市環境、地球環境に加えて、これら環境の保全に向けた参加と協働を進める環境教育・環境学習も対象とする
取り組み主体	市・事業者・市民
計画の期間	平成12年度から22年度までの11年間

(3) 望ましい環境像

この基本計画では、本市の恵まれた環境の質を高めて、すべての市民が環境からの恵みを享受でき、環境への負荷の少ない持続的発展が可能な社会を築くため、次の世代が育ち活躍しているであろう21世紀半ばを目標にした「望ましい環境像」を設定している。

この環境像には、市・事業者・市民が参加、協働して環境を変えること、身近な地域から行動すること、広い視野でとらえることを基本として、いきいきと生命力に輝く恵み豊かな自然が身近にあること、そしてその環境を守り育てていく市民の自発的に活動するバイタリティあふれる行動力があること、それらが将来の世代に伝えていく本市の誇るべき財産であるという意味合いが込められている。

<望ましい環境像>

未来につなげよういきいき自然！
やさしさと行動力あふれるまち・高知

(4) 基本目標

この基本計画では、本市の望ましい環境像を構成する基本的な枠組みとして、自然環境・生活環境・都市環境・地球環境・参加と協働について、それぞれの基本目標とそれを達成するための取り組みを体系的に整理している。

基本目標	取り組みの柱	取り組みの方向性
自然環境の 保全の目標 自然がしまんのふるさとを伝えよう	川と水系の保全	1. 鏡川清流保全計画の推進 2. 水の涵養 3. 水の有効利用による水源の保全 4. 水辺の生きものの多様な育成・生息空間の保全・育成 5. 川と人との関わりの回復
	里山・里林の保全	1. 里山・里林の保全 2. 生きものの多様な育成・生息空間の保全・育成 3. 里山・里林と人との関わりの回復
	田園環境の保全	1. 田園の保全 2. 生産者の顔が見える販売体制の確立 3. 環境保全型農業の推進 4. 土と人との関わりの回復 5. 自然環境に配慮したほ場整備
	海および渚の保全	1. 海および渚周辺の生態系の保全 2. 浦戸湾および土佐湾内の環境保全
生活環境の 保全の目標 自然がやさしく支える、 人も環境も健康なまちをめざそう	さわやかな大気質の保全	1. 自動車排出ガスの低減 2. 工場・事業場の排出ガスの低減 3. 調査・監視体制の充実 4. 大気浄化能力の向上
	音・におい環境の保全	1. 騒音・振動・悪臭の防止 2. 身近な音・におい環境の保全 3. 調査・監視体制の充実
	清らかな水の確保	1. 生活排水による水質汚濁負荷の低減 2. 事業活動などによる水質汚濁負荷の低減 3. 自然の水質浄化能力の回復 4. 調査・監視体制の充実
	土壌・地盤の保全	1. 地盤沈下の防止 2. 土壌汚染の防止
	有害化学物質の汚染防止	1. 有害化学物質の安全対策の強化
	廃棄物の減量化と適正な処理	1. ごみの減量・資源再利用の推進 2. 収集・運搬体制の整備・充実 3. し尿処理対策の推進 4. 産業廃棄物の減量化・リサイクルの促進 5. 産業廃棄物の適正処理の促進 6. 処理施設の運用・整備

基本目標	取り組みの柱	取り組みの方向性
都市環境の創造の目標 土佐の風土を感じる、自然と人の暮らすまちをつくらう	自然を活かした都市空間の形成	1. 水と緑のネットワーク化 2. 魅力ある都市景観の形成 3. 都市環境の美化 4. 海浜景観の保全
	人と環境に配慮した交通体系の整備	1. 自動車交通行動の改善 2. 安全な歩行空間の確保 3. 快適な自動車利用環境の整備 4. 公共交通の利便性の向上
	災害に強いまちの形成	1. 総合的な治水対策 2. 防災機能の強化
地球環境の保全の目標 地球 33 番地を、地球環境保全活動発信のまちにしよう	地球温暖化の防止	1. 交通行動の改善 2. ごみの減量化 3. エネルギー使用の改善
	地球の大気・水・土の保全	1. オゾン層の保護 2. 酸性雨の防止 3. 海洋汚染の防止
	森林と生物多様性の保全	1. 森林の保全 2. 野生生物種の保全
	国際的な協力	1. 国際交流・国際協力の推進 2. 環境に負荷の少ない行動の定着
参加と協働の目標 行動力と元気で、協働するまちにしよう	環境学習の推進	1. 学校教育での環境学習推進 2. 地域と学校との連携 3. 社会教育、生涯学習の充実
	環境活動の支援・促進	1. 事業者に対する支援・促進 2. 市民に対する支援・促進 3. 活動ネットワークの形成
	環境情報の提供	1. 情報提供の推進 2. 情報基盤・システムの整備 3. 情報ネットワーク拠点の形成

2-5 高知市環境保全率先実行計画

(1) 計画の趣旨

本市の環境基本計画では、市・事業者・市民が各々の役割に応じて、環境保全に取り組むことが期待されている。市は、行政としての役割を有しているほか、一事業者として活動している側面も併せ持っており、その活動規模は市内でも極めて大きい。

このため、市が事務事業を行っていく上で、自ら率先して環境に配慮していくことは、行政活動から生じる環境負荷の低減を図ることができるとともに、事業者や市民の環境に配慮した主体的行動を促進することにもつながる。そのため、平成13年3月に市役所における環境配慮の行動指針として「高知市環境保全率先実行計画」を策定し、18年3月には18年度を初年度とする第2次計画を策定した。

(2) 計画の特徴

率先実行計画は、市役所のすべての機関で行われる事務事業を対象としており、現在は、第2次計画に沿って取組を進めている。

また、計画では、環境配慮に取り組むべき項目を掲げ、それぞれの項目ごとに可能な限り数値を盛り込んだ目標を設定している。そして達成状況を監視し、取組みを改善していくための進行管理の仕組みとして、PDCAサイクルの考え方を取り入れている。

(3) 環境にやさしい取組みと目標

取組み項目	目標内容
グリーン購入の推進 ・再生紙の購入・使用 ・環境にやさしい商品の購入	・物品購入に占める環境に配慮した製品等の割合を平成22年度末まで、毎年度、95%以上にします。
省エネルギーの推進 ・電気使用量の削減 ・公用車燃料の使用量の削減	・庁舎等における電気の使用量を、平成22年度末までに11年度実績に対して3%以上削減します。 ・自動車燃料の総使用量を、平成22年度末までに11年度実績に対して3%以上削減します。
省資源の推進 ・用紙類の使用量の削減 ・水使用量の削減	・コピー用紙の購入量(A4サイズ換算枚数)を、平成22年度末までに11年度実績に対して3%以上削減します。 ・庁舎等における上水道の使用量を、平成22年度末までに11年度実績に対して5%削減を維持します。
ごみの減量化とリサイクルの推進 ・排出抑制 ・再利用 ・分別・リサイクル	・庁舎等で発生するごみについて、職員啓発や指導を徹底し、減量とリサイクルに努めます。
公共工事における環境配慮	・各職場において事業の実施の際は、環境に配慮していきます。 ・公共事業における環境配慮については、特記仕様書等により、請負業者に協力を要請します。
職員の環境配慮意識の向上	・環境に関する情報提供や、必要に応じて適宜内部環境監査等を実施します。

(4) 環境方針

基本理念

みどりあふれる山々，清らかなせせらぎ，雄大な太平洋
美しい木漏れ日，きらめく川面，しおかぜの匂い
市民が安心して，いきいきと暮らすことができるまちをつくるために

わたしたちが受け継いできたたくさんのも
わたしたちが子どもたちに伝えなければならない大切なもの
わたしたちの世代で失ってはいけないものをまもるために

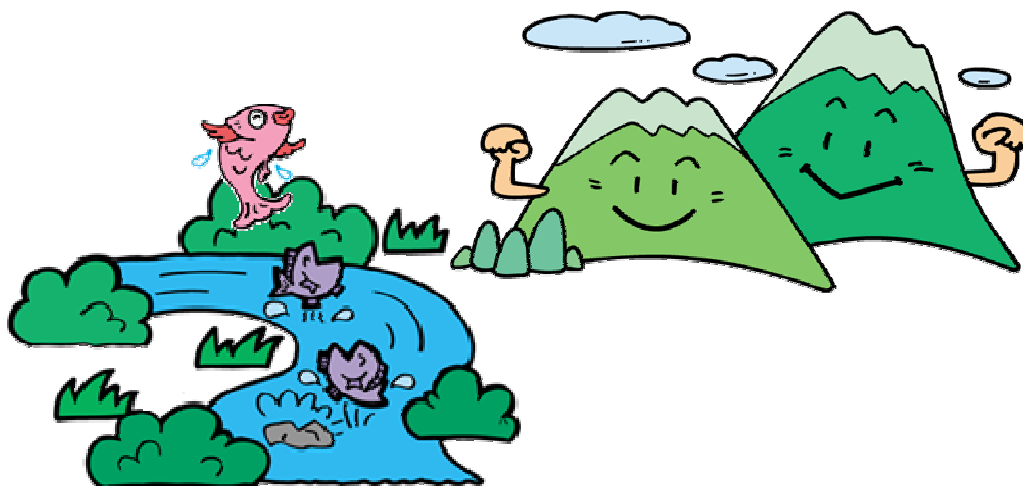
自然と発展が調和した「こころ豊かなしあわせ都市・高知」をめざします。

基本方針

わたしたちは，この基本理念に基づき，環境目的・目標をさだめ，定期的に見直すとともに，継続的な改善をはかり，汚染の予防につとめることにより，環境保全活動をすすめます。

- (1) 高知市環境基本計画にもとづき，環境の保全および創造に関する施策をすすめます。
- (2) 高知市環境保全率先実行計画にもとづき，率先して省エネルギー・省資源，ごみの減量化とリサイクル，グリーン購入につとめます。
- (3) 公共事業における環境配慮につとめます。
- (4) 環境関連の法律・規制・協定を遵守します。
- (5) 環境研修の実施により，職員の環境保全に関する意識の向上をはかります。

この方針は，全職員に周知し，庁内外に公表します。



(5) 数値目標に係る平成21年度の実績と達成度評価

目標項目	数値目標	基準値 (平成11年度)	平成21年度実績値	達成度評価
物品購入に占める環境配慮型製品の割合 (グリーン購入率)	毎年度95%以上	—	98.7%	◎
電力の消費量 (本庁舎・第二庁舎・南別館・たかじょう庁舎)	平成11年度実績に対し3%以上削減 (299.7万kwh)	308.9万kwh	272.1万kwh	◎
自動車燃料の総消費量 (ガソリン・軽油)	平成11年度実績に対し3%以上削減 (52.1万リットル)	53.7万リットル	53.9万リットル	△
コピー用紙の購入量 (A4規格換算)	平成11年度実績に対し3%以上削減 (2,691万枚)	2,774万枚	3,395万枚	×
上水道の使用量 (本庁舎・第二庁舎・南別館・たかじょう庁舎)	平成11年度実績に対し5%以上削減 (26,123 m ³)	27,498m ³	20,387m ³	◎

※電力消費量、上水道の使用量については、基準値にたかじょう庁舎分を加えて目標値を算出している。

◎:平成21年度における目標を達成した。
 △:目標達成には至らなかったが、目標の方向に向かっている。
 ×:目標と反対方向に向かい、目標を達成しなかった。



2-6 高知市地球温暖化対策地域推進実行計画（区域施策編）

(1) 計画の策定の背景

平成 11 年 4 月に地球温暖化対策の推進に関する法律（以下「温対法」という。）が施行され、地方公共団体の事務及び事業に関して、温室効果ガスの排出抑制のための実行計画の策定を定めるもの（第 21 条）とされた。本市もそれに基づき地方公共団体実行計画として、「高知市環境保全率先実行計画（高知市地球温暖化対策推進実行計画）」を策定し、平成 13 年度から 17 年度を第 1 期、18 年度から 22 年度までを第 2 期計画期間として、市が行う事務事業を対象に温室効果ガス削減に向け継続的に取り組んでいる。

そして平成 20 年 6 月、温対法が全体的に改正され、新設された第 20 条の 3 第 3 項において、都道府県や指定都市、中核市等については、地方公共団体の実行計画の内容について、その区域の自然的社会的条件に応じて温室効果ガスの排出抑制等を行うための施策も定めることとなった。

このようなことから、本市においても新たに法改正の趣旨に従った内容による市域における温室効果ガスの削減に向けた施策を推進するための計画として、従来の「高知市環境保全率先実行計画」に併せて、「高知市地球温暖化対策地域推進実行計画」（区域施策編）を定めることとした。

(2) 基本的な考え方

本計画は、地球環境保全に向けて市域全体で温室効果ガスの削減に取り組むことを定めているが、単に削減目標計画の達成のみならず、新エネルギーやバイオマス等の「先端技術活用」、自然環境が有する浄化力と再生力を踏まえた「E C O ライフサイクルとライフスタイルの提案」、産・学・官・民の総力を結集した一大運動「土佐から始まる環境民権運動」の展開、教育と啓発による「意識の高い ECO 人づくり」など、歯を食いしばって「貧しい低炭素都市」を目指すのではなく、高知市の強みである豊かな「環境」と「食」を軸に据えながら、産業振興、観光振興、中心市街地活性化等の取組を総合的に推進していくものであり、高知の地域適応性を意識しながら、高知の地域活力の向上・活性化にも資するものとして以下のことに取り組んでいく。

- 市域の自然条件に適した化石燃料以外のエネルギーの利用の促進
- 市民または市内の事業者が温室効果ガスの排出の抑制等に関して行う活動の促進
- 公共交通機関の利用者の利便の増進、市街地における緑地の保全及び緑化の推進、その他温室効果ガスの排出の抑制等に資する地域環境の整備及び改善
- 廃棄物等の発生の抑制、その他循環型社会の形成に関する事項

(3) 計画の対象

市域の温室効果ガス削減に向けた取り組みについて、市民や市内の事業者並びに高知市に關係するすべての人々及び法人、その他の団体が行う活動が対象となる。

(4) 計 画 期 間

目標の達成のためには、時代にあった施策の積み重ねが必要であり、計画の適用期間は、平成 21 年度を初年度、京都議定書の目標達成期間の最終年度である 24 年度を最終年度としている。

しかし、これは短期の目標期間であり、最終的には、化石燃料脱却をイメージした 2100 年を視野に入れつつ、目標年を 2050 年とし、市域における温室効果ガス排出量半減を大きな目標としている。

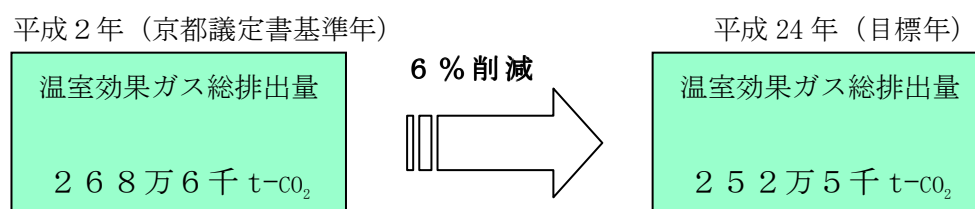
(5) 温 室 効 果 ガ ス 削 減 目 標

我が国は、気候変動に関する国際連合枠組条約により、二酸化炭素等に代表される温室効果ガスの排出量を平成 20 年から平成 24 年の 5 年間で、平成 2 年（基準年）の排出量から 6 %削減することを約束した。高知市における削減目標についても、日本全体での取り組みと歩調をあわせ、平成 24 年までに平成 2 年の排出量から 6 %の削減を目指す。ただ、数字の集計に当たっては、原則として、会計年度単位（4 月～3 月）のものを使用することとする。これは、高知市の平成 2 年の温室効果ガス集計の数値を年度単位で集計していることや参考資料が年度単位で算出されているためである。

温室効果ガスの削減目標（短期目標）

高知市域で排出される温室効果ガスの総排出量を平成 16 年を現状として、

平成 20 年から平成 24 年末までに **10.65%削減**していくことに取り組む。



温室効果ガスの削減目標（長期目標）

2050年には、温室効果ガス排出の半減を目指す。

我が国では、2007 年 5 月、「クールアース 50」を提案した。これを実現するために、2008 年 1 月のダボス会議において、①ポスト京都フレームワーク、②国際環境協力、③イノベーション（技術革新）の 3 つの柱からなる「クールアース推進構想」を発表した。

①では、世界の排出量を 10～20 年の間にピークアウトさせ、2050 年に温室効果ガスを半減させることや、目標設定に当たって削減可能量を積み上げ、削減負担の公平性を確保することなど、②では、世界全体で 2020 年までに 30%のエネルギー効率を改善すること、③では、革新技術の開発と低炭素社会への転換を図ること等をあげている。

高知市も、この構想に基づき 2050 年までに温室効果ガスを現状から半減することをもう一つの目標として、さまざまな施策に取り組んでいく。

本計画の目標の達成に向けて、市民や事業者の方々が日常生活や業務の執行を通じて環境に配慮した行動が実践できるよう、本計画では、5つの構想をもって取り組んでいくこととしている。

高知市の温室効果ガス削減のための5つの構想

① 土佐ECO^{ひと}人づくり

全小学校での環境学習の実践や大学等と連携した事業者・社会人の研修に加え、エコ・ジオツーリズムの促進、ウミガメの産卵地の保全等を通じた生態系保護啓発活動、一大運動「土佐から始まる環境民権運動」を通じた市民啓発などによるECO人づくりを通して、森里海が調和して発展する地域づくりにつなげていく。

② よさこいECOライフ

「土佐から始まる環境民権運動」を通じた、全市民的啓発活動により、自主自立の土佐人気質を尊重した新たなライフスタイルの提示により、民生部門の大幅削減を促進する。また、環境問題に貢献する事業者等に対する支援、顕彰等を行う。

③ ECOエネルギーの地産地消

森林の整備に伴う間伐材や下水道汚泥、及び生ごみの利用によるバイオマス燃料化、竹バイオマスタウン構想の実現による資源の循環、太陽光、水力、風力などの自然エネルギー導入を促進し、エネルギーの地産地消を目指す。

④ コンパクトECOシティ

「中心市街地活性化基本計画」を策定し、都市機能の集約化と街なか居住の促進を図るとともに、路面電車等公共交通や自転車の利用促進、ECO商店街の推進など、歩いて暮らせるコンパクトECOシティを目指す。

⑤ ECO地場産品づくり

森林の整備によるCO₂の吸収促進と併せて、発生する木材や木製品等の供給、有機農法等環境保全型農業による「食」のブランド化、大学等の研究機関とタイアップしたECO地場産品の開発供給などを目指す。

Ⅱ 各論

1. 自然環境の保全
2. 生活環境の保全
3. 地球環境の保全
4. みどりのまちづくり
5. 参加と協働

1. 自然環境の保全

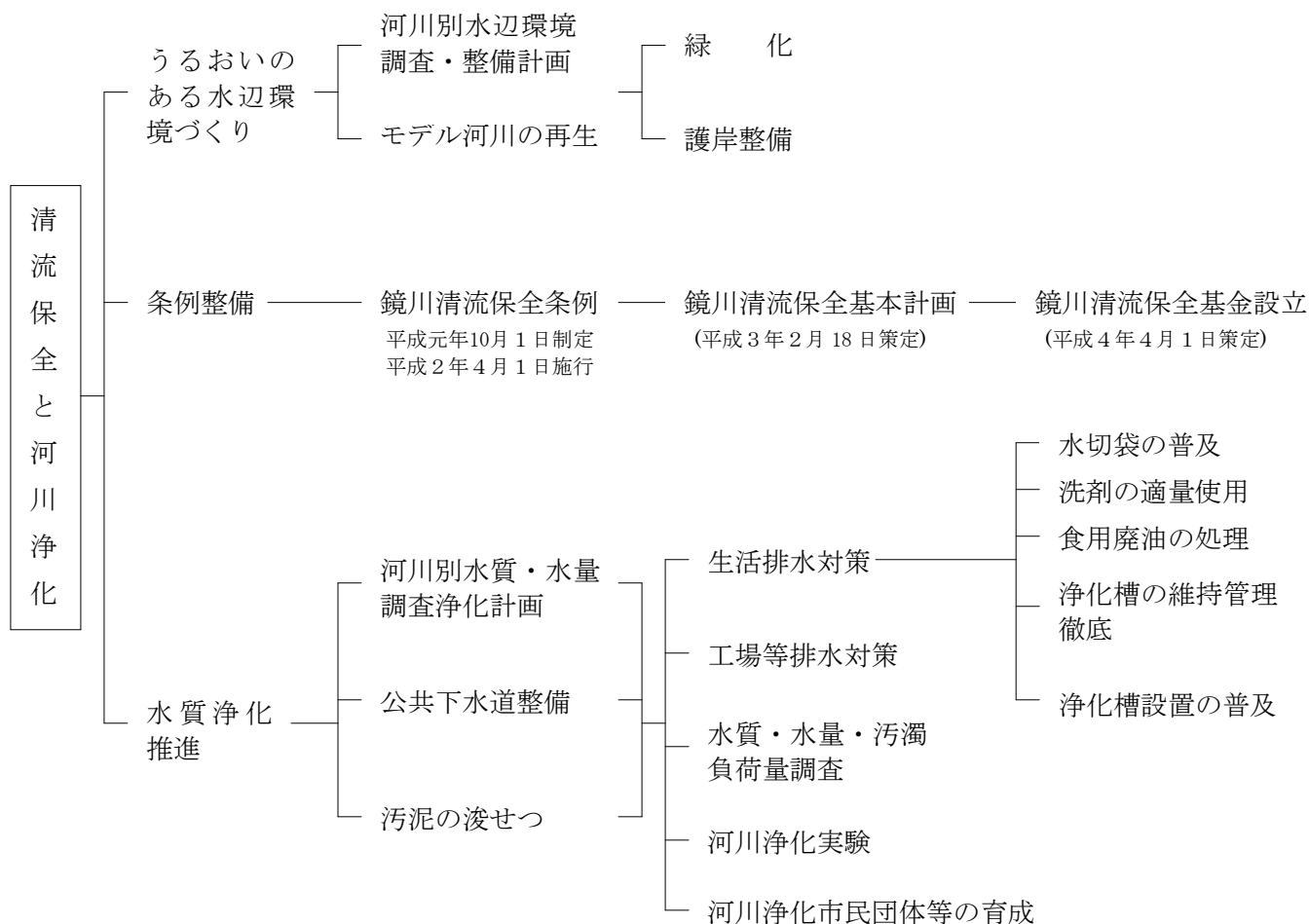
1-1 清流保全と河川浄化対策

本市の河川の状況は、かつては特定企業からの排水による水質の著しい汚濁に悩まされてきたが、法や条例による規制により、次第に水質も改善されてきた。しかし、最近では、汚濁源の内容及び状況とも変化してきている。例えば、私たちの日常生活行動から生じる生活雑排水や、心ない人たちによるごみの不法投棄、小規模事業場からの排水等、不特定多数の発生源により、再び川は徐々に汚染されてきている。

そうしたなか、生活水準の向上と価値観の多様化により、快適な水辺環境づくりに対する市民要求も高まりつつある。江ノ口川の再生や、鏡川の清流保全を中心とした市民団体の活動にもみられるように、今こそ川に対する認識を改め、一人ひとりが河川浄化のための運動に積極的に参加することが大切となってきている。

本市としても、河川浄化対策としての生活排水対策の推進、さらには清流保全のための条例整備など、快適な水辺環境の創出を総合的、計画的に進めていく。

清流保全と河川浄化推進のための体系図



(1) 鏡川清流保全対策

鏡川は、土佐山地区の細藪山^{ほそやぶやま}（標高 530.7m）に源流を発し、本市の中心部を東西に流れて浦戸湾に注ぐ総延長 31.1km、流域面積 170 km²の二級河川である。

鏡川の名の由来は、土佐藩 5 代藩主の山内豊房が、澄み切った清流であったところから「我が影を映すこと鏡の如し」ということで付けられ、これまで幾多の文化と歴史をはぐくみながら、市民の憩いの場として今なお多くの人々に親しまれている。

平成 17 年 1 月には、上流域の鏡村、土佐山村と合併し、それによって鏡川流域のすべてが高知市域におさまるという全国的にも珍しいケースとなり、後世に引き継いでいくことの重大さが改めてクローズアップされることとなった。

平成 19 年度から、県、市、市民とともに天然アユ 100 万尾を目指して、「森と海とまちをつなぐ環境軸」として鏡川を位置づけ取り組んでいる。

○ 鏡川清流保全の取り組み経過

- | | |
|---------|--|
| 昭和 44 年 | 高知市民憲章が制定され、その第 1 章に“鏡川を清潔なまちのシンボルにしよう”とうたわれる。 |
| 59 年 | 鏡川の清流を取り戻そうと、市民等有志によって鏡川研究会が発足する。 |
| 60 年 | 同研究会から高知市議会議長に鏡川清流保全に関する条例制定の陳情書が提出される。 |
| 60～62 年 | 鏡川清流保全調査を行い、自然環境の状況や水質調査、住民意識調査等を行う。 |
| 61 年 | 高知市、鏡村、土佐山村及び県の関係課によって、鏡川流域協議会が発足。続いて、庁内プロジェクトチーム「鏡川清流保全検討委員会」が発足する。 |
| 62 年 | 同検討委員会が市長に（仮称）鏡川清流保全条例案を答申する。 |
| 63 年 | 高知市公害対策審議会及び緑政審議会から（仮称）鏡川清流保全条例について原案了承の答申を得る。 |
| 平成元年 | 鏡川清流保全条例を制定し、鏡川清流保全審議会が設置される。 |
| 3 年 | 鏡川清流保全基本計画を策定する。 |
| 4 年 | 鏡川清流保全基金を設立する。 |
| 5 年 | 鏡川清流保全対策事業補助金交付要綱により、水質管理区域または自然環境保全区域内における清流保全及び環境整備のための事業助成を始める。 |
| 17 年 | 上流域の鏡村・土佐山村との合併に伴い、鏡川清流保全基本計画の見直しに取り組む。 |
| 18 年 | 新鏡川清流保全基本計画策定。 |

(2) 合併処理浄化槽設置費補助事業

生活排水による公共用水域の水質汚濁を防止するため、厚生省（現環境省）は昭和 62 年度より、家庭から出されるすべての排水（台所、トイレ、風呂、洗濯等の排水）を一括して処理する合併処理浄化槽の設置費補助事業を実施している。設置費の補助対象となる合併処理浄化槽は、BOD（生物化学的酸素要求量）除去率 90%以上であって、かつ放流水の BOD が 20mg/ℓ（日間平均値）以下の機能を有するものとされている。

本市でも平成元年度から補助事業を行っており、3 年度には補助対象地域について下水道認可区域を除く全市域に拡大し、さらに 10 年度からは、下水道認可区域内の下水道整備が当分の間見込まれない地域も補助対象地域とした。13 年度より、増加する需要に対応するよう、8 人槽以上の補助額を変更するとともに、補助方法の見直しを行った。さらに、14 年度から補助対象範囲を見直し、11 人槽以上及び店舗・建売住宅等の営業用建築物を補助対象外とした。

補助額（平成 19 年度から）

5 人槽	33 万 2,000 円
7・10 人槽	41 万 4,000 円

平成 10～21 年度合併処理浄化槽設置費補助実績

（単位：基）

年度	10	11	12	13	14	15	16
5 人槽	1 2 9	1 6 9	2 7 2	3 3 4	2 8 3	3 2 1	2 6 9
6～7 人槽	9 5	8 7	1 4 0	1 4 9	1 3 8	1 2 8	1 2 8
8～10 人槽	2 8	2 2	3 0	2 7	2 9	2 0	1 8
11～50 人槽	3 0	1 1	4 1	4 9	—	—	—
合 計	2 8 2	2 8 9	4 8 3	5 5 9	4 5 0	4 6 9	4 1 5
補助額（千円）	146,505	123,054	223,914	210,654	168,819	174,462	155,232

年度	17	18	19	20	21
5 人槽	2 4 8	2 3 4	1 8 4	2 0 7	2 0 3
6～7 人槽	1 1 9	8 4	8 1	8 2	6 6
8～10 人槽	1 2	2 0	1 2	1 1	1 0
11～50 人槽	—	—	—	—	—
合 計	3 7 9	3 3 8	2 7 7	3 0 0	2 7 9
補助額（千円）	141,633	125,580	99,590	107,226	98,860



1-2 動植物の保護

野生の鳥獣、昆虫、水生生物や樹木などの植物は、自然環境を構成する重要な要素の一つであり、自然環境を豊かにし、私達の生活環境に潤いを与えてくれる大きな要因にもなっている。

しかしながら、近年都市化の進行に伴い、これらの小動物や街中の緑を取り巻く環境は極めて厳しい状況となってきている。したがって、これらの貴重な小動物の生息実態を充分調査し、生息環境を守るとともに、清流の復活や餌木の植樹など市民の身近なところに生息環境を創出する必要がある。また、街中に残る巨樹や寺社跡などは、貴重な緑として守っていかなければならない。本市では鳥獣保護、ホタル保護及び保存樹木等の業務を行っているが、今後、さらに自然環境の保全を積極的に進めていく。

(1) 鳥獣保護

●鳥獣保護区

本市には、「鳥獣保護及び狩猟に関する法律」に基づき、鳥獣の保護、繁殖を目的として、鳥獣保護区が4か所設定されている。

保護区の指定は、地元住民や地権者の了承を得た上で、知事が指定し、保護区の存続期間は、原則として10年間である。

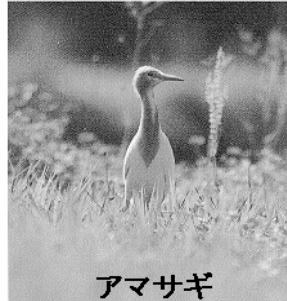
鳥獣保護区	生息鳥獣		地域概要
	鳥類	獣類	
①高ノ森 (森林鳥獣生息地) [面積] 270ha [存続期間] 自平成18年11月15日 至平成28年11月14日	キジ・コジュケイ・ウグイス・ホオジロ・アオジ・メジロ・カシラダカ・ミソサザイ・ビンズイ・モズ・ヒヨドリ・キジバト・トビ・ウズラ・シジュウカラ等	ノウサギ ハクビシン イタチ アナグマ ムササビ等	標高299.5mの高ノ森を中心としたこの地区は、15ha余りが北山県立自然公園区域内にあり、付近にはミカンの開放園等もあり市民の憩いの場となっている。 また、高ノ森は、戦国城跡として知られ、周辺には森林も多く、秋には一度に千羽以上のサシバの渡りが見られることもあり、双眼鏡を持って訪れる親子連れも多い。
②筆山 (誘致地区) [面積] 307ha [存続期間] 自平成15年11月15日 至平成25年11月14日	カワラヒワ・ヒバリ・メジロ・キセキレイ・シジュウカラ・コゲラ・エナガ・アオバズク・フクロウ・キビタキ・ツグミ・ヒヨドリ・オオルリ・コサギ・ウグイス・ツバメ・キジバト・モズ・コジュケイ・シロハラ・ムクドリ・キジ・ホオジロ等	ノウサギ タヌキ リス ハクビシン アナグマ イタチ ムササビ等	本市の市街地に近接し、筆山公園を中心とするこの地区は、樹齢百年以上の広葉樹林があり、周辺には草場が広がっている。 また、同地区には、特別天然記念物のミカドアゲハが生息し、春には、花見の行楽地としても市民に親しまれている。
③浦戸湾 (集団渡来地) [面積] 2,854ha (うち水面718ha) [存続期間] 自平成16年11月15日 至平成26年11月14日	コサギ・アオサギ・カルガモ・マガモ・コガモ・オナガガモ・ヒドリガモ・ヨシガモ・トビ・キンクロバジロ・コジュケイ・ハシビロガモ・ミサゴ・バン・ヤマドリ・コチドリ・メジロ・カワセミ・アカハラ・ツグミ・ハクセキレイ・シジュウカラ・ホオジロ・イソシギ・ツバメ・ムナグロ・ハマシギ・モズ等	タヌキ イタチ アナグマ ハクビシン リス ノウサギ等	本市の海の玄関、高知港のある浦戸湾を中心とするこの地区は、毎年約7~8種、4千~5千羽のカモが渡来することで知られている。 一方、この湾を囲む陸地部の山林は、広葉樹林がほとんどで、鷺尾県立自然公園の一部をはじめ千松、五台山、桂浜公園をも含む、市域最大の鳥獣保護区である。
④大津 (誘致地区) [面積] 235ha [存続期間] 自平成19年11月15日 至平成29年11月14日	キジ・キジバト・ウグイス・コサギ・タゲリ・タヒバリ・ヒバリ・アオジ・コジュケイ・ヒヨドリ・ツグミ・シロハラ・モズ・カワラヒワ・ムクドリ・セグロセキレイ・キセキレイ・ジョウビタキ・バン・ツバメ・ホオジロ・トビ・タシギ等	タヌキ イタチ等	舟入川南岸に接するこの地区は、田畑が広がり、鹿児神社をはじめ多くの森林が残っている。 また、付近には高天ヶ原古墳群などの歴史的遺跡などもあり、野生鳥獣の宝庫となっているため、自然を求めて訪れる市民も多い。

鳥獣保護区	生息鳥獣		地域概要
	鳥類	獣類	
⑤工石山 (誘致地区) [面積] 496ha 高知市 237ha [存続期間] 自平成16年11月15日 至平成26年11月14日	ホトトギス・カッコウ・コゲラ・ オオアカゲラ・セキレイ・ヒヨドリ・ ミソサザイ・トラツグミ・アカハラ・ ウグイス・オオルリ・エナガ・コガラ・ ヤマガラ・ゴジュウカラ・メジロ・ ホオジロ・カワラヒワ・カケス・ アオバト等	ニホンリス ムササビ ヤマネ ノウサギ タヌキ アナグマ ハクビシン イノシシ	工石山自然公園を中心としたこの地区の頂上付近の特別保護地区は、高木では、モミ・アカガシブナなどが混生し、また、中低木は、シキミ・ハイノキ等があり、周辺や南部地域には、コナラ群・シイ・カン萌芽林といった薪炭林のなごりが広がっている。 保護区内では、ほ乳類及び高山性の留鳥並びに夏鳥等の生息適地として重要な地区である。また、工石山は自然休養林の第1号に指定され、県民・市民に広く親しまれている。
⑥鏡ダム (森林鳥獣生息地) [面積] 120ha (うち水面50ha) [存続期間] 自平成19年11月15日 至平成29年11月14日	ゴイサギ・コサギ・オシドリ・マガモ・ ヒドリガモ・トビ・ヤマシギ・タンギ・ アオバズク・アオゲラ・コゲラ・モズ・ キビタキ・オオルリ・メジロ等	ハクビシン ノウサギ タヌキ ムササビ 等	鏡ダムを中心としたこの地区は、面積の約半分が水面部分であり、水鳥が多く観測されている。また、周辺には自然林が多く野生鳥獣も多く生息している。





セグロセキレイ
〈高知市の鳥〉



アマサギ



カワセミ



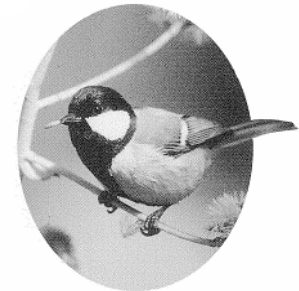
ヤマセミ



ヒドリガモ



ツグミ



シジュウカラ



メジロ



キジ

●愛鳥週間（5月10日～16日）

私たちの生活に安らぎとおいを与えてくれる野鳥を保護するため、昭和21年に当時のGHQ（連合国最高司令部）の勧告を受け、翌年、鳥類保護連盟が結成された。

そして、その最初の事業として、アメリカの同趣旨の催しにならない、4月10日をバードデーとして設定した。しかし、日本に渡り鳥が飛来し、野鳥の観察や保護を行うには、季節的に早すぎたこともあり、昭和25年からは5月10日とし、さらにバードウィーク（愛鳥週間）として発展させ、今日に至っている。

本市では、この愛鳥週間行事として、市民が自然の中で野鳥の姿を知り、自然環境について考える一つの機会となるようバードウォッチングを行っている。

●傷病鳥獣救護

傷病鳥獣の救護については、わんぱくこうち、はりまや動物病院、アリスペットクリニックの3か所が鳥獣救護施設として県から指定されている。

●鳥獣飼養許可

野鳥鳥獣の愛玩飼養は、本来の野生鳥獣の保護という理念に反し、鳥獣の乱獲を助長する恐れがある。したがって、できる限り野外での観察が望ましい。

現在、新たな野生鳥獣の飼養許可は、一世帯一羽のみでメジロだけに限られており、他の鳥獣については、過去に許可を受けたものの更新のみである。

また、平成元年4月16日より飼育鳥について密猟を防止するために、足輪の装着が義務づけられた。

(2) 保存樹木等

平成7年度の「緑の基本計画」の現況調査によると、都市計画区域内で46%の緑が残されているが、市街化区域には、わずか7%の緑しか残されていないのが現状である。その一方、市街化調整区域は、72%と比較的多く残されており、市民の基調な財産となっている。この残された緑を保護するため、次の表のとおり指定している。

保護指定の現況

指定の名称	説明	指定箇所数	指定年月日（昭和）	備考
特別自然保護地区	原生の状態及び学術上貴重な植生地域	2	50. 3. 1	玉島・衣ヶ島，朝倉神社山
保存樹木	健全かつ樹容が美観上優れているもので一定規模の樹木	54（本）	〃	イチョウ，クスノキ，エノキなど
保存樹林	健全かつ樹容が美観上優れているもので一定規模の樹林	25	〃	山内神社の森，高知八幡宮の森など

(3) ホタル保護

本市は、昭和 61 年 4 月 1 日「高知市ほたる条例」を公布し、同日施行した。その後、水道局や旭中学校によるホタルの飼育放流、旧環境課におけるホタルマップ作製及びホタルパトロールなど、様々なホタル保護施策が行われてきた。

しかし、市域周辺に広がる住宅団地の造成は、私たちの日常生活の利便性と引き換えに、ホタルをはじめとするこれら小動物の生息環境を悪化させ、知らず知らずのうちに身近な自然の喪失を招いており、本市のホタル保護の取り組みは決して進んでいるとはいえない。

これらを解決するために、早期に本格的な生息調査とこれに基づく保護条例等の法整備を行い、具体的施策によって保護政策を進めていく必要がある。

●条例制定までの経過

昭和 59 年 5 月から 6 月にかけて、本市朝倉地区において、県外業者によるホタル乱獲があり、自然保護団体を中心にホタル乱獲防止の住民要求が巻き起こった。同地区は本市でも比較的中心部に近い住宅地でありながら、農業用水が流れ、神社などの緑地が多く、ゲンジボタルの生息地である。

こうした状況に対応するため、当時の所管課であったみどり課が条例原案を作成。緑政審議会を経て、昭和 61 年 3 月議会に提出、同年 4 月 1 日「高知市ほたる条例」が制定された。

この条例は、ホタルの乱獲防止を目的とし、「業として」のホタル捕獲の禁止、「営利目的」での捕獲に対し、罰則（違反者に 10 万円以下の罰金を科す）を設けている。この条例施行により、ホタル生息地のホタルパトロールを行っている。

●主なホタルの生息地

- ゲンジボタル・ヘイケボタル
 - ① 朝倉神社付近
 - ② 鏡川上流域（七ツ淵，重倉，久礼野）
 - ③ 秦地区（宇津野，名切川上流）
 - ④ 旭・初月地区（紅水川，江ノロ川上流部と福井）
 - ⑤ 長浜地区（宇賀谷川上流部）
- ヒメボタル
 - ⑥ 神田地区（おおなる園）

ホタル生息地域図(旧高知市)



●ホタル保護の取り組み

○ホタルの里づくり推進事業

本市では、平成7年度から「ホタルの里づくり推進事業」を行うこととなり、「ホタルの里づくり」への取り組みを始めた。

この事業は、激減してきた市内のホタルの生息状況から、ホタルを守り、さらに子どもたちの手でホタルの幼虫を飼育・観察したものを河川に放流することによって、「ホタルの里づくり」を進め、自然環境の保全や復元を行っていかこうとするものである。この「ホタルの里づくり」を通じて、環境教育への実践活動につなげ、将来は、地域ぐるみのホタル保護活動によって「ホタルの里」を実現しようという内容である。

○ホタルパトロール

毎年5月から7月にかけて、成虫が飛びはじめる時期に生息地区の巡回パトロールを実施し、ホタルの生息調査や業者等による乱獲防止のための監視を行っている。



1-3 里山の保全

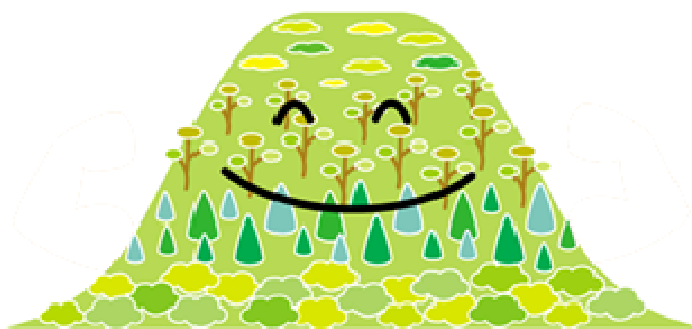
本市では、都市化の進展とともに、大規模な団地開発が進められるなど、市民の身近で貴重な自然が徐々に失われており、'98 豪雨では市内周辺部において 129 か所のがけ崩れが発生する一方、都心部の空洞化など都市構造のアンバランスによる様々な問題が発生している。

このような状況を是正し、自然と調和したうるおいと安らぎのある都市形成を目指して里山保全条例を制定（平成 12 年 4 月 1 日施行）した。

条例は、里山として保全したい地区を事前に調査し、土地所有者などや市民に周知を図りながら手続きを行って里山保全地区の指定を行うことや、保全地区では、土地所有者などの協力の下に、保全に関する協定を結んで保全を図ることなどをその内容としている。また、里山を市民とともに保全し、活用を図るために、土地所有者などと契約を結んで「市民の里山」として開放することも規定している。なお、里山保全地区に指定されると、建築や宅地の造成を行う場合は、届け出が必要である。

この条例に基づき、平成 12 年 6 月に「里山保全審議会」を設置するとともに、市街化区域内の里山から保全を目指すこととして、12 か所の調査を行った。その中から、鹿兎山、秦山、ノツゴ山の 3 地区について土地所有者や関係者へ説明会を行い、里山保全地区指定への理解を求め、秦山（4.4ha）について、13 年 9 月 1 日付けで指定を行った。また、土地所有者から申し出のあった葛島山（0.4ha）についても、同日付けで里山保全地区の指定を行った。

その後、里山保全協定の締結に向けた協議を行い、葛島山は、平成 15 年 4 月 1 日付けでその全部について、秦山は 16 年 4 月 1 日付けでその一部について里山保全協定の締結を行った。



2. 生活環境の保全

2-1 大気汚染

(1) 大気汚染の概要

大気汚染は、工事・事業場及び自動車等から排出される硫黄酸化物、窒素酸化物、一酸化炭素、粉じんなどにより引き起こされる。

本市の大気汚染には、古くから市民の関心と呼び問題となった潮江地区のばいじんがあった。このばいじんは港六社が主な発生源で、昭和 43 年に施行された大気汚染防止法に基づく措置があったが、十分な対策につながらず、潮江地区民の健康上、生活上の大きな問題となっていた。そこで潮江区民協議会や浦戸湾を守る会等の住民運動を背景として、47 年に法基準より厳しい内容で港六社と住民が公害防止協定を結んだ（49 年 2 月に改訂）。

こうした住民と行政の努力の結果が潮江地区のばいじんを飛躍的に減少させ、青空をよみがえらせることができた。

その後、昭和 48 年より市内 5 か所で降下ばいじん、市内 6 か所で硫黄酸化物の監視測定を行っている。（現在、降下ばいじんは 3 か所、硫黄酸化物は 4 か所。）

また、平成 10 年度には、大気汚染防止法に係る業務が県から移管され、大気常時監視測定、有害大気汚染物質測定を行っている。

(2) 大気環境の現況

常時測定局の環境基準適合状況（平成 21 年度）

測定物質 測定局	二酸化硫黄 (SO ₂)	二酸化窒素 (NO ₂)	一酸化炭素 (CO)	光化学 オキシダント (O _x)	浮遊粒子 状物質
南新田町	○	○		×	○
介良	○	○		×	○
はりまや町			○		
東城山町		○			○

備考：1. ○は環境基準達成、×は未達成を表す。ただし、二酸化硫黄、一酸化炭素、浮遊粒子状物質及び二酸化窒素については（※）長期的評価による。

2. はりまや橋及び東城山町の両測定局は、自動車排出ガス測定局である。

（※）長期的評価

大気汚染に対する施策の効果等を的確に判断するなど、年間にわたる測定結果を長期的に観察したうえで評価を行う場合は、測定時間、日における特殊事情が直接反映されること等から、次の方法により長期的評価を行う。

① 二酸化硫黄、一酸化炭素、浮遊粒子状物質

年間にわたる 1 時間値の 1 日平均値のうち、高い方から 2% の範囲にあるもの（365 日分の測定値がある場合は 7 日分の測定値）を除外して評価を行う。ただし、人の健康の保護を徹底する趣旨から、1 日平均値につき環境基準を超える日が 2 日以上連続した場合は、このような取扱は行わない。

② 二酸化窒素

年間にわたる 1 時間値の 1 日平均値のうち、低い方から 98% に相当するもの（1 日平均値の年間 98% 値）で評価を行う。

測定物質の環境基準

物質名	環境基準
二酸化硫黄	1時間値の1日平均値が0.04ppm以下であり、かつ、1時間値が0.1ppm以下であること。
一酸化炭素	1時間値の1日平均値が10ppm以下であり、かつ、1時間値の8時間平均値が20ppm以下であること。
浮遊粒子状物質	1時間値の1日平均値が0.10mg/m ³ 以下であり、かつ、1時間値が0.20mg/m ³ 以下であること。
光化学オキシダント	1時間値が0.06ppm以下であること。
二酸化窒素	1時間値の1日平均値が0.04ppmから0.06ppmまでのゾーン内またはそれ以下であること。

有害大気汚染物質の環境基準適合状況（平成21年度）

測定局	測定物質				
	ベンゼン	トリクロロエチレン	テトラクロロエチレン	ジクロロメタン	ダイオキシン類
介良	○	○	○	○	○
東城山町	○	○	○	○	○
針木東町					○
小石木町					○
和泉町					○
瀬戸					○
丸池町					○
長浜					○

測定物質の環境基準

物質名	環境基準
ベンゼン	一年平均値が0.003mg/m ³ 以下であること。
トリクロロエチレン	一年平均値が0.2mg/m ³ 以下であること。
テトラクロロエチレン	一年平均値が0.2mg/m ³ 以下であること。
ジクロロメタン	一年平均値が0.15mg/m ³ 以下であること。
ダイオキシン類	一年平均値が0.6pg-TEQ/m ³ 以下であること。

(3) 平成 21 年度調査結果

物質名	測定所	平均	検出下限
VOCs			$\mu\text{g}/\text{m}^3$
アクリロニトリル	介 良	0.017	0.013
	東 城 山	0.018	
塩化ビニルモノマー	介 良	0.022	0.0086
	東 城 山	0.023	
クロロホルム	介 良	0.1	0.012
	東 城 山	0.086	
1,2-ジクロロエタン	介 良	0.11	0.0098
	東 城 山	0.12	
ジクロロメタン	介 良	0.96	0.061
	東 城 山	1.1	
テトラクロロエチレン	介 良	N.D	0.030
	東 城 山	0.1	
トリクロロエチレン	介 良	0.026	0.015
	東 城 山	0.029	
1,3-ブタジエン	介 良	0.075	0.0052
	東 城 山	0.29	
ベンゼン	介 良	1.1	0.039
	東 城 山	1.6	
アルデヒド類			$\mu\text{g}/\text{m}^3$
アセトアルデヒド	介 良	2.0	0.019
	東 城 山	1.7	
ホルムアルデヒド	介 良	2.4	0.047
	東 城 山	2.6	
重金属類			ng/m^3
ニッケル化合物	介 良	2.0	0.0046
	東 城 山	2.7	
ヒ素及びその化合物	介 良	0.55	0.0044
	東 城 山	0.64	
ベリリウム及びその化合物	介 良	0.045	0.011
	東 城 山	0.045	
マンガン及びその化合物	介 良	28	0.010
	東 城 山	18	
クロム及びその化合物	介 良	2.6	0.0041
	東 城 山	2.1	
水銀及びその化合物	介 良	2.6	0.21
	東 城 山	2.0	
ベンゾ [a] ピレン			ng/m^3
ベンゾ [a] ピレン	介 良	0.079	0.0026
	東 城 山	0.17	
酸化エチレン			$\mu\text{g}/\text{m}^3$
酸化エチレン	介 良	0.053	0.0018
	東 城 山	0.062	

ダイオキシン類				pg-TEQ/m ³
ダイオキシン類	介	良		0.007
	針	木	東	0.023
	小	石	木	0.017
	和	泉	町	0.013
	瀬		戸	0.019
	丸	池	町	0.024
	長		浜	0.016

※ 測定値の平均には算術平均を用い、定量下限以上の値と定量下限未満で検出下限以上の値はそのままその値を用い、検出下限未満のものは検出下限の1/2の値を用いている。

●環境基準との対比

物質名		ベンゼン	トリクロロエチレン	テトラクロロエチレン	ジクロロメタン	ダイオキシン類
環境基準値		3	200	200	150	0.6
調査結果年間平均値	介良	1.1	0.026	N.D	0.96	0.007
	東城山	1.6	0.029	0.1	1.1	-
	針木東町	-	-	-	-	0.023
	小石木町	-	-	-	-	0.017
	和泉町	-	-	-	-	0.013
	瀬戸	-	-	-	-	0.019
	丸池町	-	-	-	-	0.024
	長浜	-	-	-	-	0.016

※ 単位：VOCsは $\mu\text{g}/\text{m}^3$ 、ダイオキシン類はpg-TEQ/m³

●硫黄酸化物、降下ばいじんの目標指標の適合状況

本市における平成21年度の目標指標の適合状況は、次のとおりである。

目標指標適合状況

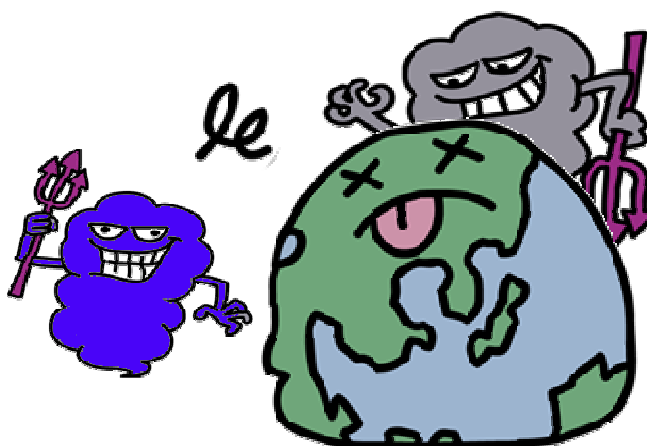
測定場所	測定物質	
	硫黄酸化物	降下ばいじん
高知市役所	◎	◎
中央卸売市場	◎	◎
仁井田木材団地	◎	◎
南新田測定局	◎	

- ◎は高知市公害防止基本計画の目標指標に適合
- 硫黄酸化物の測定方法は、二酸化鉛法である。
- 降下ばいじんの測定方法は、デポジット・ゲージ法である。

項目	指 標 値
硫 黄 酸 化 物	二酸化鉛法による SO ₂ 汚染度の判定基準のうちに汚染度第1度 (0.5 以上 1.0 未満 SO ₃ mg/100cm ² /日) 未満の状態に保つこと。
降 下 ば い じ ん	1) 工業地域 月平均 10t/km ² 以下 2) 上記以外の地域 月平均 7t/km ² 以下

汚 染 度	SO ₃ mg/100cm ² /日	評 価
汚染度 第1度	0.5 以上～1.0 未満	軽 微 な 汚 染
汚染度 第2度	1.0 以上～2.0 未満	普 通 度 の 汚 染
汚染度 第3度	2.0 以上～3.0 未満	中 程 度 の 汚 染
汚染度 第4度	3.0 以上～4.0 未満	や や 高 度 の 汚 染
汚染度 第5度	4.0 以上	高 度 の 汚 染

(参考) 二酸化鉛法による SO_x 汚染度の判定 (寺部)




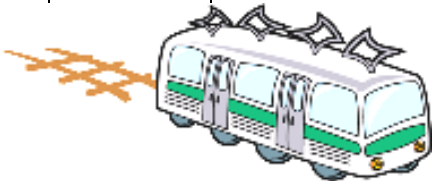
2-2 騒音・振動


(1) 騒音の概要

騒音の種類と主な発生源

騒音の種類	発生源
工場・事業場騒音	施盤、プレス、サンダー、帯のこ、コンプレッサーなどの工場事業所の機械
建設騒音	くい打機、ブルドーザー、バックホー、さく岩機などを使った建設作業
近隣騒音	カラオケ装置、ピアノ、空調設備、ボイラー、給水ポンプ、浄化槽のモーターや動物の鳴き声など
交通騒音	自動車や電車

騒音の大きさの例（単位 デシベル）

120	110	100	90	80	70
飛行機のエンジンの近く	自動車の警笛（前方2m）	電車が通るときのガード下	大声の独唱、騒々しい工場の中	地下鉄の車内	電話のベル、騒々しい事務所の中
					

60	50	40	30	20	デシベルとは
普通の会話	普通の事務所の中	静かな公園、図書館の中	深夜の郊外ささやき声	木の葉のふれ合う音	音に対する人間の感じ方は、音の強さ、周波数の違いによって異なります。騒音の大きさは、物理的に測定した騒音の強さに、周波数ごとの聴感補正を加味して、デシベルで表します。 実際には、騒音計のA特性（聴感補正）で測定した値を騒音レベルとして表示します。
					

(2) 工場・事業場騒音対策

① 対策の目標

工場騒音に対しては、市民がそれによって生活を妨害され、不快感を持つことがないような、静穏な環境が保持できることを長期的な目標として取り組んでいる。

また、当面の対策としては、法・条例で定められている規制基準値を目標に指導している。

当面の目標指標（規制基準値）

時間の区分		昼 間		朝 夕		夜 間	
		午前	午後	午前	午後	午後	翌朝午前
区域の区分		8時～7時		6時～8時, 7時～10時		10時～6時	
第1種区域	住居の用に供され、特に静穏の保持を必要とする地域	50 デシベル		45 デシベル		40 デシベル	
第2種区域	主として住居の用に供される地域	55 デシベル		50 デシベル		45 デシベル	
第3種区域	住居、商業、工場の混用地域	65 デシベル		60 デシベル		55 デシベル	
第4種区域	主として工業の用に供される地域	70 デシベル		65 デシベル		60 デシベル	

(注) 上の表の第3種および第4種区域で、特に静穏を要する地域は当該値から5デシベルを減じた値とする。

② 取り組みの基本的な考え方

騒音対策については、住居に係る地域（第1種地域、第2種地域）の公害工場を優先的にとりあげる。

この場合、住と工が混在し、現在地で対策を講ずることが困難なものは、都市計画サイドの取り組みや移転、集団化等の分離対策を積極的に進める。

騒音工場に対する取り組みは騒音の地区性が強く、また、影響がそのまま住民生活に現れるという特殊性を持っているので、関係住民や住民運動の求めを基本にして対策を推進する。

この場合、零細企業については、その条件を考慮して、資金対策を講じながら適切な対策を推進する。



(3) 振動の概要

公害における振動は、人間活動の結果発生する地盤振動が建物に伝わり、物的被害や生活妨害を生じさせるものである。振動発生源の主なものは、下記に掲げるとおりである。

- ① 工場振動 工場・事業所の金属加工機・印刷機などの機械の作業に伴う振動
- ② 建設作業振動 くい打ち、くい抜き機、砕岩機などの建設機械の作業に伴う振動
- ③ 自動車振動 大型自動車などの走行に伴う振動

振動レベルと振動による影響

振動レベル	気象庁震度階	睡眠影響
デシベル		
10	<ul style="list-style-type: none"> ・常時微動 ・人体に感じないで、地震計に記録される程度 	
50	無感(0)	
60	微震・静止している人や、特に地震に注意深い人(I) だけ感じる程度の地震	60 ほとんど影響はみられない。 65 睡眠深度(以下「深度」という) 1の場合は過半数が覚醒するが、深度2以上の場合、影響はみられない。
70	軽震・大勢の人に感じる程度のもので、戸、障子(II) がわずかに動くのがわかるくらいの地震	69 深度1の場合はすべて覚醒し、深度2以上では影響は小さい。 74 深度1, 2とも覚醒するケースが多く、深度3ではほとんどが覚醒せず多少眠りが浅くなる。
80	弱震・家屋が揺れ、障子がガタガタと鳴動し電灯(III) のようなつり下げ物は相当揺れ、器内の水面の動くのがわかる程度の地震	79 深度1, 2ともすべて覚醒し、深度3に対する影響は74デシベルより強い。
90	中震・家屋の振動が激しく、座りの悪い花瓶など(IV) は倒れ、器内の水はあふれ出る。また、歩いている人にも感じられ、多くの人々は戸外に飛び出す程度の地震	(注) 睡眠深度は浅い順に「覚醒」「1」「2」「3」となっており、すべて睡眠脳波から判定したものである。
100	強震・壁に割れ目が入り、墓石、石灯籠が倒れた(V) り、煙突、石垣などが破損する程度の地震	
110	烈震・家屋の倒壊30%以下で山くずれ、地割れが生じ、多くの人々は座っていることができない程度の地震	
	激震・家屋の倒壊が30%以上に及び、山くずれ、(VII) 地割れ、断層などを生じる。	

(4) 規制基準

特定工場に関する規制基準（高知市告示平成10年4月1日 第64号）

区域の区分		時間の区分	
		昼間 午前8時から 午後7時まで	夜間 午後7時から 翌日午前8時まで
第1種区域	指定地域のうち、特定工場等において発生する騒音についての時間及び区域の区分ごとの規制基準（平成10年度告示第59号以下「騒音規制基準」という。）による第1種区及第2種区域	60 デシベル	55 デシベル
第2種区域	指定地域のうち、騒音規制基準による第3種区域及び第4種区域	65 デシベル	60 デシベル

(5) 特定建設作動振動

●振動発生状況

建設作業は住家の近くで行われることが多く、また、一過性のものであることから基準がゆるやかであり問題となる例が多い。

●規制基準

基準 建設作業の種類	振動の 大きさ	作業ができない時間		1日当りの作業時間		同一場所における作業時間		日曜日 の作業
		第1号 区域	第2号 区域	第1号 区域	第2号 区域	第1号 区域	第2号 区域	
くい打機等を使用する作業、鋼球重錘を使用する作業等	75 デシベルを超える大きさのものではないこと	午後7時 ～ 午前7時	午後10時 ～ 午前6時	10 時間	14 時間	連続 6 日		禁止



2-3 悪 臭

(1) 悪臭の概要

一般的に悪臭は、多種類の物質が複合して構成されていることが多く、人の嗅覚に直接訴えるもので、感覚的被害を伴い日常生活環境をそこなうものである。

この悪臭公害は、近年周辺部の宅地開発等により悪臭発生源への住宅の接近、あるいは住工の混在や都市の過密化、衛生意識の向上等により発生している。

(2) 悪臭の規制について

悪臭防止法は昭和47年5月30日に施行され、48年9月19日、本市に事務が委任された。同法により、大気中の22物質、排水中の4物質が悪臭規制物質となっている。

敷地境界線における規制基準 (ppm)

規制物質名	規制基準		規制物質名	規制基準	
	1種区域	2種区域		1種区域	2種区域
ア ン モ ニ ア	1	5	ト ル エ ン	1×10	6×10
メチルメルカプタン	0.002	0.01	ス チ レ ン	0.4	2
硫 化 水 素	0.02	0.2	キ シ レ ン	1	5
硫 化 メ チ ル	0.01	0.2	酢 酸 エ チ ル	3	2×10
二 硫 化 メ チ ル	0.009	0.1	メチルイソブチルケトン	1	6
トリメチルアミン	0.005	0.07	イ ソ ブ タ ノ ール	0.9	2×10
アセトアルデヒド	0.05	0.5	プロピオンアルデヒド	0.05	0.5
プ ロ ピ オ ン 酸	0.03	0.2	ノルマルブチルアルデヒド	0.009	0.08
ノ ル マ ル 酪 酸	0.001	0.006	イソブチルアルデヒド	0.02	0.2
ノ ル マ ル 吉 草 酸	0.0009	0.004	ノルマルバレルアルデヒド	0.009	0.05
イ ソ 吉 草 酸	0.001	0.01	イソバレルアルデヒド	0.003	0.01

排水中における規制基準

排水水の流水 (m ³ /S)	Q ≤ 10 ⁻³		10 ⁻³ < Q ≤ 10 ⁻¹		10 ⁻¹ < Q	
	1種区域	2種区域	1種区域	2種区域	1種区域	2種区域
メチルメルカプタン (mg/ℓ)	0.03	0.2	0.007	0.03	0.002	0.007
硫 化 水 素 (mg/ℓ)	0.1	1	0.02	0.2	0.005	0.05
硫 化 メ チ ル (mg/ℓ)	0.3	6	0.07	1	0.01	0.3
二硫化メチル (mg/ℓ)	0.6	6	0.1	1	0.03	0.3

1種区域は臭気強度2.5に相当し、2種区域は臭気強度3.5に相当する。

(3) 悪臭物質の主要発生源

規制物質の主要発生源とにの性の性質は、次のとおりである。

物質名	に お い	主 な 発 生 源
ア ン モ ニ ア	し尿のようなにおい	畜産事業場，化製場，し尿処理場等
メチルメルカプタン	腐った玉ねぎのようなにおい	パルプ製造工場，化製場，し尿処理場等
硫 化 水 素	腐った卵のようなにおい	畜産事業場，パルプ製造工場，化製場，
硫 化 メ チ ル	腐ったキャベツのようなにおい	パルプ製造工場，化製場，し尿処理場等
二 硫 化 メ チ ル	〃	〃
トリメチルアミン	腐った魚のようなにおい	畜産事業場，化製場，水産缶詰製造工場
アセトアルデヒド	刺激的な青ぐさいにおい	化学工場，魚腸骨処理場，タバコ製造工場等
プロピオンアルデヒド	刺激的な甘酸っぱい焦げたにおい	焼付け塗装工程を有する事業場等
ノルマルブチルアルデヒド	〃	〃
イソブチルアルデヒド	〃	〃
ノルマルバレルアルデヒド	むせるような甘酸っぱい焦げたにおい	〃
イソバレルアルデヒド	〃	〃
イ ソ ブ タ ノ ー ル	刺激的な発酵したにおい	塗装工程を有する事業場等
酢 酸 エ チ ル	刺激的なシンナーのようなにおい	塗装工程又は印刷工程を有する事業場等
メチルイソブチルケトン	〃	〃
物質名	に お い	主 な 発 生 源
ト ル エ ン	ガソリンのようなにおい	塗装工程又は印刷工程を有する事業場等
ス チ レ ン	都市ガスのようなにおい	化学工場，FRP製品製造工場等
キ シ レ ン	ガソリンのようなにおい	塗装工程又は印刷工程を有する事業場等
プ ロ ピ オ ン 酸	刺激的な酸っぱいにおい	脂肪酸製造工場，染色工場等
ノ ル マ ル 酪 酸	汗くさいにおい	畜産事業場，化製場，でんぷん工場等
ノ ル マ ル 吉 草 酸	〃	〃
イ ソ 吉 草 酸	〃	〃

(4) 悪臭公害の発生状況

業種別臭気別発生状況

焼却・燃焼臭は、ダイオキシンなどごみ等の焼却・廃棄問題に対して関心が高まったことによるものである。

排水溝臭，浄化槽臭は，食品加工業等で排水処理施設を設置していない場合や，一般家庭も含めた浄化槽の維持管理が不適切な場合が多い。

シンナー臭等は小規模な車の修理工場や木工品塗装工場で，騒音苦情と同じく，工場と住居の混在が要因である。

2-4 水質汚濁

(1) 水質汚濁の概要

本市の公共用水域の状況は、市のほぼ中央部に位置する浦戸湾及びこれに流入する主要7河川からなっている。主要7河川とは、市の西部から浦戸湾に流入する久万川、江ノ口川、鏡川、新川川と東部から流入する国分川、舟入川、下田川である。

これらの主要河川や浦戸湾の水質は、全般的に見ると改善の傾向にある。しかし、近年小規模事業場や家庭排水等による河川の汚濁が目立ち始め、現状ではまだ環境基準を達成していないところが多い。

工場排水については、法や条例規制に基づく指導により次第に改善されてきたが、規制対象外の工場等や家庭排水等の対策については、下水道と合併処理浄化槽の特性を生かした形での効率的・効果的な整備を促進し、本市の公共用水域の水質保全に努める必要がある。

(2) 人の健康の保護に関する環境基準

項目	基準値	項目	基準値
カドミウム	0.01mg/1 以下	1, 1, 2-トリクロロエタン	0.006mg/1 以下
全シアン	検出されないこと。	トリクロロエチレン	0.03mg/1 以下
鉛	0.01mg/1 以下	テトラクロロエチレン	0.01mg/1 以下
六価クロム	0.05mg/1 以下	1, 3-ジクロロプロペン	0.002mg/1 以下
砒素	0.01mg/1 以下	1, 1, 1-トリクロロエタン	1mg/1 以下
総水銀	0.0005mg/1 以下	チウラム	0.006mg/1 以下
アルキル水銀	検出されないこと。	シマジン	0.003mg/1 以下
PCB	検出されないこと。	チオベンカルブ	0.02mg/1 以下
ジクロロメタン	0.02mg/1 以下	ベンゼン	0.01mg/1 以下
四塩化炭素	0.002mg/1 以下	セレン	0.01mg/1 以下
1, 2-ジクロロエタン	0.004mg/1 以下	フッ素	0.8mg/1 以下
1, 1-ジクロロエチレン	0.02mg/1 以下	ホウ素	1mg/1 以下
シス-1, 2-ジクロロエチレン	0.04mg/1 以下	硝酸性窒素 及び亜硝酸性窒素	10mg/1 以下

(3) 生活環境に係る環境基準（基準値は日間平均値とする）

ア. 河川（湖沼を除く）

項目	類型 利用目的の 適応性	基準値				
		水素イオン 濃度 (pH)	生物化学的 酸素要求量 (BOD)	浮遊 物質 量 (SS)	溶存 酸素量 (DO)	大腸菌群数
AA	水道1級 自然環境保全 及びA以下の 欄に掲げるもの	6.5以上 8.5以下	1mg/1以下	25mg/1 以下	7.5mg/1 以上	50MPN/100ml 以下
A	水道2級 水産1級 水浴 及びB以下の 欄に掲げるもの	6.5以上 8.5以下	2mg/1以下	25mg/1 以下	7.5mg/1 以上	1,000MPN /100ml以下
B	水道3級 水産2級 及びC以下の 欄に掲げるもの	6.5以上 8.5以下	3mg/1以下	25mg/1 以下	5mg/1以上	5,000MPN /100ml以下
C	水産3級 工業用水1級 及びD以下の 欄に掲げるもの	6.5以上 8.5以下	5mg/1以下	50mg/1 以下	5mg/1以上	—
D	工業用水2級 農業用水 及びEの欄に 掲げるもの	6.0以上 8.5以下	8mg/1以下	100mg/1 以下	2mg/1以上	—
E	工業用水3級 環境保全	6.0以上 8.5以下	10mg/1以下	ごみ等の 浮遊が認めら れないこと。	2mg/1以上	—

イ. 海域

項目	類型 利用目的の 適応性	基準値				n-ヘキサン 抽出物質 (油分など)
		水素イオン 濃度 (pH)	化学的 酸素要求量 (COD)	溶存 酸素量 (DO)	大腸菌群数	
A	水道2級 水浴 およびB以下の 欄に掲げるもの	7.8以上 8.3以下	2mg/1以下	7.5mg/1 以上	1,000MPN /100ml 以下	検出されな いこと。
B	水産2級 工業用水 およびC以下の 欄に掲げるもの	7.8以上 8.3以下	3mg/1以下	5mg/1以上	—	検出されな いこと。
C	環境保全	7.0以上 8.3以下	8mg/1以下	2mg/1以上	—	—

(4) 水生生物の保全に係る水質環境基準

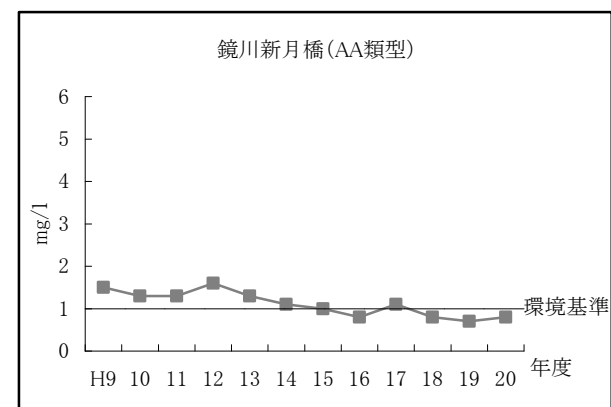
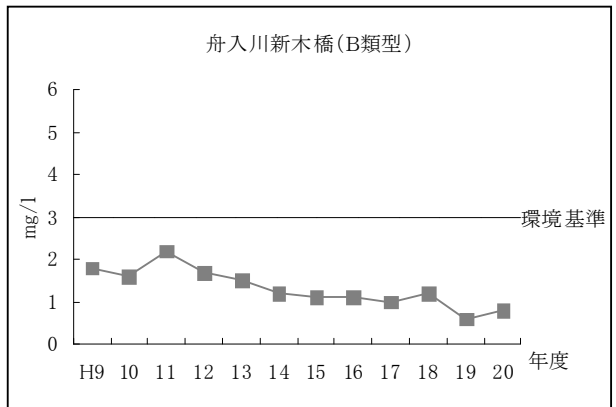
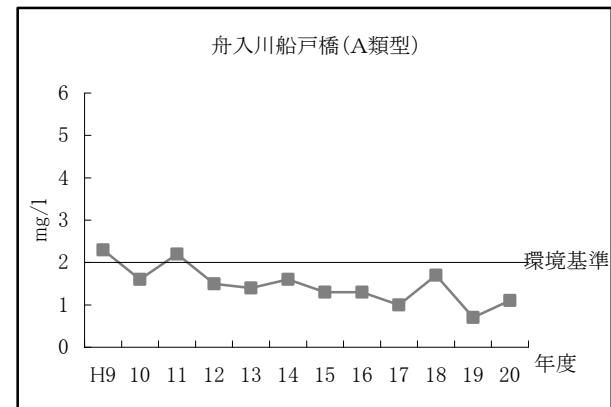
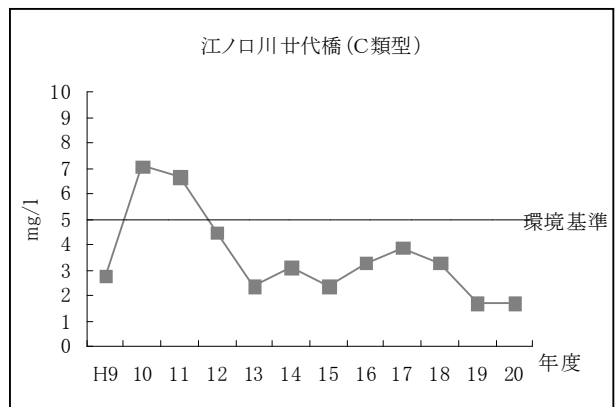
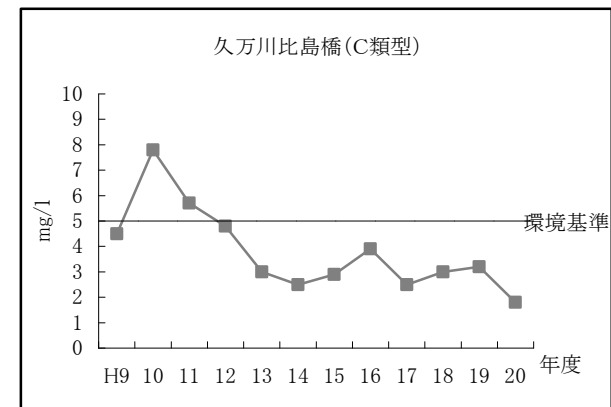
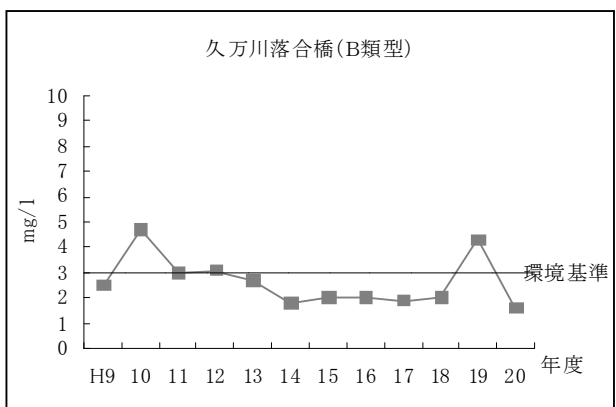
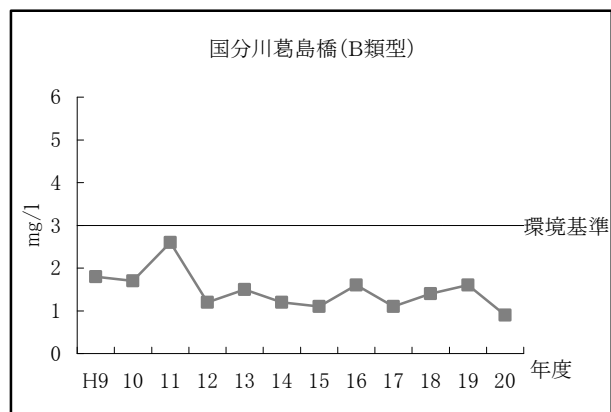
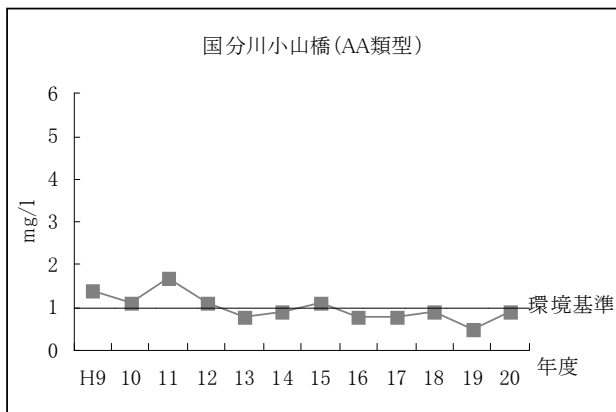
項目 類型	水生生物の生息状況の適応性	基準値
		全重鉛
生物A	イワナ、サケマス等比較的低温域を好む水生生物及びこれらの餌生物が生息する水域	0.03mg/1以下
生物特A	生物Aの水域のうち、生物Aの欄に掲げる水生生物の産卵場（繁殖場）又は幼稚子の生育場として特に保全が必要な水域	0.03mg/1以下
生物B	コイ、フナ等比較的高温域を好む水生生物及びこれらの餌生物が生息する水域	0.03mg/1以下
生物特B	生物Bの水域のうち、生物Bの欄に掲げる水生生物の産卵場（繁殖場）又は幼稚子の生育場として特に保全が必要な水域	0.03mg/1以下

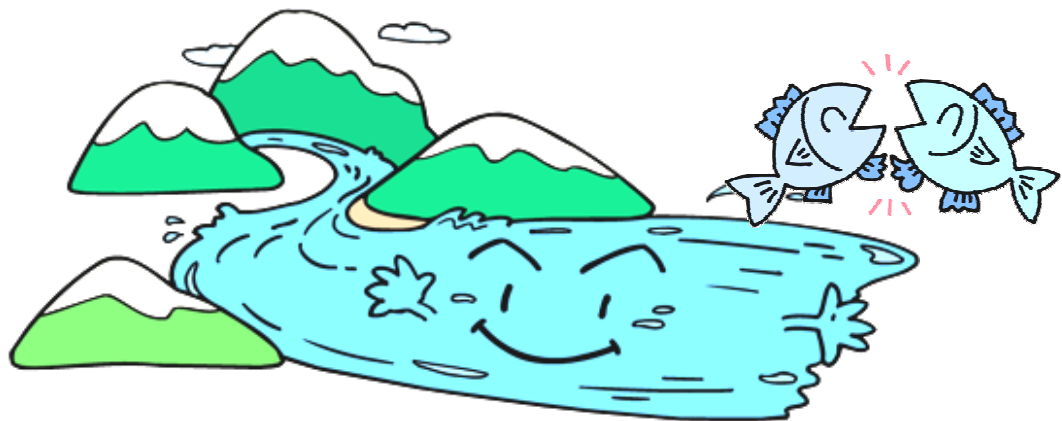
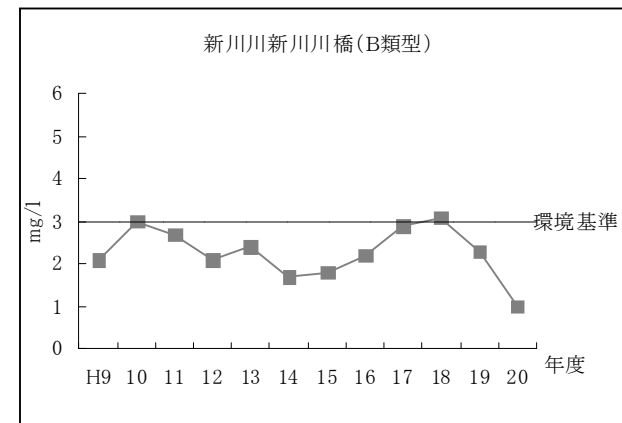
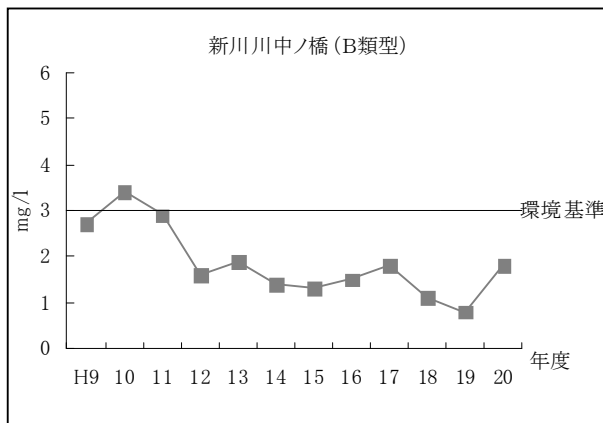
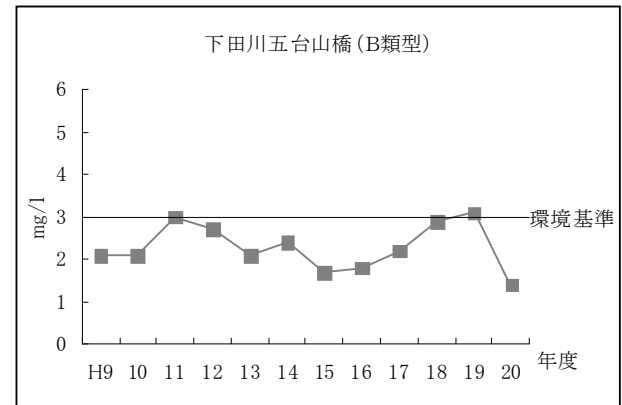
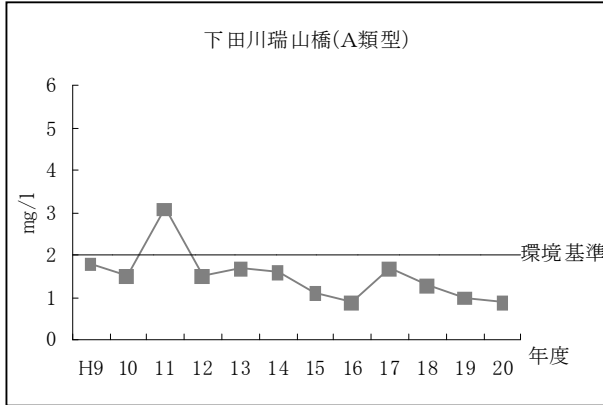
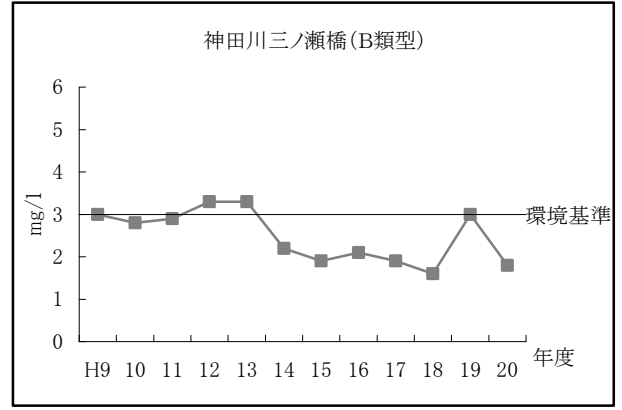
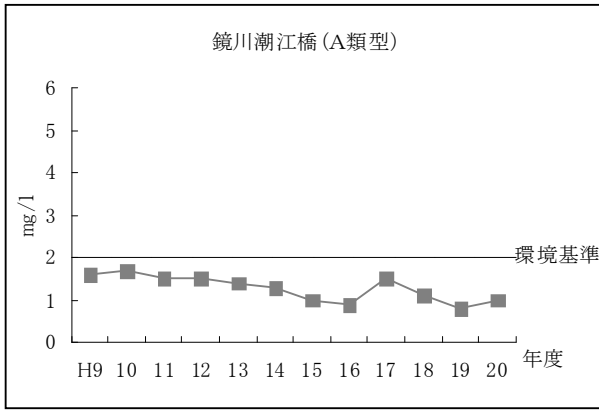
(5) 水質汚濁の現状

本市における公共用水域については、毎年度作成する「公共用水域の水質測定計画」に基づいて市が測定し、調査を行っている。調査地点は、鏡ダムサイトの2地点、河川の25地点、浦戸湾内外の海域17地点、その他絶海池・住吉池の2地点の計46地点である。

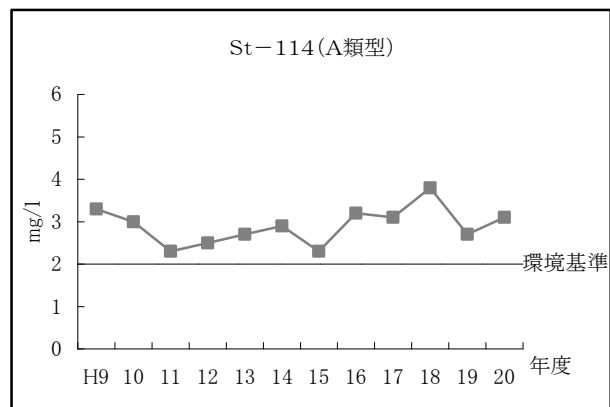
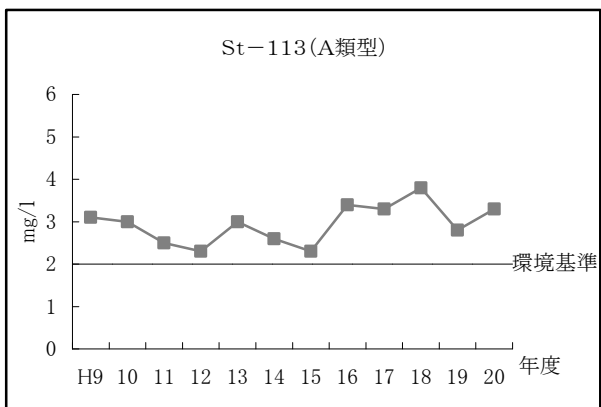
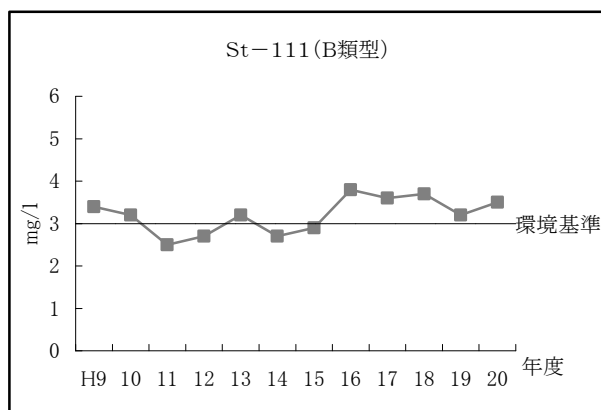
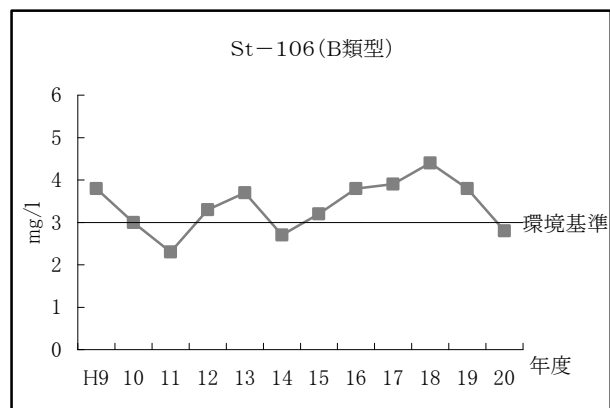
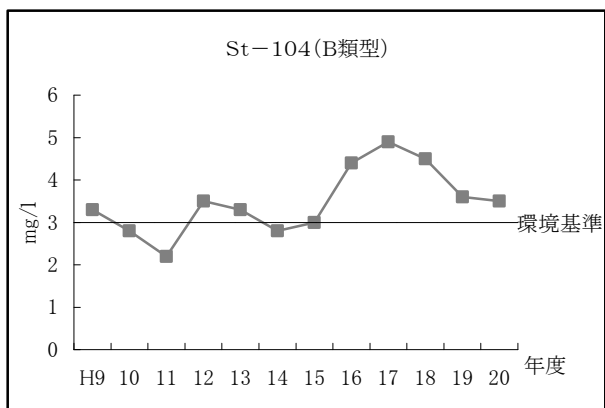
この調査結果に基づき、市内各河川等の汚濁状況を取りまとめると次ページからのとおりである。

河川BOD経年変化



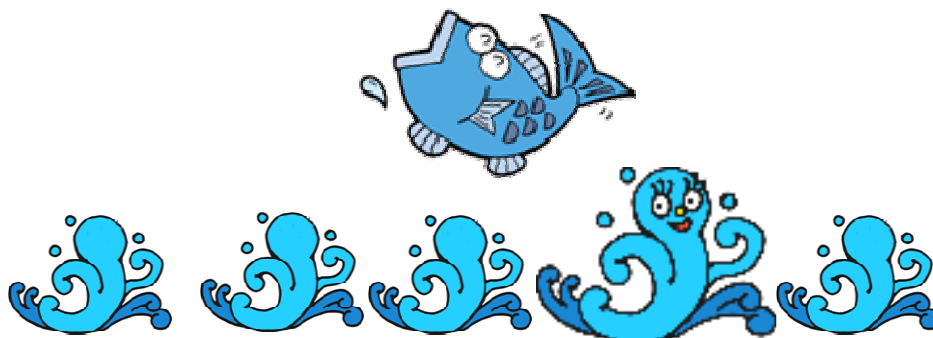


海域COD経年変化



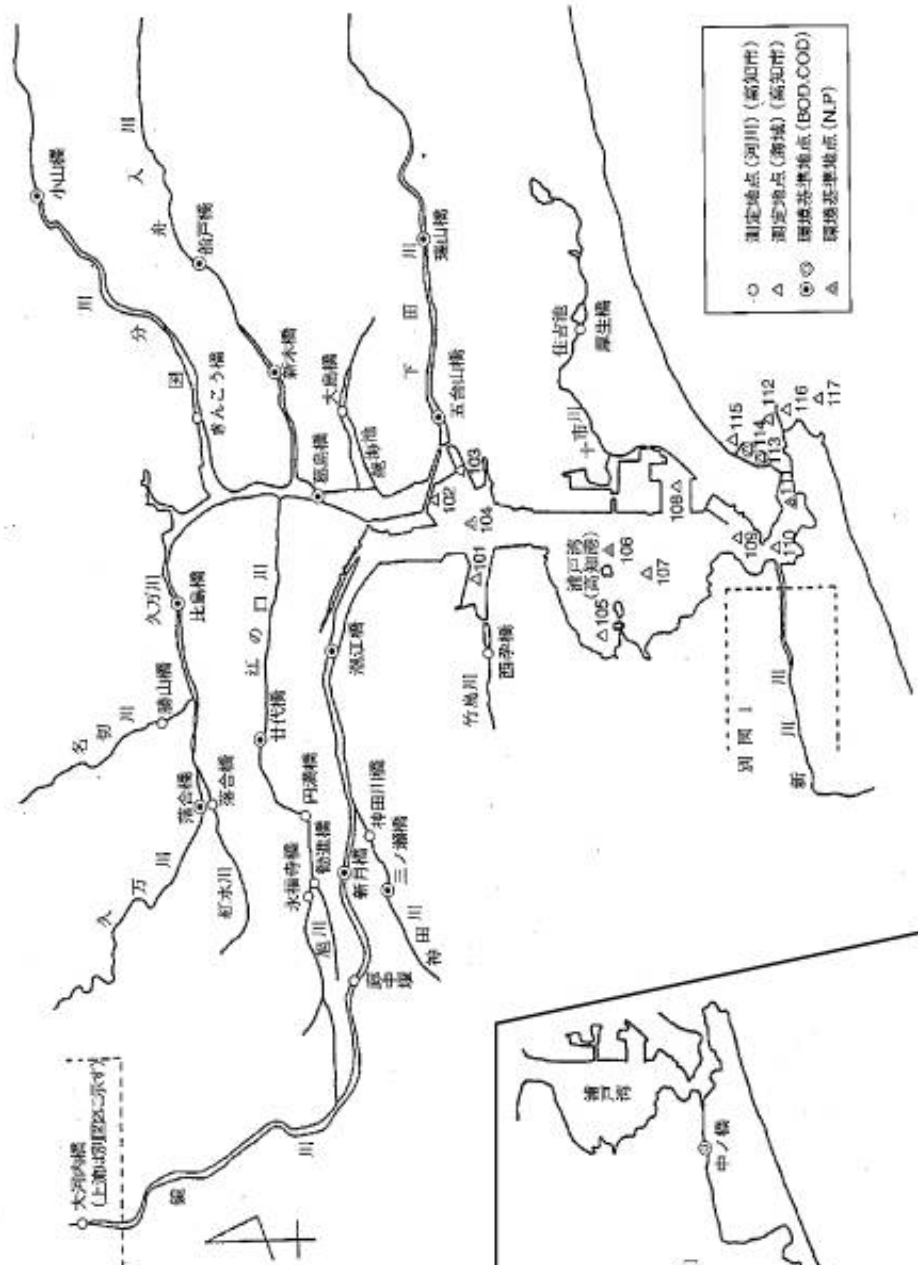
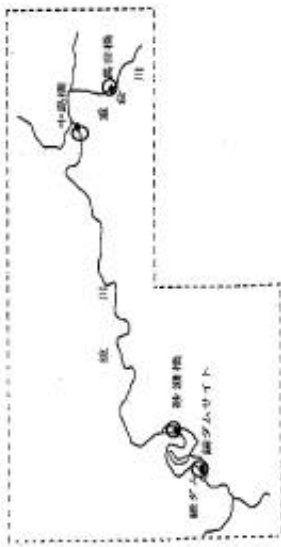
(注)測定地点St-104, St-106及びSt-111は, 浦戸湾高知港内の海域……高知港(乙)

測定地点St-113及びSt-114は, 浦戸湾種崎海水浴場の海域……高知港(甲)



浦戸湾水域

別図2 (鏡川)



- 測定地点 (河川) (高知市)
- △ 測定地点 (海城) (高知市)
- ◎ 環橋基準地点 (BOD, COD)
- ▲ 環橋基準地点 (N, P)

別図1 (新川川、派川甲駱川)



2-5 地盤沈下

(1) 地盤沈下の概要

地盤沈下は、一般に地下水の過剰なくみ上げなどによって、地下水位が低下し地盤が沈下する現象であり、ひとたび沈下するとその復元は、ほとんど不可能である。

本市の地盤沈下は、鏡川及び国分川の両河口を中心とした地域で続いている。その累積沈下量は、水準測量を開始した昭和48年から平成15年までの30年間に、沈下の激しい地点の1つである南久保卸商センターで約18.6cmにも及ぶ。同じく沈下の激しい地点の1つである下知下水処理場では、地盤沈下計による継続調査の結果、昭和58～平成15年度の20年間に約7.7cmの沈下がみられた。その他の地点では、1～10cmと比較的ゆるやかな沈下である。

(2) 沈下原因

地盤沈下の原因が地下水の過剰なくみ上げにあるというのは、現在では定説となっているが、その他にも様々な要因が指摘されている。特に本市の地盤沈下地域が、形成されて間もない三角州に当たることから、圧縮収縮等の要因も考えられる。

沈下原因

- ① 地下水の過剰なくみ上げ
- ② 圧密沈下、軟弱地盤の自重による圧密作用
- ③ ビル構造物等による荷重
- ④ 地表水の地下浸透のしゃ断……地下水の減少
道路舗装、河川改修（三面張り）等による。
- ⑤ 交通振動等による「しめ固め」
- ⑥ 地殻変動

(3) 監視測定

沈下原因を究明し、対策に結びつけるため次の調査を実施している。

・地盤高精密水準測量

昭和48年に27か所の水準点を設け、市内の地盤沈下量を測定している。

・地盤沈下計による調査

沖積層および洪積層上部の粘土層の圧密収縮による沈下量を測定し、地下水汲上げとの関係を探る。

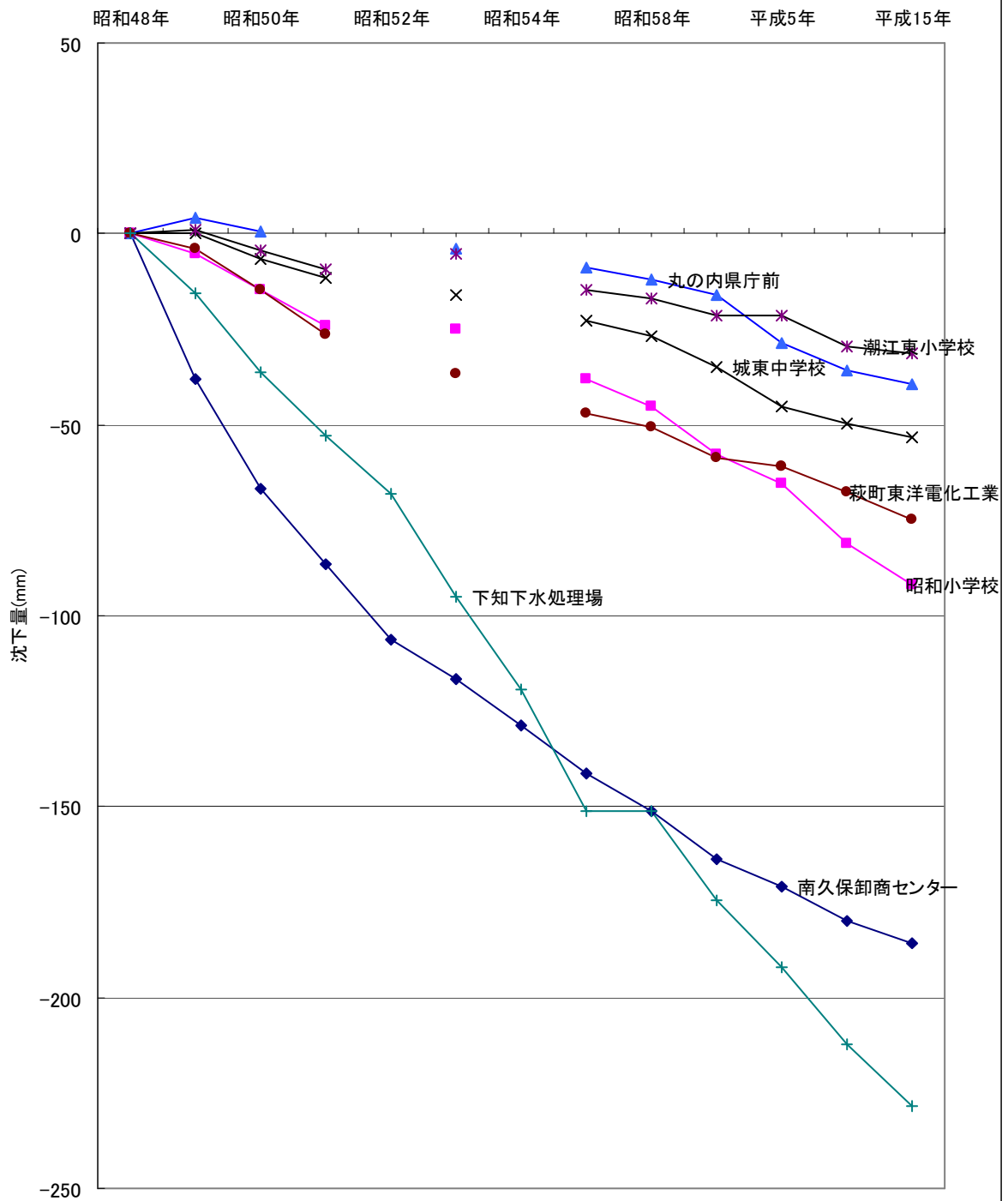
・地下水位・水質調査

地盤沈下に際して、地下水には様々な変化が表れる。地下水位の低下・涸渇・水質面では濁度・鉄・マンガンの増加等である。本市は、市内に2か所の観測井を設け、測定に当たっている。

地下水観測井

- ① 下知下水処理場 水位、地盤沈下
- ② 鷹匠公園 水位

地盤沈下量



注) グラフの途切れている部分は実績値なし

2-6 公害苦情

市民の生活環境を広域的に阻害する、いわゆる公害と言われるものは、近年、本市においてはほとんど影をひそめ、これに代わって最近特に目立ち始めたものに、近隣公害的なものや零細企業による公害発生に対しての苦情などがある。この問題にどう対処していくのかが今後の課題である。

なお、公害に関する陳情・苦情については、その性質からできる限り迅速かつ的確な処理を心掛けている。

受理件数と処理件数

年度	大気汚染		水質汚濁		悪臭		騒音・振動		その他		計	
	受理	処理	受理	処理	受理	処理	受理	処理	受理	処理	受理	処理
13	78	77	14	14	33	33	29	28	34	34	188	186
14	66	65	13	13	34	34	41	40	14	14	168	166
15	48	48	5	5	9	9	27	26	17	17	106	105
16	57	57	7	7	9	9	24	24	43	43	140	140
17	42	42	6	6	10	10	27	25	40	40	125	123
18	89	89	7	7	9	9	17	17	71	71	193	193
19	64	64	2	2	4	4	13	13	131	131	214	214
20	175	175	2	2	0	0	3	3	275	275	455	455
21	168	168	1	1	3	3	6	6	185	185	363	363



2-7 ダイオキシン類

近年、人体への影響が指摘され、社会問題にも発展したダイオキシン類は、人工物質としては最強の毒性を持つと言われている。ダイオキシン類は、「ポリ塩化ジベンゾーパラジオキシン」、「ポリ塩化ジベンゾフラン」と「コプラナーPCB」の3物質に大きく分けられるが、発生メカニズムは非常に複雑であり、詳しい発生プロセスは完全に解明されておらず、高温で燃やせば分解されることや不完全燃焼によって発生しやすくなることなどが知られているだけである。

本市では、ダイオキシン類対策として、ダイオキシン類対策特別措置法や平成11年4月に制定した「高知市ダイオキシン類による健康被害の防止及び生活環境の保全に関する条例」に基づき、ダイオキシン類による環境汚染状況を把握するため、ダイオキシン類の濃度測定を行っている。また、12年度には、同条例に基づき、ダイオキシン類の発生及び排出を抑制するための施策の大綱や指導基準などを盛り込んだ「高知市ダイオキシン類抑制計画」を策定した。

平成21年度ダイオキシン類調査結果

	開始年度 (平成)	調査地点数	環境基準値	調査結果		
				最大値	最小値	平均値
大 気 (pg-TEQ/m ³)	10	7	0.6	0.024	0.007	0.026
土 壌 (pg-TEQ/g)	10	1	1000	0.039	0.039	0.039
水 質 (pg-TEQ/l)	12	7	1	0.3	0.035	0.13
底 質 (pg-TEQ/g)	11	5	150	26	0.95	10.0



3. 地球環境の保全

3-1 地球温暖化

私たちが住んでいる地球の気温は、太陽からの入射エネルギーと地球からの放射エネルギーのバランスにより決定される。現在、地球の表面温度は約15℃となっているが、地球に二酸化炭素や水蒸気が存在しなければ、-18℃程度となる。この差の33℃が、いわゆる「大気の温室効果」といわれるもので、これがなければ、私たちの住む世界はずいぶん違った様相をみせたのかもしれない。

この温室効果ガスによる気候変動の見通し、自然、社会経済への影響評価及び対策に関する評価を担当しているのが「気候変動に関する政府間パネル（IPCC）」である。この組織のなかで、地球温暖化に関する科学的知見を集約している第1作業部会の報告書（以下、「報告書」という。）によると、世界の平均気温は、この100年間（1906年～2005年）で0.74℃上昇したとされている。また、日本の平均気温（17観測地点の平均）も、長期的には100年当たり1.07℃の割合で上昇しており、特に1990年代以降、高温となる年が頻出している。

こうした中で、地球温暖化の原因となる温室効果ガスの削減を図るため、平成9年に京都議定書が採択され、17年2月に発効し、6%の削減目標の達成が義務付けられた。

(1) 高知市の事務事業に伴う温室効果ガス排出量

本市では、平成13年3月に地球温暖化防止のための行動計画として、「高知市環境保全率先実行計画（地球温暖化対策推進実行計画）」を策定し、18年度からは第2次計画として、温室効果ガスの排出抑制につとめている。この計画では、本市の事務・事業の実施に伴って排出される温室効果ガスの総排出量を、11年度を基準として18年度から22年度までに7.7%削減することを目標としている。

高知市の事務事業に伴う温室効果ガスの排出量

温室効果ガスの種類	排出源	11年度排出量 (kg-CO ₂)	ガス別 割合 (%)	20年度排出量 (kg-CO ₂)	ガス別 割合 (%)
二酸化炭素 CO ₂	電気の使用、燃料の使用 など	66,982,150	90.73	51,300,682	87.78
メタン CH ₄	埋め立てごみの分解、下 水処理など	3,202,970	4.34	3,823,763	6.54
一酸化二窒素 N ₂ O	ごみの焼却、自動車の走 行、下水処理など	3,631,682	4.92	3,310,179	5.66
ハイドロフルオロカーボン HFC	HFC封入カーエアコン の使用	7,235	0.01	7,527	0.01
総排出量		73,824,037	100.00	58,442,148	100.00

環境省「実行計画策定マニュアル・温室効果ガス総排出量算定方法ガイドライン」（平成19年3月）により算出

(2) 土佐から始まる環境民権運動

本市では、「環境維新・高知市」～土佐から始まる環境民権運動～を旗印に地球温暖化防止に向けた温室効果ガスの削減に取り組んでおり、その一環として、産・学・官・民の総力を結集し、将来にわたって、地球環境保全を考えた行動を実践することとしている。

その取り組みの一つとして、積極的な環境保全活動に取り組むあらゆる分野の事業者や団体等を対象に、パートナー協定―「土佐から始まる環境民権運動推進協定」―を結び、事業者のエコ活動を応援していく。

その第一段として、平成21年11月12日、市民の生活にかかわりの深い事業者や市民団体等を対象に、協定の締結を行った。

この協定は、次世代の子どもたちにより良い地球環境を引き継ぐため、協定参加者相互の役割を自覚し、地球に優しい環境活動を推進することで、持続可能な低炭素・資源循環型都市「高知市」の形成に寄与することを目的としている。

そのため、協定参加者が相互に綿密なパートナーシップを形成して、高知市域における持続可能な低炭素・資源循環型社会の形成に取り組んでいる。具体的には、市内の各事業者が①レジ袋の削減、②レジ袋以外の容器包装の削減、③ペットボトルをはじめとする再生可能なプラスチック類等の店頭回収によるリサイクルの推進、④環境・リサイクルを考慮した商品の積極的な販売、⑤店舗や事業所でのごみの減量、適正な分別及びリサイクルの実施、⑥従業員への環境教育や啓発活動の実施、⑦食材の地産地消の推進、⑧その他資源循環型社会の形成に向けた事業活動の8つの取り組みのうち、可能なものを実施。市民団体等はマイバッグの持参や過剰包装の拒否等により、これを支援・協力し、市は事業者の取り組みの成果をホームページ等で公表するなど、積極的な広報、啓発を行うものとしている。

また、この環境民権運動を実施するにあたり、市民から環境キャラクターを公募し、それを活用したのぼり旗を店舗等に設置し、「環境にやさしいお買い物キャンペーン」を実施するなど、取り組みを進めていった。

「土佐から始まる環境民権運動推進協定締結式」



環境維新・高知市
マスコットキャラクター「ケちゃん」

土佐から始まる環境民権運動推進協定締結者一覧

事業者	
1	イオンリテール株式会社ジャスコ高知店
2	株式会社エヴィ
3	株式会社エースワン
4	こうち生活協同組合
5	有限会社幸町スーパーマーケット
6	株式会社サニーマート
7	株式会社サンシャインチェーン本部
8	株式会社サンプラザ
9	株式会社トーヨー
10	株式会社ナンコクスーパー
11	ピアース升形店
12	株式会社フジ
13	株式会社マイカル 高知サティ
14	株式会社マルナカ

(五十音順)

市民団体等	
1	高知県地球温暖化防止活動推進センター
2	高知市衛生組合連合会
3	高知市小中学校PTA連合会
4	高知市消費者団体・グループ代表者会
5	高知市町内会連合会



(3) よさこいECOライフチャレンジ

日常生活のライフスタイルを見直し、地球温暖化防止に向けた取り組みを各家庭や事業者等からも推進していくため、「よさこいECOライフチャレンジ」を実施している。これは電気、ガスなど日常よく使われているエネルギーについて、利用の仕方等を見直してもらい、優秀な結果やユニークな取り組みを実施した家庭、事業者には表彰を行い、さらに、成果等をホームページで紹介することにより、他の家庭等でもエコライフの取り組みが広がっていくよう啓発、推進していくもの。

公募にあたっては環境民権運動推進協定に参加する事業者の店舗でのチラシ配布や、市民団体等が行うイベントに参加するなど、協働に努めた。

(4) こうちエコ・ニコ商店街

環境保全の推進に積極的に取り組んでいる商店街等を高知市が「こうちエコ・ニコ商店街」として認定し、これを広く市民に周知することにより、消費者、商店街及び行政が一体となった環境保全への取組みの推進を図っていくもの。



「土佐から始まる環境民権運動」

のぼり旗



ECO活動PR用ボード

平成22年10月に、「こうちエコ・ニコ商店街」第1号として認定された大橋通り商店街振興組合でオープニングセレモニーを開催。アーケード内にのぼり旗を立て、店舗店頭へPR用ボードを設置することで、街をあげてECO活動に取り組んでいることをPRしている。

3-2 オゾン層の破壊

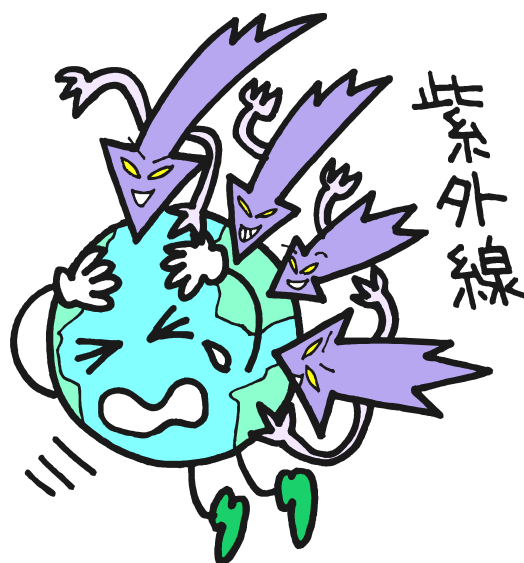
オゾン層は、成層圏下層にあるオゾンを多く含む層で、生物に有害な紫外線の多く（約90%）を吸収し、地球上の生命を守っている。

オゾン層破壊とは、大気中に放出されたフロンガスが分解されずに成層圏にまで達し、そこで太陽からの紫外線によって分解され、塩素原子を放出し、これが媒介作用によってオゾンと反応することにより、次々と連鎖的にオゾン層を破壊していくことをいう。

この結果、地上に達する有害な紫外線の量が増えることにより、皮膚ガン、白内障、免疫力の低下などの健康被害の増加、農作物の収穫の減少、生物の突然変異（生態系への悪影響）等の悪影響が心配される。

オゾン層が破壊されると、その回復には長い時間を要し、また、その被害は全世界に及ぶ。

フロンガスは、冷蔵庫やエアコンの冷却媒体として、また、スプレーの発泡剤、噴霧剤、また、洗浄剤として使用されてきた。現在、世界的にフロン等の生産全廃などが規定されているが、これまで使用されてきた機器に含まれている残存フロンの回収処理を適正に行っていく必要がある。



3-3 酸性雨

酸性雨とは、硫黄を含む化石燃料（石油や石炭）を燃焼した際に発生する硫黄酸化物や、自動車のように高温で燃料を燃やした際に発生する窒素酸化物といった微量物質が大気中で硫酸・硝酸などに变化したあと、発生源周辺で乾性降下物として地上に降下したり、遠くまで飛散していった水分に溶け込み、強度の酸性度を示す雨として地上に落下する現象をいう。

酸性雨は一般的に「水素イオンが pH5.6 以下のもの」とされており、湖水は pH6.0 まで下がるとある種の生物が棲めなくなり、pH5.5 まで下がると魚が死滅してしまう。また、森林では pH3.0 以下の酸性雨が降りそそぐと可視的障害や成長抑制をもたらすことなど、生態系に影響を及ぼすことが明らかになっている。

日本でも酸性雨は観測されているが、その被害は目に見える形で問題とはなっていない。しかし、欧米諸国では早くから酸性雨の問題は取りざたされており、国境を越え、森林や湖沼に被害を受けている例が多くある。

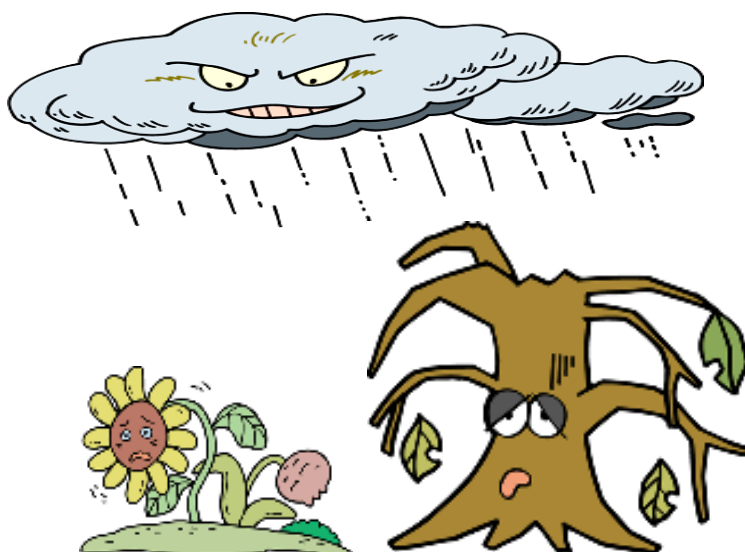
本市では、昭和 63 年度より市内 5 地点（平成 16 年度から 4 地点に変更）において酸性雨の監視測定を開始し、毎回ではないものの、酸性雨が測定されている。

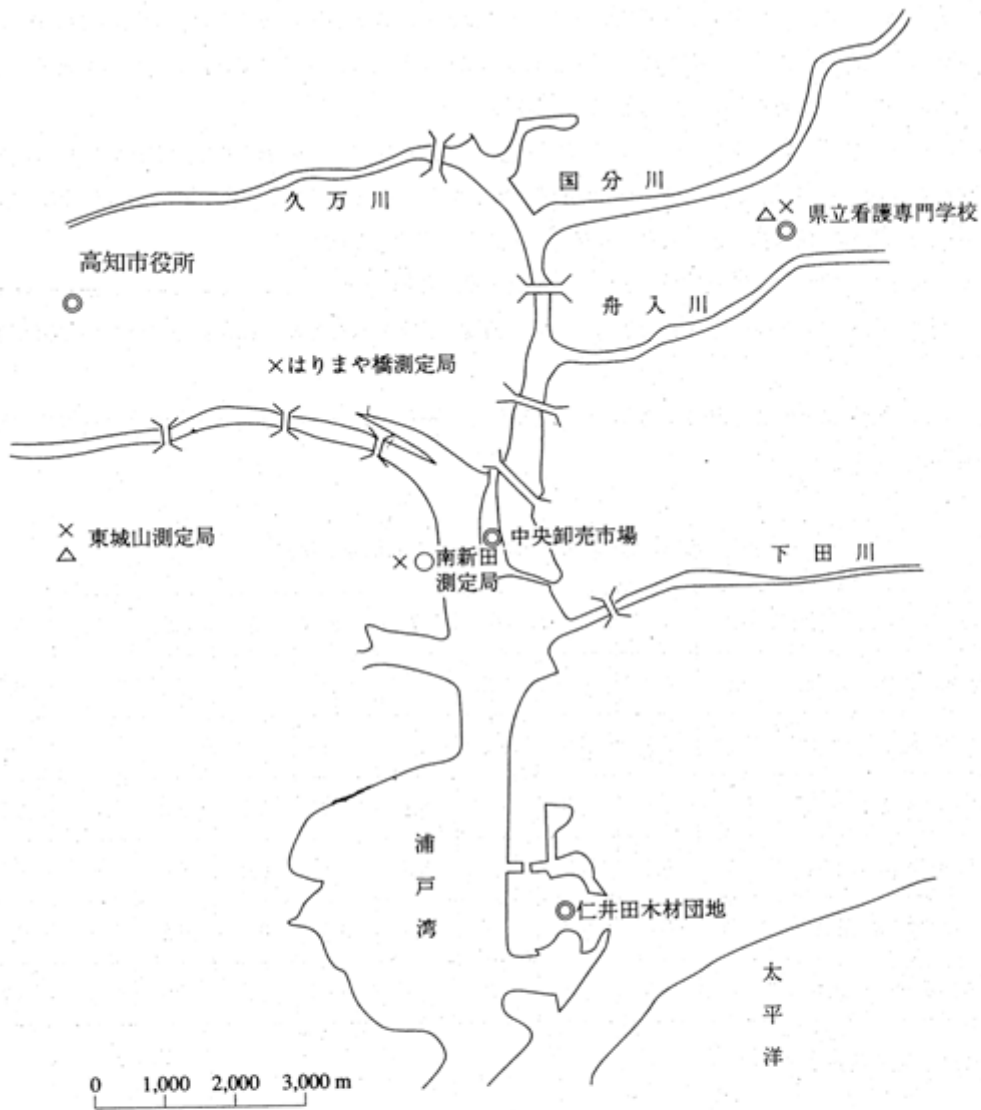
酸性雨測定結果（年度平均：〔単純平均値〕）

単位：pH

年度 測定場所	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21
高知海上保安部	6.1	—	6.2	5.7	6.0	5.5	—	—	—	—	—	—
高知大学附属中学校 ※平成 15 年度より高知市役所	5.2	—	5.7	5.0	4.5	5.8	5.3	5.2	4.6	4.5	5.1	5.7
高知市中央卸売市場	6.0	—	6.5	5.7	5.9	6.0	6.3	5.1	5.1	4.8	5.0	6.0
仁井田木材団地	6.2	—	6.1	5.6	5.8	5.5	5.8	4.5	4.5	4.6	4.9	5.6
県立看護専門学校	5.6	—	5.7	5.1	5.1	5.3	4.8	4.6	4.4	4.2	—	—

※ 平成 11 年度は実施せず





- × 大気環境常時監視局
- △ 有害大気汚染物質測定地点
- ◎ 硫黄酸化物及び降下ばいじん測定地点
- 硫黄酸化物測定地点

3-4 循環型社会の構築

(1) ごみ処理の状況

本市では、清潔で快適な生活環境を保全していくため、全市域を計画処理の対象として、ごみの減量化と適正処理に取り組んでいる。

ごみの排出量については、平成11年度のごみ袋透明・半透明化の導入により、一時的な減少を記録した後、ここ数年は横ばいか若しくは若干減少の傾向にある。20年度は対前年度比-5.4%と5年連続減少した。

現在、ごみ量は減少傾向にあるが、循環型社会形成推進基本法をはじめ各種リサイクル関連法への対応、最終処分場の更なる延命化及び環境の保全等を進めていくため、今後、一層の廃棄物の発生抑制、分別徹底等によるごみの減量・リサイクルを推進していくことが必要となっている。

ごみの収集については、平成12年4月からペットボトル、13年11月からはプラスチック製容器包装の分別収集を開始し、資源再利用の促進を図っている。

平成8年8月1日から「生ごみ処理容器」を、15年8月1日からは「電動生ごみ処理機」の購入補助を開始した（電動生ごみ処理機は20年3月廃止）。また、13年4月1日から特定家庭用機器（家電4品目）のリサイクルが実施され（21年4月1日から品目追加）、15年10月1日から「家庭用パソコン」のメーカーによるリサイクルが実施された。さらに、17年1月には自動車リサイクル法が施行され、使用済み自動車のリサイクル・適正処理の持続的な取り組みの環境整備を図っている。

ごみ排出量の推移

区分		年度				
		17	18	19	20	21
人口	人	329,825	328,609	328,239	343,134	342,336
総排出量	トン	147,345	144,660	137,024	134,130	130,035
可燃ごみ	トン	113,949	113,159	108,260	108,751	107,107
可燃粗大ごみ	トン	6,563	6,657	6,280	5,294	4,890
不燃ごみ	トン	2,672	1,895	1,700	1,662	1,417
プラスチック製容器包装	トン	6,139	6,269	5,145	4,211	3,980
資源物	トン	16,008	15,320	14,101	12,954	11,722
ペットボトル	トン	258	242	354	443	470
水銀含有廃棄物	トン	132	145	136	137	138
美化ごみ・災害廃棄物	トン	1,624	973	1,048	678	311
1日当たり排出量	トン	399	394	372	366	355
1人1日当たり排出量	グラム	1,210	1,198	1,135	1,066	1,038
リサイクル率	%	21.5	16.2	21.9	21.3	20.4

- ※1 人口は、各年度10月1日時点の住民基本台帳による。（平成19年度以降は外国人登録者数を含む。）
- ※2 ごみには、事業系ごみ（許可業者収集及び自己搬入）を含む。
- ※3 資源となる物とは、資源物、ペットボトル及びプラスチック製容器包装をいう。
- ※4 平成20年1月に合併した春野地区分は平成20年度分より含む。
- ※5 平成19年度以降のペットボトルについては、合併後の春野地区を含む。

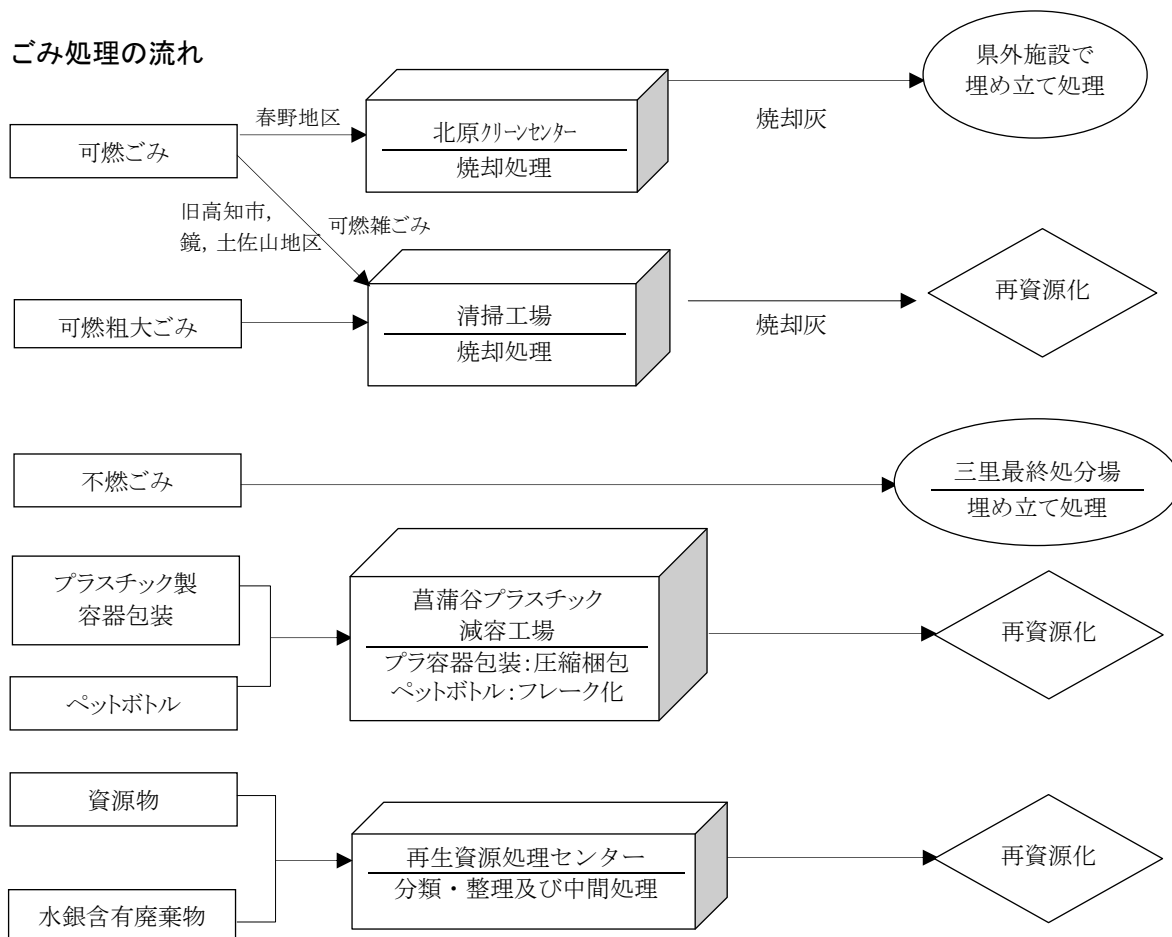
ごみの処分については、昭和 55 年度から宇賀清掃工場で可燃ごみ、可燃性粗大ごみを全量焼却していたが、施設の老朽化やごみの増加に伴う処理能力の限界が生じたことなどにより、新たに高知市清掃工場を建設し、平成 14 年 4 月から本格運転を開始した。清掃工場では、ごみの焼却エネルギーを利用し、発電を行うとともに、発生した余熱は、場内での利用の他、温水プールや温浴施設を備えた余熱利用施設であるヨネッツこうちで利用を図っている。

プラスチックごみは、平成元年度から菖蒲谷プラスチック減容工場において、減容固化の処理を行った後、埋め立て処分していたが、平成 13 年 11 月からは容器包装リサイクル法に基づくプラスチック製容器包装の分別収集を開始し、圧縮梱包を行った後、指定法人ルートによる再資源化を行っている。

不燃物や焼却灰は、プラスチックごみの減容固化物と同様に、昭和 60 年から三里最終処分場で安定した埋め立て処分を行っていた。しかしながら、最終処分場を取り巻く状況は深刻化しており、延命化を図るため、可燃性雑ごみを焼却処分に変更し、焼却灰は再資源化するなど、最終処分量の最少化を図っている。

資源物（ビン類・カン金属類・紙類・布類）、水銀含有廃棄物及び不燃ごみについては、高知市再生資源処理協同組合に収集運搬を委託し、資源物はそれぞれ再資源化ルートにのせている。水銀含有廃棄物は中間処理した後、水銀再生業者に処理委託している。また、ペットボトルについては、量販店等の協力を得て拠点回収を行っており、菖蒲谷プラスチック減容工場で中間処理した後、リサイクル業者に引き渡している。

なお、鏡，土佐山地区の家庭ごみは直営収集を始めたが、春野地区の可燃ごみは、平成 24 年度まで高知中央西部焼却処理事務組合（構成市町村：土佐市・高知市・いの町・日高村）が運営する北原クリーンセンターにおいて処理をしている。



(2) ごみ減量・リサイクルの取り組み

●ごみ減量目標の設定

○排出目標の設定

平成15年度に策定され、17年度に改訂された第2次一般廃棄物処理基本計画では、ごみの発生抑制を進めるとともに、資源となるものをリサイクルすることにより、資源物（再生資源処理協同組合回収分）以外の焼却、埋め立て等の処理をしなければならないごみの減量に取り組むこととして、以下のとおり排出目標を設定している。

1人1日当たりのごみ排出量（資源物回収量を除く）を、目標となる平成24年度において、予測値に対して17%以上削減します。

基準年度 平成13年度排出量 1,085グラム

目標年度 平成24年度排出量 1,079グラム

○リサイクルの目標

ごみの発生抑制を進めても、なお排出されるごみについては、分別を徹底し、できる限り資源となるものを再生利用することとして、以下のとおりリサイクル目標を設定している。

リサイクル率を目標となる平成24年度には、平成13年度の14%から24%以上に伸ばします。

●廃棄物減量等推進員の設置

廃棄物減量等推進員の制度は、平成3年に廃棄物の処理及び清掃に関する法律の改正に伴い創設されたもので、これを受け、高知市廃棄物の減量及び適正処理等に関する条例に規定した。

平成12年1月に町内会や資源・不燃物登録団体の代表者などの中から523名を委嘱した（22年4月現在858名）。廃棄物減量等推進員は、市との密接な連携のもとに、ごみの減量・再生利用を促進していくための地域密着型ボランティアであり、市と地域住民との重要なパイプ役を担っている。

○主な活動内容

- ・地域住民への周知、伝達
- ・地域における啓発活動
- ・ステーションでのごみ出しルールやマナーの指導
- ・ごみの出し方等に関する意見・要望等のとりまとめ
- ・市及び町内会等との連携
- ・市が主催する研修や説明会等への参加

●生ごみ処理機器購入補助事業

生ごみの自家処理を支援し、ごみの減量化と生ごみの有効利用を図るため、平成8年8月からコンポスト容器など生ごみを堆肥化する容器の購入に対して補助を行っている。

補助額は、購入価格の2分の1以内で、好気性処理容器（コンポスト容器）は2,000円、嫌気性処理容器（密閉処理容器）は1,500円をそれぞれ上限額としており、補助基数は1世帯につき2基までとしている。

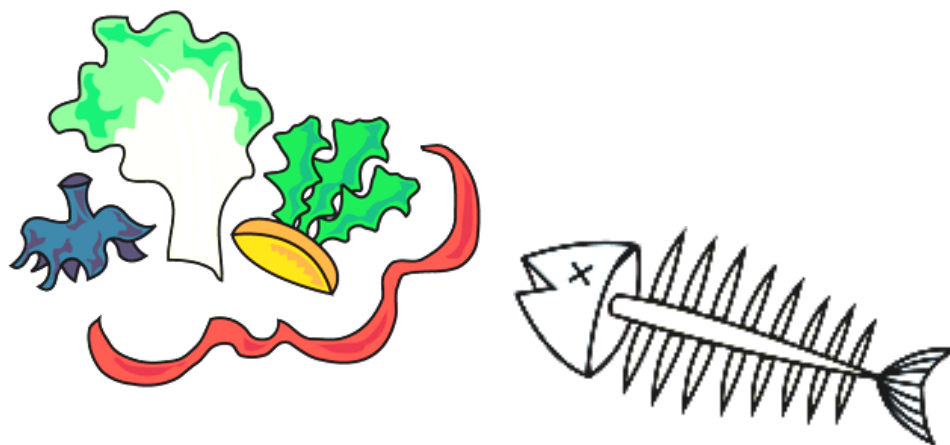
また、「電動式生ごみ処理機」については、平成15年8月から20年3月まで購入価格の2分の1以内で20,000円を上限に購入補助を行った。（※20年度補助事業廃止）

生ごみ処理容器購入補助実績

区分 \ 年度	14	15	16	17	18	19	20	21
補助基数（総数）	160	111	60	49	41	39	68	73
好気性処理容器 （コンポスト容器）	39	40	34	23	23	30	40	35
嫌気性処理容器 （密閉処理容器）	121	71	26	18	18	9	28	38

電動式生ごみ処理機購入補助実績

区分 \ 年度	15	16	17	18	19	20
補助基数（総数）	1,123	281	210	388	321	22
乾燥式	299	155	106	356	289	22
バイオ式	824	126	104	32	32	0



(3) し尿処理の状況

し尿については、昭和20年代まで農作物の肥料として土壌に還元するのが主であったが、都市化の進展や化学肥料の使用増加などにより、し尿処理対策が次第に求められるようになってきた。本市においては、29年の清掃法の施行に伴い、収集運搬は直営と民間の許可業者が行い、終末処理については海洋投棄を第一義とし、農地還元についても配慮していく方針を決定した。

しかし、し尿収集については、民間の許可業者制を廃止し、公共性の高い公社制を採用することとして、昭和50年2月に(財)高知市清掃公社(平成3年5月に(財)高知市環境事業公社に改称)を設立し、同年4月から収集業務に携わっている。公社設立以後、直営収集世帯も公社収集に順次移行し、59年7月に全面的に移管した。

終末処理については、昭和29年に市有の海洋投棄船により土佐湾沿岸に投入処分を開始して以降、し尿の海洋投棄処分を行ってきたが、海洋汚染防止を図るため、56年に陸上処理施設の建設に着手した。陸上処理施設の完成により、約30年間続いたし尿の海洋投棄に終止符を打ち、59年7月から390k1/日の処理が可能な陸上処理施設である東部環境センターの本格運転を開始した。現在、収集したし尿及び浄化槽汚泥は、同センターへ搬入・処理されている。

なお、春野地区のし尿は、平成26年度まで仁淀川下流衛生事務組合(構成市町村：土佐市・高知市・いの町・日高村)が運営する衛生センターにおいて処理を行う。

し尿処理実績

旧高知市地区、土佐山・鏡地区

区分 \ 年度	17	18	19	20	21
総処理量 (k1)	116,435	117,073	115,348	110,835	108,876
生し尿 (k1)	30,473	29,493	27,856	26,505	25,426
浄化槽汚泥 (k1)	85,962	87,580	87,492	84,330	83,450

春野地区(旧春野町)

区分 \ 年度	17	18	19	20	21
総処理量 (k1)	8,922	8,599	9,678	8,978	9,222
生し尿 (k1)	4,867	4,531	4,324	3,691	3,653
浄化槽汚泥 (k1)	4,055	4,068	5,354	5,287	5,569

浄化槽は、設置工事・保守点検及び水質検査が的確に実施されなければ、公共水域の汚染等、生活環境の悪化を招くものであることから、設置者に対する啓発・指導を関係機関と協力し、推進していく。また、生活排水による公共水域の水質汚濁防止の観点から、単独浄化槽よりも処理能力の高い合併浄化槽の設置を促進するため、本市では、平成元年度から合併浄化槽設置に係る補助事業を実施している。

(4) 産業廃棄物

本市では、平成10年4月の中核市移行に伴い、産業廃棄物行政に関する事務権限の一部が県から委譲され、産業廃棄物の収集運搬業や処分業、処理施設設置に係る許認可事務を行っているほか、排出事業者や処理業者に対する適正処理の指導・監督、パトロールなどによる不法投棄の防止等を図り、産業廃棄物の適正処理に努めている。

産業廃棄物には、あらゆる事業活動に伴うものと特定の事業活動に伴うものがあり、燃え殻、汚泥等の20種類に分類されるが、これらに該当しないものはすべて一般廃棄物となる。また、産業廃棄物のうち、爆発性、毒性、感染性その他の人の健康又は生活環境に係る被害を生ずる恐れがある性状を有するもの（廃PCB、廃石綿等）を、「特別管理産業廃棄物」として区分し、処理方法等が別に定められている。

産業廃棄物収集運搬業の許可業者数（平成22年3月31日現在）

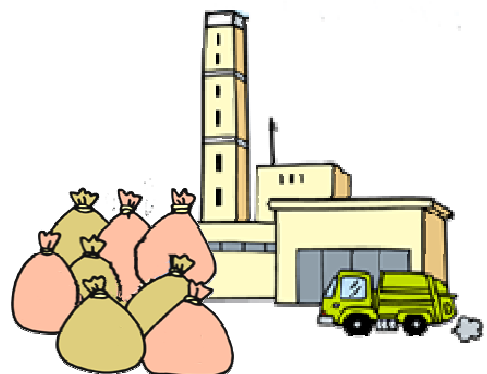
区 分	計	高知市内	高知県内	高知県外
産業廃棄物のみ	624	310	142	172
特別管理産業廃棄物のみ	6	1	0	5
産業廃棄物 + 特別管理産業廃棄物	82	22	6	54
計	712	333	148	231

産業廃棄物処分業の許可業者数（平成22年3月31日現在）

区 分	産業廃棄物				特別管理産業廃棄物			
	中間処理	中間+最終	最終処分	計	中間処理	中間+最終	最終処分	計
高知市内	27	3	—	30	2	—	—	2
高知県内	3	—	—	3	—	—	—	—
高知県外	4	—	—	4	—	—	—	—
計	34	3	—	37	2	—	—	2

産業廃棄物処分業許可者による処理施設の設置許可状況（平成22年3月31日現在）

中間処理施設			最終処分場
焼却施設 (焼却能力 200 kg/h 以上の処分業)	焼却施設 (焼却能力 200 kg/h 未満の処分業)	その他の中間処理施設	安定型最終処分場
3	5	83	3



産業廃棄物許可申請受付実績の推移

区分		年度											
		10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21
産業廃棄物	収集運搬業	115	125	123	150	155	134	178	161	183	154	144	165
	処分業	9	7	13	7	18	12	4	9	8	15	9	11
特別管理	収集運搬業	30	14	9	13	9	30	16	14	22	13	35	23
産業廃棄物	処分業	2	—	—	—	—	3	—	—	1	—	2	0
施設設置	最終・焼却	1	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—	1
	その他	3	—	1	—	2	2	2	2	3	—	3	3
合計		160	146	146	170	185	181	200	186	217	182	193	203
変更届		148	139	207	291	368	413	447	651	907	715	701	639

●高知市産業廃棄物実態調査

高知市における産業廃棄物発生の実態把握及び将来予測により、産業廃棄物行政の適正な推進のための基礎資料とすることを目的として、高知県の調査にあわせて、平成 18 年度に「高知市産業廃棄物実態調査」を実施した。

この推計の結果、平成 17 年度における高知市の産業廃棄物発生量は 568,000t であり、高知県全体の発生量は 1,570,000t であった。なお、高知市における業種別発生量としては、建設業 293,000t、電気・ガス・水道業 182,000t、製造業 49,000t、卸売・小売業 14,000t、鉱業 9,000t、その他 21,000t であり、種類別発生量としては、がれき類 236,000t、汚泥 225,000t、木くず 29,000t、金属くず 21,000t、廃プラスチック類 11,000t、その他 45,000t であった。

なお、平成 22 年度以降、「汚泥」の発生量が「がれき類」を上回ると予測されている。

●苦情処理等の状況

本市に対し、市民や各関係機関等から寄せられる環境問題に関する苦情等についてはさまざまなものがあるが、平成 19 年から平成 21 年度の実績をみると、不法投棄に関する苦情が増加している傾向にある。

苦情の種類別に平成 21 年度実績でみると、不法投棄に関する苦情等処理件数が 219 件あり、全体の 46.49%を占めており、次いで不法焼却（野焼き）が 170 件（36.09%）、その他の悪臭・騒音等の苦情件数が 82 件（17.40%）となっている。

また、大街別に平成 21 年度実績でみると、春野町 76 件、一宮 57 件、朝倉・長浜 42 件、旭 40 件、三里 29 件、潮江 27 件等となっており、特に春野町 76 件のうち不法焼却（野焼き）に関する苦情が 42 件と高い割合を占めている。また、用途区域別にみた場合は、市街化調整区域と住居区域に多い傾向にある。

大街別苦情処理件数の推移

年度 街別	平成 19 年度		平成 20 年度		平成 21 年度	
	総件数	割合 (%)	総件数	割合 (%)	総件数	割合 (%)
上街	—	—	2	0.45	1	0.21
高知街	2	1.03	5	1.11	10	2.12
南街	4	2.05	6	1.34	3	0.64
北街	1	0.51	12	2.67	3	0.64
下知	2	1.03	17	3.79	12	2.55
江ノ口	6	3.08	3	0.67	9	1.91
小高坂	1	0.51	4	0.89	4	0.85
旭街	17	8.72	25	5.57	40	8.49
潮江	16	8.21	17	3.79	27	5.73
三里	12	6.15	28	6.24	29	6.16
五台山	—	—	6	1.34	2	0.42
高須	6	3.08	15	3.34	8	1.70
布師田	5	2.56	5	1.11	6	1.27
一宮	18	9.23	50	11.14	57	12.10
秦	13	6.67	15	3.34	8	1.70
初月	9	4.62	32	7.13	29	6.16
朝倉	34	17.44	54	12.03	42	8.92
鴨田	8	4.10	25	5.57	24	5.10
長浜	19	9.74	31	6.90	42	8.92
浦戸	1	0.51	2	0.45	3	0.64
御畳瀬	—	—	—	—	—	—
大津	5	2.56	6	1.34	13	2.76
介良	7	3.59	7	1.56	8	1.70
鏡	2	1.03	3	0.67	10	2.12
土佐山	5	2.56	4	0.89	5	1.06
春野	2	1.03	75	16.70	76	16.14
計	195	100.00	449	100.00	471	100.00



種類別苦情処理件数等の推移

区分 年度	苦情等の種類（件数）				県警職員（名）		
	不法投棄	野焼き	その他	計	現職	OB	計
12	15	40	9	64	1	1	2
13	18	72	25	115	1	1	2
14	32	123	35	190	1	1	2
15	35	100	51	186	1	1	2
16	22	45	22	89	1	1	2
17	29	31	11	71	1	1	2
18	50	73	21	144	1	3	4
19	99	69	27	195	1	3	4
20	201	173	75	449	1	4	5
21	219	170	82	471	1	4	5

(備考) 一件の苦情の内訳が、不法投棄と野焼きの場合は不法投棄、不法投棄とその他の場合は不法投棄、野焼きとその他の場合は野焼きにそれぞれ分類している。

●各種リサイクル法と PCB 廃棄物の処理

資源循環型社会の構築に向けて、循環型社会形成推進基本法をはじめ各種リサイクル法が施行されたことにより、本市でも適正処理に向けて継続的取り組みを行っている。

「建設工事に係る資源の再資源化等に関する法律（建設リサイクル法）」は、平成 14 年 5 月 30 日から施行され、届け出書等の受付事務、現場等のパトロール等を実施しているが、届出等の件数は、15 年度以降、民間工事、公共工事ともに減少傾向にある。また、21 年度は、435 件の現場確認・立入検査により監視・指導を行っている。

使用済自動車の再資源化等に関する法律（自動車リサイクル法）は、平成 14 年 7 月に成立した後、16 年 7 月から解体業及び破砕業の許可制度が段階的に開始され、17 年 1 月 1 日には全面的に施行された。同法は、使用済自動車のリサイクルと適正な処理を図るため、自動車製造業者にリサイクルの責任を果たすことを義務づけるものであり、関連事業者である引取業者、フロン類回収業者、解体業者、破砕業者のそれぞれの役割が定められている。

ポリ塩化ビフェニル（PCB）は、絶縁性、不燃性などの特性によりトランス、コンデンサといった電気機器等幅広い用途に使用されていたが、昭和 43 年にカネミ油症事件が発生して社会問題化し、47 年以降その製造が中止され、その後の PCB 廃棄物の適正処理の推進のため、平成 13 年 7 月「ポリ塩化ビフェニル廃棄物の適正な処理の推進に関する法律」（PCB 廃棄物特別措置法）が施行された。これにより、PCB 廃棄物の保管・処分について各事業者へ届け出が義務づけられることとなり、16 年度からは環境省からの指示により、対象事業所に対する立入検査を、本市でも断続的に実施している。

また、同年 12 月からは、北九州市にある広域処理施設（日本環境安全事業株式会社 JESCO）で PCB 廃棄物の処理が開始され、高知県内の処理については、平成 22 年 7 月から順次始まっており、官公庁や各自治体等については、平成 27 年の第 4 回目の搬入期間に処分する予定である。

建設リサイクル法による届出件数及び立入調査件数

種別 年度	届出書 (民間工事)	通知書 (公共工事)	計	立入調査件数
14	455	523	978	279
15	846	557	1,403	765
16	827	484	1,311	880
17	758	461	1,219	818
18	673	388	1,061	655
19	675	307	982	629
20	614	302	916	533
21	493	255	748	435

自動車リサイクル法受付等実績（平成 22 年 3 月 31 日現在）

区分	新規	更新	変更許可	年度末 登録事業者数	実事業者 件数	変更・廃業届 件数
引取業	2	13	—	115	117	36
フロン回収業	—	5	—	31		
解体業	—	7	—	11		
破碎業	—	5	—	6		
計	2	30	—	163		

PCB 廃棄物届出対象事業所数及び立入調査実施件数

年度	届出対象事業者数	立入検査実施件数	備考
17	226	15	
18	222	—	
19	242	1	
20	240	10	
21	250	221	平成 21 年度に集中実施



(5) エコタウン事業

エコタウン事業は、地域における資源循環型社会の構築に向けて、ゼロ・エミッション構想を推進するため、平成9年度に、経済産業省（当時通商産業省）が創設し、10年度からは、環境省（当時厚生省）との連携による制度として、リサイクル関連施設整備事業等に対するハード面の支援及び環境関連情報提供事業等に対するソフト面の支援を行い、地域における環境産業の振興や総合的な環境調和型のまちづくりを目指すものである。

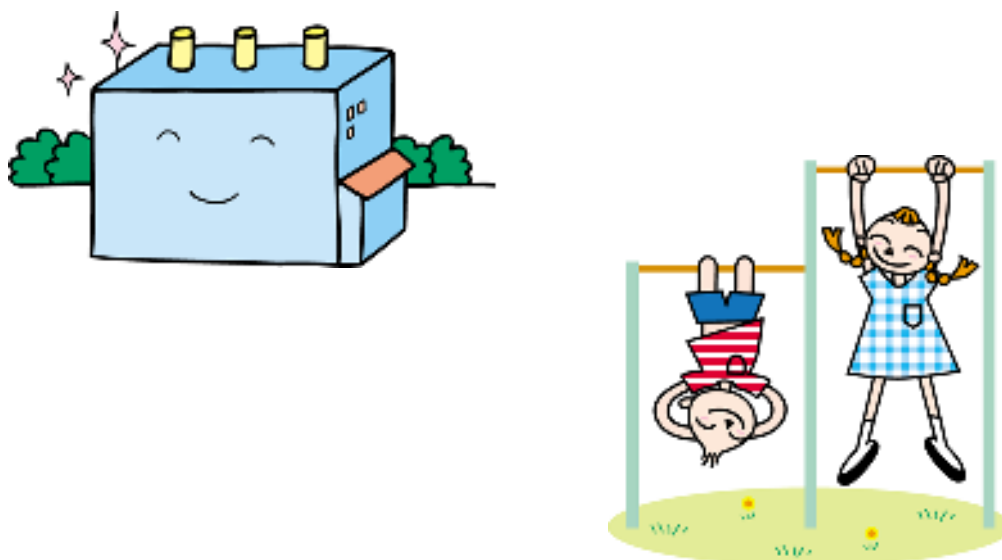
本市では、平成12年11月に、循環型社会構築の主役を担う産業界の取り組みを制度面でサポートすべく、「エコタウン高知市・事業計画」を策定し、さらに、「エコタウン高知市」を県内における循環型社会システム形成の戦略拠点とするため、同年12月に、国からエコタウンとしての地域承認を受けた。

本市のエコタウン事業は、主な地場産業が立地する浦戸湾沿岸及び高知新港を含む約50km²の広いエリアを計画対象地域として、住民・企業・行政の連携による環境と調和したまちづくりを推進することとしている。具体的には、既存の木材工業団地の有効利用を図り、循環型関連施設を集約的かつ計画的に立地させるため、「エコ産業団地」を整備し、廃木材、発泡スチロール、廃プラスチック等のリサイクル事業を行うとともに、地域産業との連携や分別収集の徹底等により、域内におけるリサイクル率の大幅な向上とゼロ・エミッション化を図り、資源循環型社会システムを形成することとした。

平成14年11月、エコタウン事業分散化（案）を発表し、エコ産業団地は木質系リサイクル事業に限定した。17年4月には神田治国谷で魚腸骨処理施設が操業を開始した。

経過の概要

平成12年12月	国の事業承認を受ける。
13年3月	発泡スチロールリサイクル施設((株)エコライフ土佐)が完成する。
15年2月	エコ産業団地用地を購入する。
3月	廃木材チップ化施設((株)リサイクル高知)が完成する。
17年3月	魚腸骨処理施設((財)高知県魚さい加工公社)が完成する。
21年9月	(株)エコライフ土佐解散



4. みどりのまちづくり

4-1 みどりの環境の保全と創出に関する条例（略称『みどりの条例』）

みどりの条例は、無秩序な開発によって自然破壊が進行する中で、健康で文化的な生活を営むための良好な環境がすべての市民の基本的権利として守られるべきことを再確認し、自然環境の保全と良好な都市環境の創出を目的に、昭和49年11月15日から施行された。

条例では、市、事業者、市民の責務を明確にし、併せて市民運動に対する市の姿勢を定めることによって、みどりのまちづくりが市民運動に支えられるべきものとした。そして、みどりのまちづくりを総合的、体系的に進めるため、みどりのまちづくり基本計画の策定を市に義務付け、市民参加の一形態としての審議会の設置を定めた。さらに、みどりのまちづくりの基本課題として、自然の保護、緑化の推進、公共の場所等の清潔および美観の保持を明記している。

4-2 緑の基本計画 —— ひろがる緑いきいきわが街 ——

この計画は、本市の緑の現状を調査し、その解析・評価に基づき、①緑地の保全および緑化の目標 ②緑地の配置の方針 ③緑地の保全および緑化の推進のための施策 ④緑化の推進を重点的に図るべき地区における緑化の推進に関する事項 で構成し、

計画目標年次 平成27年

基本理念

- ・ 緑のもつ多様な機能を正当に評価し、各種の開発事業との調整を図る
- ・ 緑の機能が十分発揮される規模を確保し、維持する
- ・ 健全で生き生きとした緑を育む

緑の将来像 「ひろがる緑いきいきわが街」—健全な生態系と循環系を目指して—
を設定。目標実現のため ①緑地を広げる（緑地面積の拡大） ②豊かで大きなみどりに育てる（個々の緑のボリュームの増大） ③いきいきとしたみどりをつくる（緑の質の向上） ④みんなでみどりをつくり育てる（人の輪の拡大） を総括的目標とし、具体的な緑地の配置方針を定めている。

4-3 都市緑化

(1) 街路緑化

都市の緑視率アップは、都市景観を向上させる要素となっており、本市では昭和48年から街路植栽を進め、市道ではクスとナンキンハゼ、県道はヤマモモ、国道はアメリカフウが多く植栽されている。

今後も街路植栽を進めるとともに、既存街路樹についても樹高、樹種、植栽形態を再検討し、統一性があり四季感のある質の高い緑づくりを行い、街路・都市景観の向上を図っていく。

街路植栽の状況

区 分	植 樹 延 長	高 木	低 木
国 管 理	35.0 km	939 本	48,016 本
県 〃	18.6	3,910	210,231
市 〃	57.7	9,664	160,007
計	111.3	14,513	418,254

(2) 公 園

本市の公園整備状況は、大規模公園、都市基幹公園、住区基幹公園、都市緑地など合計 701か所であるが、市民1人当たりの公園面積は、都市公園法に基づく設置標準10㎡に対して7.72㎡という現状である。このため、配置バランスを考慮しつつ、近隣公園など住区基幹公園を中心とした整備を進めており、街区公園も適宜配置していく。施設整備についても市民利用の面から再検討し、画一化を排除し、親しみの持てる施設内容にするため、ユニークな公園づくりや市民の森づくりなどに取り組む。

一方、公園の快適性、安全性も大切な課題であり、公園の管理体制を充実させるため、地域住民や市民団体等で構成される公園愛護会の拡充・発展を図り、財団法人高知市都市整備公社に公園の維持補修を委託するなど、きめ細かな管理を目指した取り組みを進めていく。

① 都市公園、緑地の設置標準値と現況

(22. 4. 1 現在)

都市公園 緑地の種別	区 分	説 明	内 容	配 置 状 況	
基 幹 公 園	住区基 幹公園	街 区 公 園	主として街区内に居住する者の利用に供することを目的とする公園	面積0.25haを標準とする	児童遊園を含めて市域全体で 653か所 60.3ha 人口1人当たり 1.77㎡
		近 隣 公 園	主として近隣に居住する者の利用に供することを目的とする公園	面積 2.0haを標準とする	17か所 24.4ha 人口1人当たり 0.72㎡
		地 区 公 園	主として徒歩圏域内に居住する者の利用に供することを目的とする公園	面積 4.0haを標準とする	1か所 4.4ha (城西公園) 人口1人当たり 0.13㎡
	都市基 幹公園	総 合 公 園	都市住民全体の休息、鑑賞、散歩、遊戯、運動等総合的な利用に供することを目的とする公園	適宜に配置	1か所 31.7ha (筆山公園) 人口1人当たり 0.93㎡
		運 動 公 園	都市住民全体の運動の用に供することを目的とする公園	〃	—
特 殊 公 園	風 致 公 園	主として風致を享受することを目的とする公園で、樹林地、水辺等の自然条件に応じ適切に配置する	〃	6か所 46.5ha 人口1人当たり 1.37㎡	
	歴 史 公 園	史跡、名勝等文化財を広く一般に供することを目的とする公園	〃	1か所 10.3ha (高知公園) 人口1人当たり 0.30㎡	
	動、植 物公園	動物園、植物園等、特殊な利用に供することを目的とする公園	〃	—	

都市公園 緑地の種別	区分	説明	内容	配置状況
大規模公園	広域公園	主として一の市町村の区域を超える広域のレクリエーション需要を充足することを目的とする公園	面積 50ha以上を標準とする	1か所 59.7ha (春野運動公園) 人口1人当たり 1.76㎡
緩衝緑地		主として産業公害を防止することを目的として、工業地と一般市街地の間に設けられる緑地	公害、災害発生源地域と住居・商業地域等とを分離遮断することが必要な位置において状況に応じ配置する	—
緑道		既成市街地における緊急時の避難路として、また新市街地では都市生活の快適性と安全性を確保することを目的とする緑化された道路	幅員10～20mを標準とする	—
都市緑地		主として都市の自然的環境の保全ならびに改善、都市景観の向上を図るために設けられる緑地	市街地の形態および土地利用に応じて配置する	21か所 25.2ha 人口1人当たり 0.74㎡
墓園		墓園面積の3分の2以上を園地とし、景観が良好でレクリエーションの場とし利用に供される墓地を含む公園で、都市の実情に応じて設置される	—	—

② 都市公園、緑地の配置表

(22.4.1 現在)

行政区	人口	面積(㎡)および個所数									1公園 人面積 た(㎡)
		街区公園	近隣公園	地区公園	総合公園	広域公園	風致公園	歴史公園	都市緑地	計	
上街	3,321	5,696 (3)							69,200 (1)	74,896 (4)	22.55
高知街	4,773	12,150 (8)	9,443 (1)	44,000 (1)			3,016 (1)	102,900 (1)	19,106 (3)	190,615 (15)	39.94
南街	3,570	8,518 (4)							3,700 (1)	12,218 (5)	3.42
北街	3,377	1,630 (2)	3,838 (1)							5,468 (3)	1.62
下知	15,546	23,711 (29)	41,241 (2)							64,952 (31)	4.18
江ノ口	17,995	44,840 (19)							445 (1)	45,285 (20)	2.52
小高坂	9,403	14,853 (20)								14,853 (20)	1.58
旭街	34,954	45,057 (64)							600 (1)	45,657 (65)	1.31
潮江	29,655	62,288 (48)	26,574 (2)		316,500 (1)					405,362 (51)	13.67
小計	122,594	218,743 (197)	81,096 (6)	44,000 (1)	316,500 (1)		3,016 (1)	102,900 (1)	93,051 (7)	859,306 (214)	7.01

三里	13,070	27,674 (22)	19,481 (2)				68,000 (1)			115,155 (25)	8.81
五台山	2,820	6,187 (3)					195,000 (1)			201,187 (4)	71.34
高須	13,335	12,629 (22)	20,000 (1)							32,629 (23)	2.45
布師田	1,675	4,221 (1)								4,221 (1)	2.52
一宮	25,679	39,784 (55)					1,671 (1)			41,455 (56)	1.61
秦	16,793	7,080 (10)	15,000 (1)							22,080 (11)	1.31
初月	16,004	32,303 (22)	3,320 (1)					912 (1)		36,535 (24)	2.28
朝倉	27,946	55,372 (97)	36,431 (2)							91,803 (99)	3.29
鴨田	26,990	27,928 (43)	21,000 (1)							48,928 (44)	1.81
長浜	28,174	102,634 (113)	40,431 (2)				4,013 (1)	70,756 (7)		217,834 (123)	7.73
御畳瀬	468									-	-
浦戸	1,128						193,000 (1)			193,000 (1)	171.10
大津	10,460	14,169 (18)								14,169 (18)	1.35
介良	13,703	17,044 (27)	7,522 (1)					87,924 (6)		112,490 (34)	8.21
鏡	1,532									-	-
土佐山	1,083									-	-
春野	16,491	36,979 (23)				597,000 (1)				633,979 (24)	38.44
小計	217,351	384,004 (456)	163,185 (11)			597,000 (1)	461,684 (5)		159,592 (14)	1,765,465 (487)	8.12
計	339,945	602,747 (653)	244,281 (17)	44,000 (1)	316,500 (1)	597,000 (1)	464,700 (6)	102,900 (1)	252,643 (21)	2,624,771 (701)	7.72

(注) ① () は公園の個所数 ②児童遊園・交通公園は街区公園に含む

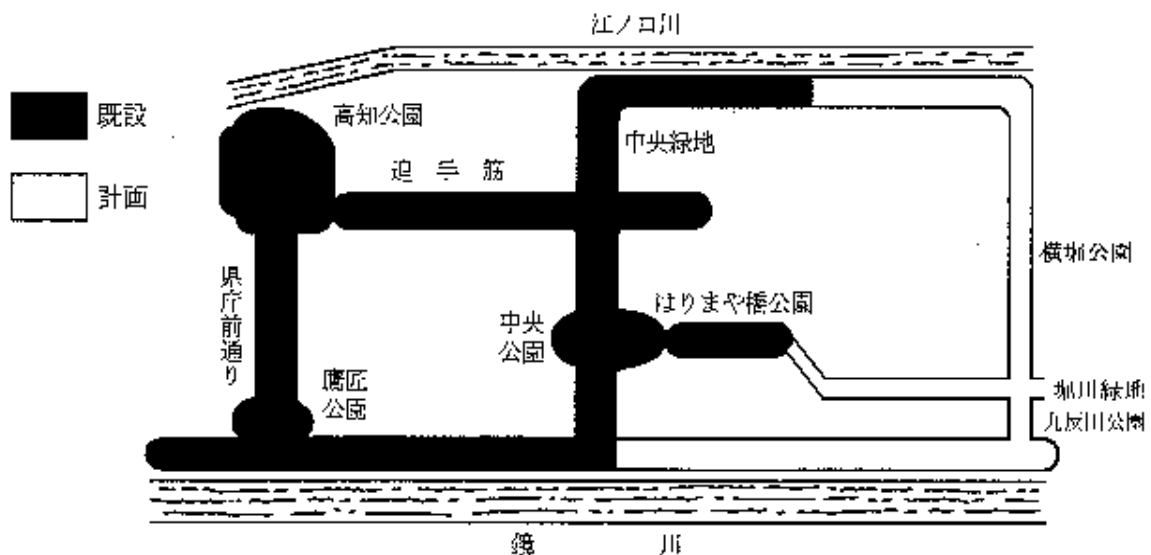
③ 事業実績および整備計画

区分	公園名	全体計画	事業内容および事業費	
			21年度実績	22年度計画
国庫補助事業	沖田公園	2.0ha	用地取得 48,000千円	用地取得 —
	福井公園	2.0	用地取得 —	用地取得 —
	竹島公園	1.3	用地取得 114,000	用地取得 54,000
	初月公園	1.0	用地取得 51,000	用地取得 52,000

区分	事業名	21年度事業内容 (実績)	事業費 (千円)	22年度事業内容 (計画)	事業費 (千円)
県補助業	地域子育て創生公園遊具整備事業	—	—	地域子育て支援活動	30,000
市単独事業	花とみどりのまちづくり (美しいまちづくり)	美しい花壇づくり	8,000	美しい花壇づくり	8,000
	公園遊園整備改良	既設公園遊園整備改良	16,000	既設公園遊園整備改良 潤い空間整備事業	15,000 2,000
	公園愛護会の育成	359公園	14,015	403公園	15,570
	花ストリート整備	花のネットワークづくり	10,400	花のネットワークづくり	10,000

(3) みどりの循環道路整備

風格のある緑の街区を造るため、面としての公園、線としての緑地、緑のプロムナードを市中央部で結合させてみどりの循環道路を創出するもので、緑の量を確保するとともに景観の向上を図っていく。今後は追手筋、県庁前通りに引き続き、中央緑地での電線類地中化に取り組むとともに、花木植栽、花壇設置などを行い、道路景観の整備を図る。



4-4 美しいまちづくり事業

平成3年度からスタートした美しいまちづくり事業は、市民の心からなる美しいまちづくり、— 花、緑、そして心のふれあい — を基本とし、より多くの市民の参加を得て個性豊かで魅力あふれる「公園都市・高知」の実現を目指している。

街区公園に四季折々の花木を植栽する花とみどりの公園づくり，花いっぱい会の育成，歩道の花壇づくりなどの事業を進めるとともに，みどりの週間（4月），中央公園で行われるこうち春花まつり（5月），都市緑化月間行事（10月）を通して，家庭内での緑化を呼びかけるなど緑の普及に努めている。11年度からはさらに花を増やし，美しいまちをつくるため，「花ストリート整備事業」を実施。電線類地中化工事が行われた菜園場町から県庁前，高知橋からはりまや橋などで花のネットワークを形成している。

また，21年度から高知県の「緊急雇用創出臨時特例基金事業」を活用して，はりまや橋周辺や弥右衛門公園およびアメニティロードの清掃等を実施し，中心市街地や，区画整理された街並みの美しいまちづくりを進めている。

4-5 わんぱーくこうち

子どもたちの夢と冒険の心をはぐくむため，市制 100周年記念施設として『わんぱーくこうち』が平成5年から開園している。園内は池を中心に，庭園広場，水辺散策広場など6つの施設に分かれており，来園者が水と緑の環境の中でゆったりと過ごせるようにしている。

施設概要

所在地	棧橋通六丁目9-1	敷地面積	34,100㎡	総事業費	45億 3,000万円
開園時間	9:00～17:00				
休園日	水曜日（祝日および休日に当たる場合はその翌日） 年末年始（12月28日～1月1日）				
入園料	無料（プレイランドの遊戯施設の使用は有料）				

4-6 アニマルランド

昭和25年に高知公園に開園し，42年間市民にお城の動物園として親しまれてきた市立動物園を閉園し，わんぱーくこうち内にアニマルランドとして開園した。アニマルランドは，分類学的展示による都市型の施設となっており，敷地面積1万900㎡にアニマルギャラリー，ふれあい動物コーナー，水鳥の池などを設け，来園者と動物たちの触れ合いの場も広がった。

開園時間，休園日，入園料はわんぱーくこうち施設概要と同じ。

5. 参加と協働

5-1 環境教育・環境学習

(1) 水生生物観察会

河川の清流を守り、良好な水辺環境を確保していくために、水生生物の観察を行うことで、小学生の環境保全に対する意識を高めることを目的としている。

水生生物の専門家を講師に招き、指標となる水生生物を観察することで、水質を判断し、人間が河川に及ぼす影響や水質保全に果たすべき役割などについて学習している。

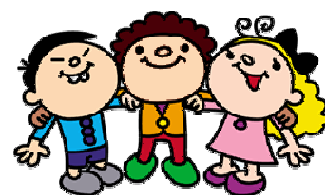
(2) こどもエコクラブ

将来を担う子どもたちが、主体的に行う環境学習や環境保全に関する活動を支援することにより、人間と環境のかかわりについての幅広い理解を深めるとともに、環境を大切に思う心を育成することを目的として、こどもエコクラブ事業が行われている。

具体的には、小学生及び中学生が自らの環境に対する理解を増やすための学習・研究活動、緑化活動やリサイクル活動等の実践活動を支援するものである。

こどもエコクラブ参加の状況（平成 22 年 4 月 1 日現在）

No.	ク ラ ブ 名	こども数
1	イオン高知チアーズクラブ	11
2	ぴーちくぱーちく	2
3	フジこどもエコクラブ高知	39
4	はちきんガールズ	11
計		63



(3) ごみ出前講座

ごみの減量、再利用、分別の推進を図ることを目的として、公民館、自治会、学校、市民グループへの出前講座として講師派遣を実施している。

年度	平成 14	15	16	17	18	19	20	21
講師派遣回数	24	20	51	13	28	139	67	58

(4) ごみの副読本の作成・配布

本市のごみ処理の流れや分別・減量の考え方など、ごみ問題に対する意識の向上を図るため、社会科副読本「ごみゼロたんけんたい」を作成し、市内の小学校4年生全員に配布している。

(5) 環境標語

ごみの減量・再利用の意識向上を図ることを目的として、市内の小学校4年生から6年生までの児童とその保護者を対象に環境標語を募集している。

【子どもの部】 平成21年度 優秀 16作品（応募数 1,997人）

作品	名前	学校	学年
エコの輪は 一人一人の 心がけ	岡林 咲良	旭東小学校	5年
分別は しげんをふやす 第一歩	岡林 怜七	旭東小学校	4年
バイオマス 家族の笑顔も 倍をます	中野 なゆ	高知小学校	4年
リサイクル こんどじゃなくて いますぐに	味元 真海	小高坂小学校	4年
ふやそうよ エコにとりくむ その心	時光 知鶴	泉野小学校	4年
ぼいすてを じぶんのいえで できますか	古田 海斗	長浜小学校	4年
空きかんは ごみじゃなくて しげん物	米津 龍希	長浜小学校	4年
かいものに かかせないもの エコバッグ	松吉 章甫	長浜小学校	4年
今日のゴミ 少ない軽い うれしいな	池田 有生	朝倉小学校	4年
ごみへらし 人に言うより 自分から	小松 朝日佳	鴨田小学校	4年
すてないで ゴミや自分の ころまで	中内 智基	横浜小学校	4年
考えて ぼいすてされた ごみのこと	大平 智也	秦小学校	4年
がんばるぞ 1人ひとりが エコライダー	井上 楽士	神田小学校	4年
ひとりでも すすんでしよう リサイクル	野中 聡子	五台山小学校	4年
なまごみは 野菜育てる なかまたち	掛水 純也	朝倉小学校	4年
気をつけよう ゴミを出す日と その時こく	堀 桜子	鴨田小学校	4年

【おとなの部】 平成21年度 優秀 5作品（応募数 135人）

作品	名前
買い物は わたしの手作り エコバッグ	入野 瑞穂
そのゴミも あなたしだいで たからもの	北川 知且
「使い切る」 それが私の エコ宣言	秦泉寺 俊弘
守りたい あなたの笑顔と この地球	松本 依里
食べのこし なくしてみれば ごみへらし	鶴原 育

5-2 環境保全活動の推進

(1) グラウンドワーク

グラウンドワークとは、1980年代にイギリスで始まった、地域を構成する住民、企業、行政の3者がパートナーシップを組み、生活の現場（グラウンド）に関する創造活動（ワーク）を通して、生活の最も基本的な要素である自然環境や地域社会を整備、改善していく取り組みである。

また、従来のような行政主導型の地域づくりとは異なり、住民と企業を加えた3者の協力システムによって、地域の環境創造や改善のためにアイデアを出し、汗を流し、実行していくのが特徴である。

これまで、市内各地で、無償貸付の民有地や休耕田を利用して、子どもたちの環境学習の促進や地域住民の憩いの場、潤いのあるコミュニティづくりの場として「高知めだかトラストパーク」、「神田自然体験ひろば」、「楠谷川はたるの里自然公園」等が整備されている。

(2) クリーン推進会

平成4年11月に、事業所ごみの減量・リサイクル推進を目的として14事業所を発起人とする「高知クリーン推進会」が発足し、紙ごみ対策を中心にモデル事業の実施や分別処理などの啓発パンフレットの配布、研修会、OA用紙共同回収など、事業の充実に努めている。22年3月末現在の会員数は118事業所となっている。

クリーン推進会の役割及び実績

- 紙資源ごみ共同回収（中央商店街148トン）
- OA用紙共同回収（43トン）
- 福祉施設への再生トイレットペーパーの寄贈
- 研修会の実施 ほか



(3) まちを美しくする運動

清潔な生活環境をつくり、健康で安全かつ快適な市民生活を確保するため、昭和54年11月から「まちを美しくする運動」を展開している。市民・事業者・行政が一体となり「まちを美しく」「まちにみどりを」「青い空、青い海、清い川」を基本計画とし、市長を本部長とする推進本部（事務局：市民生活部まちづくり推進課）を設置し、全庁体制で取り組んでいる。59年からは、この運動を「初夏のまちを美しくする運動」「秋のまちを美しくする運動」としている。

平成19年度は、「初夏のまちを美しくする運動」、「秋のまちを美しくする運動」等の中心市街地早朝一斉清掃やまちを美しくする運動実践者に感謝状を贈呈した。

(4) 浦戸湾・七河川一斉清掃

水質の浄化、親水・美化意識の高揚を図るため、市民参加によって浦戸湾と湾に流れ込む7河川の一斉清掃を行っている。平成21年度は7月19日に実施され、各河川の愛護団体や市民団体の協力により約8,800人が参加し、ごみ約110トンを回収した。

一斉清掃をした箇所…浦戸湾、鏡川、江ノ口川、久万川、舟入川、国分川、下田川、長浜川

5-3 環境情報の提供

(1) 高知市広報「あかるいまち」への掲載

平成 21 年 4 月・・・特集「家庭ごみの分別」

お知らせ「平成 21 年度上半期（4～9 月）休日収集計画」

お知らせ「ゴールデンウィークのごみ収集」

お知らせ「わんぱーくこうちプレイランドこどもの日プレゼント」

お知らせ「花のよさこいタウンこうち春花まつり 2009」

5 月・・・表紙「誕生日おめでとう」

お知らせ「5 月のごみ収集」

お知らせ「アニマルランド・ムササビの 3 世誕生」

6 月・・・お知らせ「土佐から始まる環境民権運動」

募集「「環境維新・高知市」マスコットキャラクター募集」

お知らせ「産業廃棄物管理票交付等状況報告」

お知らせ「ごみ分別のはなし」

お知らせ「お墓の話・PART1 ご存知ですか？お墓には許可が必要です！！」

お知らせ「公園の管理が都市整備公社に」

お知らせ「よさこい祭り練習場所抽選会」

7 月・・・募集「家庭ごみの有料化に皆さんのご意見を」

お知らせ「7 月のごみ収集」

お知らせ「お墓の話・PART2 ご存知ですか？お墓の許可の話」

お知らせ「夏の特別企画展「田んぼの生き物」」

募集「わんぱーくこうちアニマルランドサマースクール生徒募集」

募集「夏休み親子清掃施設見学バスツアー」

8 月・・・お知らせ

「お墓の話・PART3 ご存知ですか？お墓の使用権、移転するときの話」

お知らせ「家庭ごみ有料化についての地域説明会」

お知らせ「繁殖に期待を寄せて」

9 月・・・募集「ごみ減の達人モニターを募集します」

お知らせ「家庭ごみ有料化についての地域説明会」

お知らせ「環境標語入賞作品」

お知らせ「9 月のごみ収集」

10 月・・・募集「よさこい・エコライフチャレンジ 2009 参加者募集」

お知らせ「環境維新・高知市マスコットキャラクター決定」

お知らせ「環境にやさしいお買い物キャンペーン」

お知らせ「平成 21 年度 10～3 月の休日等ごみ収集日程」

募集「市有墓地の利用者」

お知らせ「家庭ごみ有料化についての地域説明会」

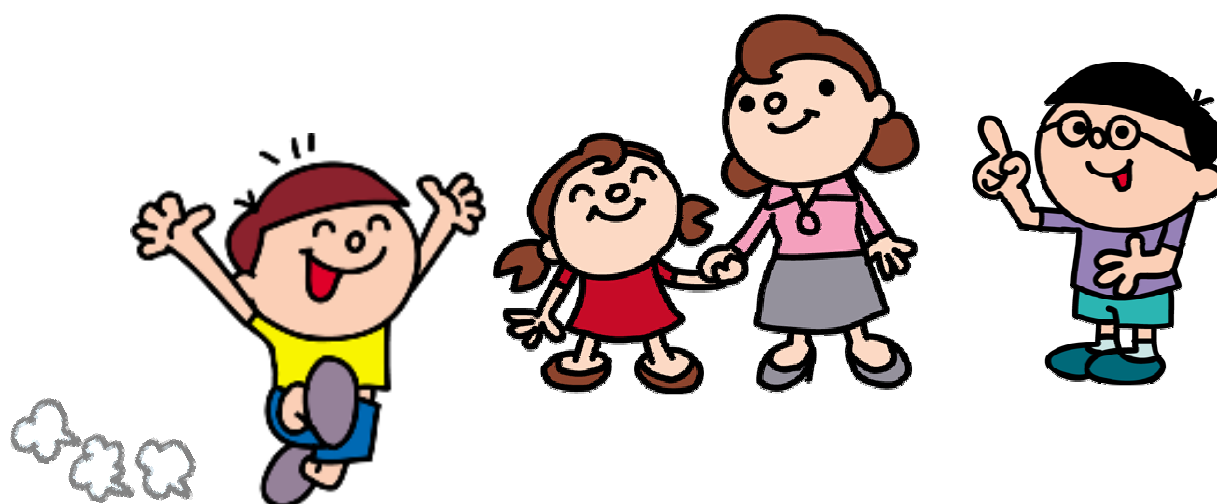
お知らせ「10 月と 11 月 3 日のごみ収集」

- お知らせ「家電リサイクルごみの持ち込みが便利になります！」
お知らせ「わんぱーくこうち第5回写生コンクール」
お知らせ「第34回 都市緑化祭」
- 11月・・・お知らせ「家庭ごみ有料化についての説明会」
お知らせ「11月のごみ収集」
お知らせ「アニマルランド動物セミナー」
お知らせ「アニマルランド・ちっちゃなアヒルたち」
- 12月・・・お知らせ「土佐から始まる環境民権運動推進協定を締結！」
お知らせ「年末年始のごみ収集」
お知らせ「家庭ごみ有料化についての説明会」
お知らせ「第15回わんぱーくこうち・クリスマスまつり」
年末年始の業務案内「わんぱーくこうち」
- 平成22年 1月・・・お知らせ「1月のごみ収集」
お知らせ「家庭ごみ有料化についての地域説明会結果報告について」
お知らせ「廃棄物減量等推進員研修会」
お知らせ「第14回わんぱーくこうち ちびっこ雪まつり」
- 2月・・・お知らせ
「家庭ごみ有料化 地域説明会のまとめと今後の取り組みについて」
お知らせ「2月のごみ収集」
募集「生ごみ堆肥化講習会」
お知らせ「わんぱーくこうちプレイランドひな祭りプレゼント」
- 3月・・・募集「市有墓地の利用者」
お知らせ「3月のごみ収集」
お知らせ「わんぱーくこうちまつり」
お知らせ「アニマルランド・子？フラミンゴ」



(2) パンフレット作成

パンフレット名	内 容	作製年度
も い ち ど 散 策 鏡 川	鏡川ガイドブック	平成 21 年度
新 鏡 川 清 流 保 全 基 本 計 画	新鏡川清流保全基本計画の紹介	18
高 知 市 環 境 基 本 計 画	高知市環境基本計画の紹介	11
未 来 に つ な げ よ う 恵 ま れ た 自 然 環 境	高知市環境基本条例の紹介	9
水 マ ッ プ	高知市水環境の紹介	7
野 鳥 マ ッ プ	高知市近辺で見られる野鳥の紹介	6
川 の 辺 の 道	高知市七河川ウォッチングマップ総集編	5
蛍 マ ッ プ	市内に生息するホタルに関する紹介	〃
新 川 川 ウォッチングマップ	新川川の紹介	4
鏡 川 ウォッチングマップ	鏡川の紹介	〃
下 田 川 ウォッチングマップ	下田川の紹介	3
国 分 川 ウォッチングマップ	国分川の紹介	〃
浦 戸 湾 ウォッチングマップ	浦戸湾の紹介	2
浦 戸 湾 魚 類 マ ッ プ	浦戸湾に生息する魚の紹介	〃
高 知 の お い し い 水	おいしい水 67 選の紹介	元
舟 入 川 ウォッチングマップ	舟入川の紹介	〃
久 万 川 ウォッチングマップ	久万川の紹介	〃
こ じ ゃ ん と え い ち や 鏡 川 の 休 日	鏡川ガイドブック	昭和 62 年度
江 ノ 口 川 ウォッチングマップ	江ノ口川の紹介	61



Ⅲ 資料

1. 環境関連条例

- 高知市環境基本条例
- 高知市ダイオキシン類による健康被害の防止及び生活環境の保全に関する条例
- 高知市ほたる条例
- 鏡川清流保全条例
- 高知市公害防止条例
- 高知市里山保全条例

2. 廃棄物関連条例

- 高知市廃棄物の減量及び適正処理等に関する条例

3. その他条例

- わんぱーくこうちアニマルランド条例
- わんぱーくこうち条例
- 高知市みどりの環境の保全と創出に関する条例
- 高知市都市公園条例
- 高知市緑政審議会条例

4. 環境年表

高知市環境基本条例

〔平成9年4月1日
条例第18号〕

改正 平成11年4月1日 条例第13号

私たちのまち高知市は、みどりあふれる山並み、きらめく海、市街地には清流が流れるという恵まれた自然環境の中で、先人の築いた歴史的、文化的遺産を継承しつつ、市民の英知と活力により、県都として今日まで発展を続けてきた。

しかし、その発展を支えてきた都市の活動は、一方で大量の資源やエネルギーを消費し、この都市の環境に多大な影響を与え、さらには私たちの生活そのものを脅かす要因をも生み出している。

また、今日の環境問題は、一部の地域の問題にとどまらず、地球規模の広がりを見せ、ますます複雑、多様化してきており、良好な環境の保全と創造は、世界の人々の共通の願いとなっている。

こうした中で、環境を守ることの大切さを学び、より一層これを自覚するとともに、公害の未然防止、自然環境や都市環境の保全、向上等に努めることにより、環境への負荷の少ない持続的発展が可能な社会をつくりあげていくことが、いま強く求められている。

私たちは、健全で恵み豊かな環境の下に、安心して生活ができ、健康で文化的な暮らしを営む権利を有するとともに、この環境を守り、より質の高いものとして未来の市民に引き継いでいく責務がある。

ここに私たちは、市民の総意として、人と自然が共生できる恵み豊かな環境を保全し、創造するとともに、潤いと安らぎのある安全で魅力的なまちづくりを進めるために、この条例を制定する。

第1章 総則

(目的)

第1条 この条例は、環境の保全及び創造について、基本理念を定め、並びに市、事業者及び市民の責務を明らかにするとともに、環境の保全及び創造に関する施策の基本となる事項を定めることにより、環境の保全及び創造に関する施策を総合的かつ計画的に推進し、もって現在及び将来の世代の市民の安全かつ健康で文化的な生活の確保に寄与することを目的とする。

(定義)

第2条 この条例において、次の各号に掲げる用語の意義は、それぞれ当該各号に定めるところによる。

- (1) 環境への負荷 人の活動により環境に加えられる影響であって、環境の保全上の支障の原因となるおそれのあるものをいう。
- (2) 公害 環境の保全上の支障のうち、事業活動その他の人の活動に伴って生ずる相当範囲にわたる大気汚染、水質汚濁（水質以外の水の状態又は水底の底質が悪化することを含む。）、土壌汚染、騒音、振動、地盤沈下（鉱物の掘採のための土地の掘削によるものを除く。）及び悪臭によって、人の健康又は生活環境（人の生活に密接な関係のある財産並びに人の生活に密接な関係のある動植物及びその生育環境を含む。以下同じ。）に係る被害が生ずることをいう。
- (3) 地球環境の保全 人の活動による地球全体の温暖化又はオゾン層の破壊の進行、海洋の汚染、野生生物の種の減少その他の地球の全体又はその広範な部分の環境に影響を及ぼす事態に係る環境の保全であって、人類の福祉に貢献するとともに市民の安全かつ健康で文化的な生活の確保に寄与するものをいう。

(基本理念)

第3条 環境の保全及び創造は、健全で恵み豊かな環境がすべての市民の安全かつ健康で文化的な生活に欠くことのできないものであることを認識し、より質の高いものとして、これを将来の世代へ継承していくことを目的として行われなければならない。

2 環境の保全及び創造は、すべての事業活動及び日常生活における環境への十分な配慮その他の自主的かつ積極的な取組の下、環境への負荷の少ない持続的な発展が可能な社会を構築することを目的として行われなければならない。

3 地球環境の保全は、すべての事業活動及び日常生活において積極的に推進されなければならない。

(市の責務)

第4条 市は、前条に定める基本理念(以下「基本理念」という。)にのっとり、環境の保全及び創造に関し、地域の特性に応じた総合的かつ計画的な施策を策定し、及び実施する責務を有する。

2 市は、前項の施策の策定及び実施に当たり、広域的な取組を必要とする場合には、国及び他の地方公共団体その他関係機関と協力して行うように努めるものとする。

(事業者の責務)

第5条 事業者は、基本理念にのっとり、その事業活動を行うに当たっては、これに伴って生ずる公害を防止し、廃棄物を適正に処理し、及び自然環境を適正に保全するために必要な措置を講ずるとともに、環境の保全上の支障を防止するため、事業活動に伴う環境への負荷の低減に努めなければならない。

2 前項に定めるもののほか、事業者は、基本理念にのっとり、その事業活動に関し、地域社会の一員として、地域の環境の保全及び創造に自ら積極的に努めるとともに、市が実施する環境の保全及び創造に関する施策に協力する責務を有する。

(市民の責務)

第6条 市民は、基本理念にのっとり、環境の保全上の支障を防止するため、その日常生活に伴う環境への負荷の低減に努めなければならない。

2 前項に定めるもののほか、市民は、基本理念にのっとり、環境の保全及び創造に自ら積極的に努めるとともに、市が実施する環境の保全及び創造に関する施策に協力する責務を有する。

第2章 環境の保全及び創造に関する施策の策定等に係る指針

第7条 環境の保全及び創造に関する施策の策定及び実施は、基本理念にのっとり、次に掲げる基本指針に基づき、各種の施策相互の有機的な連携を図りつつ総合的かつ計画的に行わなければならない。

(1) 人の健康が保護され、及び生活環境が保全され、並びに自然環境が保全されるよう、大気、水、土壌等が良好な状態に保持されること。

(2) 生態系の多様性の確保が図られるとともに、森林、農地、水辺地等における多様な自然環境が体系的に保全されること。

(3) 人と自然との豊かな触れ合いが保たれるとともに、地域の歴史的、文化的特性を生かした快適環境が保全及び創造されること。

第3章 高知市環境基本計画

第8条 市長は、環境の保全及び創造に関する施策を総合的かつ計画的に推進するため、高知市環境基本計画(以下「環境基本計画」という。)を定めなければならない。

2 環境基本計画は、次に掲げる事項について定めるものとする。

(1) 環境の保全及び創造に関する総合的かつ長期的な施策の大綱

(2) 前号に掲げるもののほか、環境の保全及び創造に関する施策を総合的かつ計画的に推進するために必要な事項

- 3 市長は、環境基本計画を定めるに当たっては、市民の意見を反映するように努めるとともに、あらかじめ、高知市環境審議会の意見を聴かなければならない。
- 4 市長は、環境基本計画を定めたときは、速やかに、これを公表しなければならない。
- 5 前2項の規定は、環境基本計画の変更について準用する。

第4章 環境の保全及び創造に関する施策等

(施策の策定等に当たっての配慮)

第9条 市は、環境に影響を及ぼすと認められる施策を策定し、及び実施するに当たっては、環境の保全及び創造について十分配慮しなければならない。

(高知市環境白書)

第10条 市長は、市民に対し、環境の状況並びに市の環境の保全及び創造に関して講じた施策の実施状況等を明らかにするため、高知市環境白書を定期的に作成し、公表しなければならない。

(環境影響評価)

第11条 市は、土地の形状の変更、工作物の新設その他これらに類する事業を行う事業者が、その事業の実施に当たりあらかじめその事業に係る環境への影響について自ら適正に調査、予測又は評価を行い、その結果に基づき、その事業に係る環境の保全について適正に配慮することを促進するため、必要な措置を講ずるものとする。

(規制の措置)

第12条 市は、公害を防止するために、公害の原因となる行為に関し必要な規制の措置を講ずるものとする。

- 2 市は、自然環境の保全を図るため、自然環境の適正な保全に支障を及ぼすおそれがある行為に関し、必要な規制の措置を講ずるものとする。
- 3 前2項に定めるもののほか、市は、環境の保全上の支障を防止するため、必要な規制の措置を講ずるように努めるものとする。

(助成等の措置)

第13条 市は、事業者又は市民が自らの行為に係る環境への負荷の低減のための施設の整備その他の環境の保全及び創造に関する適切な措置をとることとなるように誘導するため、必要な経済的助成、技術的助言等の措置を講ずるように努めるものとする。

(施設の整備の推進)

第14条 市は、廃棄物及び下水の処理施設その他の環境の保全上の支障の防止に資する施設並びに公園、緑地等の人と自然との豊かな触れ合いを確保するための施設の整備を推進するものとする。

(資源の循環的な利用等の促進)

第15条 市は、環境への負荷の低減を図るため、廃棄物の減量、エネルギーの有効利用、資源の循環的な利用等が促進されるように必要な措置を講ずるものとする。

- 2 市は、下水処理水の再利用、雨水の利用その他の水の有効利用及び循環的な利用に資するための事業の促進に努めるものとする。

(森林及び緑地の保全等)

第16条 市は、人と自然が触れ合い、みどりに親しむ恵み豊かな市域の形成を図るため、森林及び緑地の保全、緑化の推進その他の必要な措置を講ずるものとする。

(田園環境の保全等)

第17条 市は、農業生産と生活環境とが調和した豊かな田園環境を保全及び創造するため、農地の有効利用、農村の生活環境の整備その他の必要な措置を講ずるものとする。

(良好な水環境の保全等)

第18条 市は、市民生活に潤いと安らぎを与え、さまざまな水生生物を育む清流や水辺の環境を保全及び創造するため、必要な措置を講ずるものとする。

2 市は、良好な水源及び地下水の保全等を図るため、必要な措置を講ずるものとする。

(美しい海及び渚の保全)

第 19 条 市は、市民の憩いの場であり、漁業及び観光産業等において重要な役割を果たしている美しい海及び渚を保全するため、必要な措置を講ずるものとする。

(都市美の形成)

第 20 条 市は、自然に調和した地域の美観の維持、歴史的遺産の保存と活用、文化的で魅力ある街並みの創造、みどり豊かなまちづくり等を推進し、都市美の形成を図るため、必要な措置を講ずるものとする。

(環境美化の促進等)

第 21 条 市は、環境美化の促進及び美観の保護等を図るため、ごみの投棄及び散乱の防止並びに自転車等の放置の規制等について、必要な措置を講ずるものとする。

(環境教育及び学習の振興等)

第 22 条 市は、市民及び事業者が環境の保全及び創造についての理解を深めるとともに、環境への負荷の低減に資する活動が促進されるように、環境に関する教育及び学習の振興並びに広報活動の充実その他の必要な措置を講ずるものとする。

(自発的な活動の促進)

第 23 条 市は、市民、事業者又はこれらの者で構成する団体が自発的に行う緑化活動、再生資源に係る回収活動その他の環境の保全及び創造に関する自発的な活動が促進されるように、指導、助言その他の必要な措置を講ずるものとする。

(情報の提供)

第 24 条 市は、第 22 条の環境教育及び学習の振興並びに前条の市民等が自発的に行う環境の保全及び創造に関する活動の促進に資するため、個人及び法人の権利利益の保護に配慮しつつ、環境の保全及び創造に関する必要な情報を適切に提供するように努めるものとする。

(調査等)

第 25 条 市は、環境の状況を把握し、並びに環境の保全及び創造に関する施策を適正に実施するために必要な調査を行うとともに、そのために必要な監視、測定等の体制を整備するものとする。

(環境監視員の設置)

第 26 条 市は、環境の状況を把握するために、環境監視員を置くことができる。

2 環境監視員の設置に関し必要な事項は、規則で定める。

第 5 章 地球環境の保全の推進等

第 27 条 市は、地球環境の保全に資する施策の推進に努めるとともに、国等と連携し、地球環境の保全に関する情報の収集及び提供、人材の育成等により、地球環境の保全に関する地域からの国際協力の推進に努めるものとする。

第 6 章 高知市環境審議会

第 28 条 この条例により、その権限に属する事項を審議するほか、市長の諮問に応じて環境の保全及び創造に関する基本的事項について調査審議するため、高知市環境審議会（以下「審議会」という。）を置く。

2 審議会は、環境の保全及び創造に関する基本的事項について市長に意見を述べることができる。

3 審議会は、委員 15 人以内で組織する。

4 特別の事項を調査審議させるため必要があるときは、審議会に特別委員を置くことができる。

5 委員及び特別委員は、次に掲げる者のうちから市長が委嘱する。

(1) 学識経験を有する者及び市民

(2) 関係行政機関の職員

(3) その他市長が適当と認める者

- 6 委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。
- 7 特別委員の任期は、当該特別の事項に関する調査審議が終了するまでの間とする。
- 8 委員及び特別委員は、職務上知り得た秘密を漏らしてはならない。その職を退いた後も同様とする。
- 9 前各項に定めるもののほか審議会の組織及び運営に関し必要な事項は、規則で定める。

附 則

(施行期日)

- 1 この条例は、公布の日から施行する。ただし、次項の規定中高知市公害防止条例（昭和50年条例第28号）第32条の改正規定は、平成9年10月1日から施行する。

(高知市公害防止条例の一部改正)

- 2 高知市公害防止条例の一部を次のように改正する。

第2条を次のように改める。

(定義)

第2条 この条例において「公害」とは、高知市環境基本条例（平成9年条例第18号）第2条第2号に規定する公害をいう。

第32条を次のように改める。

第32条 削除

附 則（平成11年4月1日条例第13号）

(施行期日)

- 1 この条例は、平成11年5月2日から施行する。ただし、第28条第3項の改正規定は、平成12年3月10日から施行する。

(経過措置)

- 2 この条例（前項ただし書に規定する改正規定を除く。以下同じ。）の施行の際現に高知市環境審議会の委員（以下「委員」という。）である者（この条例による改正前の高知市環境基本条例第28条第5項第3号に該当して委員の委嘱を受けている者及び委員に任命されている市職員を除く。）は、この条例による改正後の高知市環境基本条例第28条第5項の規定に基づき委嘱されたものとみなす。ただし、その任期は、この条例の施行の際における委員としての残任期間に相当する期間とする。

高知市ダイオキシン類による健康被害の防止及び生活環境の保全に関する条例

平成 11 年 4 月 1 日
条 例 第 39 号

改 正 平成 14 年 7 月 5 日 条例第 27 号

改 正 平成 20 年 1 月 1 日 条例第 53 号

(目的)

第 1 条 この条例は、ダイオキシン類対策特別措置法（平成 11 年法律第 105 号。以下「法」という。）と相まって、高知市におけるダイオキシン類の発生及び排出の抑制に関する施策を実施することにより、人の健康に係る被害を未然に防止するとともに、生活環境の保全を図ることを目的とする。

(定義)

第 2 条 この条例において、次の各号に掲げる用語の意義は、当該各号に定めるところによる。

- (1) ダイオキシン類 ポリ塩化ジベンゾフラン、ポリ塩化ジベンゾーパラージオキシン及びコプラナーポリ塩化ビフェニルをいう。
- (2) 小型焼却炉 ダイオキシン類対策特別措置法施行令（平成 11 年政令第 433 号）別表第 1 第 5 号の規定に該当しない廃棄物焼却炉をいう。

(市の責務)

第 3 条 市は、ダイオキシン類の発生及び排出を抑制するため、本市の自然的社会的条件に応じた総合的かつ計画的な施策を策定し、及び実施する責務を有する。

- 2 市は、前項の施策の策定及び実施に当たり、必要と認めるときは、国及び他の地方公共団体その他関係機関と協力して行うように努めなければならない。
- 3 市は、ダイオキシン類の発生及び排出の抑制のための施策について、事業者及び市民に対し、積極的な啓発及び指導に努めなければならない。

(事業者の責務)

第 4 条 事業者は、その事業活動を行うに当たっては、ダイオキシン類の発生及び排出のおそれのない製品の製造及び使用に努めるとともに、廃棄物の分別及び再資源化による廃棄物の減量化その他廃棄物を適正に処理することにより、ダイオキシン類の発生及び排出を抑制するよう努めなければならない。

- 2 前項に定めるもののほか、事業者は、市が実施するダイオキシン類の発生及び排出の抑制に関する施策に協力する責務を有する。

(市民の責務)

第 5 条 市民は、廃棄物の分別及び再資源化に努め、焼却により処理する廃棄物の減量を図る等により、ダイオキシン類の発生及び排出を抑制するよう努めなければならない。

- 2 前項に定めるもののほか、市民は、市が実施するダイオキシン類の発生及び排出の抑制に関する施策に協力する責務を有する。

(ダイオキシン類の濃度の測定等)

第 6 条 市長は、大気、土壌その他ダイオキシン類が残留し、人の健康に被害を及ぼすおそれがあると認められるもの（以下「汚染対象物」という。）について、計画的かつ効果的に、そのダイオキシン類の濃度を調査測定（法第 27 条第 1 項の規定による調査測定を除く。）するものとする。

- 2 市長は、前項による調査測定に際しては、その対象となる汚染対象物、範囲、時期等について、あらかじめ、高知市ダイオキシン類対策審議会（以下この条及び次条において「審議会」という。）の意見を聴かなければならない。

3 市長は、第1項の規定により調査測定をしたときは、その結果を審議会に報告するとともに、審議会において特別の理由があると認めた場合を除き、これを公にしなければならない。
(抑制計画の策定)

第7条 市長は、ダイオキシン類の発生及び排出を抑制するため、ダイオキシン類抑制計画（以下「抑制計画」という。）を定めなければならない。

2 抑制計画は、次に掲げる事項について定めるものとする。

- (1) ダイオキシン類の発生及び排出を抑制するための施策の大綱
- (2) ダイオキシン類の発生及び排出を抑制するための指導基準
- (3) その他ダイオキシン類の発生及び排出を抑制するために必要な事項

3 市長は、抑制計画を定めるに当たっては、あらかじめ、審議会の意見を聴かなければならない。

4 市長は、抑制計画を定めたときは、速やかに、これを公表しなければならない。

5 前2項の規定は、抑制計画の変更について準用する。

(小型焼却炉の構造基準等)

第8条 小型焼却炉は、規則で定める構造基準に適合しなければならない。

2 小型焼却炉を用いた廃棄物の焼却は、規則で定める維持管理基準に適合しなければならない。
(小型焼却炉の設置の届出)

第9条 小型焼却炉を設置しようとする者は、規則で定めるところにより、次に掲げる事項を市長に届け出なければならない。

- (1) 氏名又は名称及び住所並びに法人にあっては、その代表者の氏名
- (2) 小型焼却炉を設置する施設等の名称及び所在地
- (3) 小型焼却炉の構造
- (4) 小型焼却炉の使用の方法

(経過措置)

第10条 一の焼却炉が小型焼却炉となった際現にその焼却炉を設置している者（設置の工事をしている者を含む。）は、当該焼却炉が小型焼却炉となった日から30日以内に、規定で定めるところにより、前条各号に掲げる事項を市長に届け出なければならない。

(小型焼却炉の構造等の変更の届出)

第11条 第9条又は前条の規定による届出をした者は、その届出に係る第9条第3号又は第4号に掲げる事項の変更をしようとするときは、規定で定めるところにより、その旨を市長に届け出なければならない。

(計画変更指導及び勧告)

第12条 市長は、第9条又は前条の規定による届出があった場合において、その届出に係る小型焼却炉が第8条第1項に規定する構造基準に適合しないと認めるとき、又は小型焼却炉の使用の方法が適当でないと認めるときは、その届出を受理した日から60日以内において、その届出をした者に対し、当該小型焼却炉の構造若しくは使用の方法に関する計画の変更（前条の規定による届出に係る計画の廃止を含む。）又は第9条の規定による届出に係る小型焼却炉の設置に関する計画の廃止を指導するものとする。

2 市長は、前項の規定による指導を受けた者が当該指導に従わないときは、当該指導に従うよう勧告するものとする。

(実施の制限)

第13条 第9条又は第11条の規定による届出をした者は、その届出が受理された日から60日を経過した後でなければ、それぞれ、その届出に係る小型焼却炉の構造若しくは使用の方法の変更をしてはならない。

2 市長は第9条又は第11条の規定による届出に係る事項の内容が相当であると認めるときは、

前項に規定する期間を短縮することができる。

(氏名の変更等の届出)

第14条 第9条又は第10条の規定による届出をした者は、その届出に係る第9条第1号又は第2号に掲げる事項に変更があったとき、又はその届出に係る小型焼却炉の使用を廃止したときは、その日から30日以内に、規定で定めるところにより、その旨を市長に届け出なければならない。

(承継)

第15条 第9条又は第10条の規定による届出をしたものからその届出に係る小型焼却炉を譲り受け、又は借り受けた者は、当該小型焼却炉にかかる当該届出をした者に地位を承継する。

2 第9条又は第10条の規定による届出をした物について相続、合併又は分割(その届出に係る小型焼却炉を承継させるものに限る。)があったときは、相続人、合併後相続する法人若しくは合併により設立した法人又は分割により当該焼却炉を承継した法人は、当該届出をした者の地位を承継する。

3 前2項の規定により第9条又は第10条の届出をした者の地位を承継した者は、その承継があった日から30日以内に、規則で定めるところにより、その旨を市長に届け出なければならない。

(改善指導及び勧告)

第16条 市長は、小型焼却炉が第8条第1項に規定する構造基準に適合しないと認めるとき、小型焼却炉の使用の方法が適当でないと認めるとき、又は小型焼却炉による廃棄物の焼却の方法が同条第2項に規定する維持管理基準に適合しないと認めるときは、当該小型焼却炉を設置している者に対し、期限を定めて当該小型焼却炉の構造、使用の方法若しくは焼却の方法の改善又は使用の一時停止を指導するものとする。

2 市長は、前項の規定による指導を受けた者が当該指導に従わないときは、当該指導に従うよう勧告するものとする。

(事故時の措置)

第17条 小型焼却炉を設置している者(以下「設置者」という。)は、小型焼却炉の故障、破損その他の事故が発生したときには、直ちに、当該小型焼却炉の使用の一時停止その他の必要な応急の措置を講ずるとともに、その事故を速やかに復旧するよう努めなければならない。

(小型焼却炉にかかる焼却灰等の処理)

第18条 設置者は、小型焼却炉から排出される焼却灰その他の燃え殻(以下「焼却灰等」という。)が飛散し、及び流出しないよう措置を講じなければならない。

2 設置者は、小型焼却炉から排出される焼却灰等の処分を行う場合は、廃棄物の処理及び清掃に関する法律(昭和45年法律第137号)その他関係法令の諸規定に従い、当該焼却灰等を適正に処理しなければならない。

(立入調査等)

第19条 市長は、この条例の施行に必要な限度において、事業者及び市民(以下「事業者等」という。)に対して報告若しくは資料の提出を求め、又は事業者等の当該事業等の用に供する土地若しくは建物に立ち入り、廃棄物その他の物件の保管等若しくは焼却炉等廃棄物の処理若しくは処分の用に供する施設の構造若しくは維持管理等に関し調査し、若しくは汚染対象物の検査(以下「立入調査等」という。)をすることができる。

2 市長は、前項の規定による立入調査等をするため必要があるときは、必要な最少量に限り土壤その他の物を無償で収集することができる。

3 市長は、立入調査等をその命じた者又は委任した者に行わせることができる。

4 立入調査等をする者は、その身分を示す証明書を携帯し、関係人に提示しなければならない。

5 立入調査等の権限は、犯罪捜査のために認められたものと解釈してはならない。

(指導、勧告及び公表)

第20条 市長は、第12条及び第16条に定めるものの他、次の各号のいずれかに該当する者に対

して指導を行い、又は違反行為の停止その他必要な措置を取るべきことを勧告するものとする。

- (1) 第9条から第11条まで、第14条または第15条第3項の規定に違反して届出をせず、又は虚偽の届出をした者
- (2) 第13条第1項の規定に違反して小型焼却炉を設置し、又は小型焼却炉の構造若しくは使用の方法を変更した者
- (3) 前条第1項の規定に違反して報告若しくは資料の提出をせず、又は虚偽の報告若しくは資料の提出をした者
- (4) 前条第1項の規定に違反して立入調査を拒み、妨げ、又は忌避した者
- (5) 前条第2項の規定に違反して正当な理由がないのに土壌等の収集を拒み、妨げ、又は忌避した者

2 市長は、第12条第2項、第16条第2項及び前項の規定による勧告を受けた物が当該勧告に従わないときは、当該勧告を受けた者に弁解の機会を付与した上で、その者の氏名等を公表することができる。

3 第1項に掲げるもののほか、市長はダイオキシン類の発生及び排出を抑制するため必要があると認めるときは、事業者等に対し、必要な指導又は勧告をすることができる。

(ダイオキシン類対策審議会)

第21条 この条例により、その権限に属する事項を審議するほか、市長の諮問に応じてダイオキシン類対策に関する基本的事項について調査審議するため、高知市ダイオキシン類対策審議会(以下「審議会」という。)を置く。

2 審議会は、ダイオキシン類対策に関する基本的事項について市長に意見を述べることができる。

3 審議会は、委員15人以内で組織する。

4 特別の事項を調査審議させるため必要があるときは、審議会に特別委員を置くことができる。

5 委員及び特別委員は、次に掲げる者のうちから市長が委嘱する。

- (1) 学識経験を有する者及び市民
- (2) 関係行政機関の職員
- (3) その他市長が適当と認める者

6 委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

7 特別委員の任期は、当該特別の事項に関する調査審議が終了するまでの間とする。

8 審議会の会議及び審議会に提出された資料は、公開するものとする。ただし、審議会の会議において非公開と決定したものについては、この限りでない。

9 委員及び特別委員は、前項本文の規定により公開されるべきものを除き、その職務上知り得た秘密を漏らしてはならない。その職を退いた後も同様とする。

10 前各項に定めるもののほか、審議会の組織及び運営に関し必要な事項は、規則で定める。

(委任)

第22条 この条例の施行に関し必要な事項は、規則で定める。

附 則

(施行期日)

1 この条例は、別に規則で定める日から施行する。ただし、第21条及び附則第4項の規定は、公布の日から施行する。

(検討)

2 市長は、この条例(前項ただし書に定める規定にかかる部分を除く。以下同じ。)の施行後、ダイオキシン類が人の健康に及ぼす影響に関する科学的知見の充実の程度、大気汚染防止法(昭和43年法律第97号)その他の法令によるダイオキシン類規制の状況その他の事情に著しい変化があり、必要があると認めるときは、所要の措置を講ずるものとする。

3 市長は、臭素系ダイオキシンにつき、人の健康に対する影響の程度、その発生過程等に関する調査研究の結果に基づき、必要な措置を講ずるものとする。

(施行のために必要な準備)

4 市長は、抑制計画を定めようとするときは、この条例の施行の日前においても審議会の意見を聴くことができる。

(春野町の編入に伴う経過措置)

5 春野町の編入(以下「編入」という。)の際現に旧春野町の区域において、小型焼却炉(編入の日以後に使用されるものに限る。)を設置している者(設置の工事をしている者を含む。)は、第10条に規定する焼却炉を設置している者とみなして、同条の規定を適用する。この場合において、同条中「当該焼却炉が小型焼却炉となった日から30日以内」とあるのは、「平成20年3月31日まで」とする。

附 則 (平成14年7月5日条例第27号)

(施行期日)

1 この条例は、公布の日から施行する。

(経過措置)

2 この条例による改正後の高知市ダイオキシン類による健康被害の防止及び生活環境の保全に関する条例第8条から第16条まで及び第20条第1項(第3号から第5号までの規定を除く。)の規定は、平成14年12月1日において現に設置されている小型焼却炉のうち同日以後に使用されるもの及び同日以後に新たに設置される小型焼却炉について適用する。

附 則 (平成20年1月1日条例第53号)

この条例は、公布の日から施行する。

高知市ほたる条例

〔昭和 61 年 4 月 1 日
条 例 第 7 号〕

改正 平成 4 年 4 月 1 日 条例第 1 2 号

改正 平成 6 年 10 月 1 日 条例第 4 3 号

改正 平成 20 年 1 月 1 日 条例第 4 3 号

(目的)

第 1 条 この条例は、本市の区域内に棲息するほたるの乱獲を防止し、ほたる発生の助長を図ることを目的とする。

(捕獲の禁止等)

第 2 条 市の区域内においては、何人も、業として、ほたるを捕獲してはならない。

2 何人も、前項の規定に違反して捕獲されたほたるを譲渡し、譲受け、又は販売若しくは保管のため引渡し、若しくはその引渡しを受けてはならない。

(市民の協力)

第 3 条 市民は、ほたるの乱獲を防止し、その保護に努めるものとする。

(罰則)

第 4 条 営利の目的をもって第 2 条の規定に違反した者は、10 万円以下の罰金に処する。

(両罰規定)

第 5 条 法人の代表者又は法人若しくは人の代理人、使用人その他の従業者が、その法人又は人の業務に関して、前条の違反行為をしたときは、行為者を罰するほか、その法人又は人に対しても、同条の罰金刑を科する。

(委任)

第 6 条 この条例の施行に関し必要な事項は、市長が定める。

附 則

(施行期日)

1 この条例は、公布の日から施行する。

(春野町の編入に伴う経過措置)

2 春野町の編入の前日にした春野町ほたる保護条例(平成 2 年春野町条例第 11 号)に違反する行為に対する罰則の適用については、なお、従前の例による。

附 則(平成 4 年 4 月 1 日条例第 12 号)

(施行期日)

1 この条例は、平成 4 年 5 月 1 日から施行する。

(経過措置)

2 この条例の施行前にした行為に対する罰則の適用については、なお従前の例による。

附 則(平成 6 年 10 月 1 日条例第 43 号)

(施行期日)

1 この条例は、平成 7 年 4 月 1 日から施行する。

(経過措置)

2 この条例の施行前にした行為に対する罰則の適用については、なお従前の例による。

附 則(平成 20 年 1 月 1 日条例第 54 号)

この条例は、公布の日から施行する。

鏡川清流保全条例

〔平成元年10月1日
条例第37号〕

改正	平成4年 4月1日	条例第12号	平成11年4月1日	条例第15号
	平成6年10月1日	条例第43号	平成13年7月1日	条例第24号

鏡川は、流域の豊かな自然環境を形成するとともに、幾多の文化と歴史をはぐくみ、市民生活に潤いと安らぎを与えてきた。

また、鏡川は市民にとって重要な飲料水源であり、かつ、アユをはじめとする多くの水生生物の生息の場でもあり、いわば生命の源である。

すでにわれわれは、高知市民憲章として鏡川を清潔なまちのシンボルに掲げ、その清流を市民のふれあいや憩いの場として親しんできた。

市民は、都市化の進展や時代の移り変わりによってかげりを生じつつある鏡川の清流と詩情豊かな水辺空間の回復を強く望んでいる。

この市民の心のふるさつである鏡川の清流を保全し、次代に引き継ぐことは、われわれに課せられた重大な責務である。

ここにわれわれは、衆知と総力を結集し、市民あげて鏡川の清流を保全し、良好な水辺環境を確保していくために、この条例を制定する。

第1章 総則

(趣旨)

第1条 この条例は、鏡川の清流及び水辺環境を保全し、緑豊かな水辺空間を形成するため、河川管理者の清流保全対策並びに鏡川水系河川環境管理基本計画（以下「環境管理基本計画」という。）と相まって、市長、事業者及び市民のそれぞれの責務を明らかにするとともに、鏡川清流保全に関する必要な事項を定めるものとする。

(定義)

第2条 この条例において、次の各号に掲げる用語の意義は、当該各号に定めるところによる。

- (1) 鏡川 鏡川本川及び各支川並びにこれに接続する公共溝渠、かんがい用水路その他公共の用に供される水路をいう。
- (2) 浄化装置 鏡川に排出される排出水の浄化に有効な装置で、規則で定めるものをいう。
- (3) 家庭排水 市民の日常生活により、厨房・浴室等から排出されるすべての排出水をいう。

(市長の責務)

第3条 市長は、市民が鏡川の良好な水辺空間と自然環境を享受できるよう、鏡川の清流保全に関する基本的かつ総合的な施策を策定し、これを実施しなければならない。

(事業者の責務)

第4条 事業者は、その事業活動によって、鏡川の清流と自然環境を損なわないよう、自己の責任と負担において必要な措置を講ずるための最大限の努力をするとともに、市長が実施する施策に協力しなければならない。

(市民の責務)

第5条 市民は、鏡川の浄化を図るため、自ら積極的に努力するとともに、市長が実施する施策に協力しなければならない。

(啓発活動)

第6条 市長は、鏡川の清流保全のための知識の普及及び意識の高揚に努めなければならない。

第2章 鏡川清流保全基本計画

(基本計画)

第7条 市長は、鏡川の清流を保全するため、鏡川清流保全基本計画（以下「基本計画」という。）を定めるものとする。ただし、河川法（昭和39年法律第167号）に規定する河川区域内については、河川管理者の策定する環境管理基本計画によるものとする。

2 前項の基本計画には、次に掲げる事項を定めるものとする。

- (1) 清流の保全に関する事項
- (2) 自然環境の保全に関する事項
- (3) 景観の形成に関する事項
- (4) 前3号に定めるもののほか、鏡川の清流保全に関し必要な事項

3 市長は、基本計画の決定又は変更にあたっては、あらかじめ河川管理者と協議するとともに、鏡川清流保全審議会の意見を聴かなければならない。

4 市長は、基本計画の決定又は変更があつたときは、これを公表しなければならない。

第3章 清流及び自然環境の保全並びに景観の形成

第1節 清流の保全

(水質管理区域)

第8条 市長は、鏡川の水質を保全するため、水質管理区域を指定することができる。

2 市長は、前項の区域の指定をしようとするときは、あらかじめ河川管理者及び鏡川清流保全審議会の意見を聴かなければならない。

3 市長は区域を指定したときは、これを告示しなければならない。

4 前2項の規定は、区域の変更又は解除について準用する。

(水質管理基準)

第9条 水質管理区域における鏡川の水質管理基準は、規則で定める。

(工場等の排水基準)

第10条 市長は、水質管理区域内における、別に規則で定める工場・事業場（以下「工場等」という。）について、当該工場等から排出される排水の水質を規制するため排水基準を定めることができる。

2 市長は、前項の規定による排水基準を定めようとするときは、あらかじめ鏡川清流保全審議会の意見を聴かなければならない。

3 市長は、排水基準を定めたときは、これを告示しなければならない。

4 前2項の規定は、排水基準の変更又は廃止について準用する。

(工場等の設置の届出及び遵守義務)

第11条 水質管理区域において工場等を設置し、鏡川に排水を排出しようとする者は、次の各号に掲げる事項についてあらかじめ市長に届け出なければならない。

- (1) 氏名及び住所（法人にあつては、名称・代表者の氏名及び主たる事務所の所在地）
- (2) 工場等の名称及び所在地
- (3) 業種及び営業内容
- (4) 敷地及び建物並びに施設の状況
- (5) 汚水発生が予想される施設の構造、使用方法及び配置
- (6) 汚水処理の施設及びその方法
- (7) 一般及び産業廃棄物の種類、発生量及び処理方法
- (8) その他規則で定める事項

2 前項の規定により設置した工場等から排水を排出する者及びこの条例の施行の際に、水質管理区域において現に工場等を設置し、鏡川に排水を排出している者は、排水基準を超える排水を鏡川に排出してはならない。

(工場等の変更の届出)

第12条 前条の規定による届出をした者又はこの条例の施行の際に、現に工場等を設置している者（設置の工事を行っている者を含む。）が、設置について届出した事項に変更を生じたときは、速やかにその旨を市長に届け出なければならない。

（家庭排水）

第13条 市民は、水質管理区域において家庭排水を鏡川に排出しようとするときは、浄化装置を設置して排出するように努めなければならない。

（助成措置）

第14条 市長は、浄化装置の設置を促進するため、市民に対し適切な指導及び助成を行うものとする。

第2節 自然環境の保全及び景観の形成

（自然環境保全区域及び景観形成区域）

第15条 市長は、鏡川の優れた自然環境を保全するため、自然環境保全区域を指定することができる。

- 2 市長は、鏡川の歴史的・文化的・伝統的な特性を生かした個性ある河川景観を形成するため、景観形成区域を指定することができる。
- 3 市長は、前2項の区域の指定をしようとするときは、河川法に規定する河川区域を除外するとともに、あらかじめ鏡川清流保全審議会の意見を聴かななければならない。
- 4 市長は、自然環境保全区域を指定しようとするときは、規則で定めるところによりその旨を公告し、その案を当該公告の日から14日間公衆の縦覧に供しなければならない。
- 5 前項の規定による公告があつたときは、当該区域に係る利害関係人は、同項の縦覧期間満了の日までに、縦覧に供された案について、市長に意見書を提出することができる。
- 6 市長は、前項の規定により縦覧に供された案について異議がある旨の意見書の提出があつたとき、又は当該自然環境保全区域の指定に関し広く意見を聴く必要があると認めたときは、公聴会を開催するものとする。
- 7 市長は、自然環境保全区域又は景観形成区域を指定したときは、これを告示しなければならない。
- 8 第3項及び前項の規定は、自然環境保全区域の変更又は解除について、第3項から前項までの規定は、自然環境保全区域の拡張について、それぞれ準用する。
- 9 第3項及び第7項の規定は、景観形成区域の変更又は解除について準用する。

（行為の届出）

第16条 自然環境保全区域において、次の各号に掲げる行為をしようとする者は、あらかじめ市長にその旨を届け出なければならない。

- (1) 建築物その他の工作物を新築し、増改築し、又は移転すること。
 - (2) 宅地の造成・土地の開こん・土砂の採取その他土地の形質に変更を加えること。
 - (3) 木竹の伐採
 - (4) 動植物の保護に影響を及ぼす行為で規則で定めるもの
 - (5) 前各号に掲げるもののほか、自然環境保全区域における自然環境の保全に影響を及ぼすおそれのある行為で規則で定めるもの
- 2 前項に規定する行為は、次の各号に掲げる条件に適合するものでなければならない。
 - (1) 汚水・泥水その他の原因により鏡川の水質を汚濁しないよう、排水処理対策が講じられていること。
 - (2) 動植物などの生息環境に重大な影響を及ぼすおそれがないよう、対策が講じられていること。
 - (3) 鏡川的美観風致又は良好な環境を破壊しないよう、対策が講じられていること。
 - 3 次の各号に掲げる行為については、第1項の規定は適用しない。

- (1) 非常災害のために必要な応急措置として行う行為
- (2) 国又は地方公共団体が行う行為
- (3) 通常の管理行為
- (4) 河川法その他の法令の規定に基づく行為
- (5) 前各号に掲げるもののほか、自然環境保全区域における自然環境の保全に支障を及ぼすおそれがないもので、規則で定めるもの
(行為の変更の届出)

第17条 前条第1項の規定による届出をした者が、届出をした事項に変更を生じたときは、速やかにその旨を市長に届け出なければならない。

第3節 勧告及び命令等

(実施の制限)

第18条 第11条第1項の規定による届出をした者は、その届出が受理された日から起算して60日を経過した後でなければ同項第4号から第6号までに定める当該届出に係る工事をしてはならない。

2 第16条第1項の規定による届出をした者は、その届出が受理された日から起算して30日を経過した後でなければ当該届出に係る行為に着手してはならない。

3 市長は、前2項の規定による届出に係る事項の内容が相当であると認めるときは、同項に規定する期間を短縮することができる。

(計画変更勧告)

第19条 市長は、第11条第1項の規定による届出があつた場合において、当該届出に係る工場等から排出される排水が、排出基準に適合しないおそれがあると認めるときは、当該届出をした者に対し、排水基準に適合するために必要な措置を採るよう計画の変更を勧告することができる。

(改善勧告)

第20条 市長は、第10条第1項に規定する排水基準を超えて排水を排出していると認めるとき又は継続して排水基準を超える排水を排出するおそれがあると認めるときは、当該排水を排出する者に対し、期限を定めて排水等の処理の方法の改善その他必要な措置を講ずるよう勧告することができる。

(改善及び停止命令)

第21条 市長は、前2条に規定する勧告を受けた者がその勧告に従わないで排水基準に違反して排水を排出しているときは、期限を定めてその勧告に係る措置を採るべきことを命じ、又は排水の排出の一時停止を命ずることができる。

(変更又は改善の指導)

第22条 市長は、第16条第1項に規定する届出が同条第2項の条件を満たさない場合又は満たさないおそれがあると認めるときは、当該行為の届出をした者に対し、当該計画の変更又は改善の指導をすることができる。

(変更又は中止の勧告)

第23条 市長は、第16条第1項に規定する行為を同条第2項の条件に違反して行つた者に対し、当該行為の変更又は中止若しくは必要な措置を採るべきことを勧告することができる。

第4章 鏡川清流保全推進組織

(鏡川清流保全推進本部の設置)

第24条 本市に、鏡川の清流保全対策を推進するため、鏡川清流保全推進本部を置く。

(鏡川清流保全推進会議の設置)

第25条 市長は、鏡川清流保全に関する意見や情報交換等を行うため、鏡川流域の関係行政機関と協議し、鏡川清流保全推進会議を設置することができる。

第5章 鏡川清流保全審議会

(鏡川清流保全審議会)

第26条 この条例により、その権限に属する事項を審議するほか、市長の諮問に応じ、鏡川の清流保全に関する重要事項を調査審議するため、鏡川清流保全審議会（以下「審議会」という。）を置く。

- 2 審議会は、鏡川の清流保全に関する重要事項について市長に意見を述べることができる。
- 3 審議会は、委員15人以内で組織する。
- 4 審議会は、専門的事項を調査審議させるため、必要があるときは、特別委員を置くことができる。
- 5 委員及び特別委員は、次の各号に掲げる者のうちから市長が委嘱する。
 - (1) 学識経験を有する者及び市民
 - (2) 関係行政機関の職員
- 6 委員の任期は、2年とする。ただし、委員が欠けた場合における補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。
- 7 審議会に会長を置き、委員の互選によりこれを選出する。
- 8 審議会の組織・運営について必要な事項は、会長が審議会に諮って定める。

第6章 補則及び罰則

(立入調査)

第27条 市長は、この条例の施行のため必要があると認めるときは、本市職員に他人の所有又は占有する土地・工場等に立ち入らせ、その状況を調査させ、又は関係人に対する指示を行わせることができる。

- 2 前項の規定による立入調査を行う職員は、その身分を示す証明書を携帯し、関係人の請求があつたときは、これを提示しなければならない。
- 3 何人も正当な理由がない限り、第1項の規定による立入調査を拒み、又は妨げてはならない。

(地位の承継)

第28条 第11条第1項の規定による届出をした者から当該工場等を譲り受け、又は借り受けた者は、当該届出をした者の地位を承継する。

- 2 第11条第1項又は第16条第1項の規定による届出をした者について相続、合併又は分割(当該届出に係る工場等又は行為を承継させるものに限る。)があつた場合は、相続人、合併後存続する法人若しくは合併により設立された法人又は分割により当該工場等若しくは当該行為を承継した法人は、当該届出をした者の地位を承継する。
- 3 前2項の規定により、第11条第1項又は第16条第1項の規定による届出をした者の地位を承継した者は、その承継があつた日から30日以内にその旨を市長に届け出なければならない。

(罰則)

第29条 第21条の規定による命令に違反した者は、1年以下の懲役又は20万円以下の罰金に処する。

第30条 第11条第1項若しくは第16条第1項の規定による届出をせず、又は虚偽の届出をした者は、10万円以下の罰金に処する。

第31条 第11条第1項若しくは第16条第1項の規定による届出をせず、又は虚偽の届出をした者は、10万円以下の罰金に処する。

第31条 次の各号の一に該当する者は、5万円以下の罰金に処する。

- (1) 第18条第1項又は第2項の規定に違反した者
- (2) 第27条第3項の規定に違反した者

(両罰規定)

第32条 法人の代表者又は法人若しくは人の代理人、使用人その他の従業者がその法人又は人の業務に関し、前3条の違反行為をしたときは、行為者を罰するほか、その法人又は人に対して各本条の罰金刑を科する。

(委任)

第 33 条 この条例の施行に関し必要な事項は、規則で定める。

附 則

(施行期日)

1 この条例は、平成 2 年 4 月 1 日（以下「施行日」という。）から施行する。ただし、第 26 条の規定は、公布の日から施行する。

(経過措置)

2 この条例の施行の際に、水質管理区域において、現に工場等を設置し、鏡川に排出水を排出している者は、第 11 条第 1 項の規定による届出をしたものとみなす。

3 第 21 条の規定は、水質管理区域において、この条例の施行の際に、現に工場等を設置している者については、施行日から 5 年間は適用しない。

4 この条例の施行後において、水質管理区域内の工場・事業場が法令等の改正により第 10 条第 1 項に規定する工場等になった場合については、当該工場等となった日から 5 年間は第 21 条の規定を適用しないものとする。

附 則（平成 4 年 4 月 1 日条例第 12 号）

(施行期日)

1 この条例は、平成 4 年 5 月 1 日から施行する。

(経過措置)

2 この条例の施行前にした行為に対する罰則の適用については、なお従前の例による。

附 則（平成 6 年 10 月 1 日条例第 43 号）

(施行期日)

1 この条例は、平成 7 年 4 月 1 日から施行する。

(経過措置)

2 この条例の施行前にした行為に対する罰則の適用については、なお従前の例による。

附 則（平成 11 年 4 月 1 日条例第 15 号）

(施行期日)

1 この条例は、平成 11 年 5 月 2 日から施行する。ただし、第 26 条第 3 項の改正規定は、平成 11 年 11 月 1 日から施行する。

(経過措置)

2 この条例（前項ただし書に規定する改正規定を除く。以下同じ。）の施行の際現に鏡川清流保全審議会の委員（以下「委員」という。）である者（この条例による改正前の鏡川清流保全条例第 26 条第 5 項第 2 号に該当して委員の委嘱を受けている者及び同項第 3 号に該当して委員に任命されている市職員を除く。）は、この条例による改正後の鏡川清流保全条例第 26 条第 5 項の規定に基づき委嘱されたものとみなす。ただし、その任期は、この条例の施行の際における委員としての残任期間に相当する期間とする。

附 則（平成 13 年 7 月 1 日条例第 24 号）

この条例は、公布の日から施行し、平成 13 年 4 月 1 日から適用する。

高知市公害防止条例

〔昭和 50 年 7 月 25 日
条 例 第 28 号〕

改正	平成 4 年 4 月 1 日	条例第 12 号	平成 13 年 7 月 1 日	条例第 24 号
	平成 6 年 10 月 1 日	条例第 43 号	平成 18 年 7 月 1 日	条例第 42 号
	平成 9 年 4 月 1 日	条例第 18 号	平成 20 年 1 月 1 日	条例第 52 号
	平成 11 年 4 月 1 日	条例第 14 号		

経済及び社会の開発は、好ましい生活の維持と進歩に必要な諸条件をつくるものではあるが、そのためにみだりに自然を破壊し、動植物の生態系等に重大な影響を及ぼし、静穏で快適な市民の生活環境を破壊してはならない。

すべての市民は、豊かな環境において健康で安全かつ快適な生活を営む基本的権利を有するとともに、その環境を将来の世代のために保護し、向上すべき責務を負っている。

すべての事業者は、その事業活動によって市民の健康と福祉を阻害してはならず、市民もまた他人が健康で安全かつ快適な生活を営む権利を尊重する義務を負うのであって、その権利を侵す公害の発生原因となるような自然及び生活環境の破壊行為を行ってはならない。

自然と人間の調和を無視して発展してきた現代の産業と都市が大気の汚染・水質の汚濁・土壌の汚染・騒音・振動・悪臭等の公害をもたらし、深刻な環境悪化をひきおこしていることにかんがみ、われわれは、すべての公害を厳しく防止絶滅し、快適な生活を営むことのできる良好な環境を確保するとともに、将来の世代のためにこれを向上し継承していくため、ここにこの条例を制定する。

第 1 章 総則

(目的)

第 1 条 この条例は、市民の健康で安全かつ快適な生活を確保するうえに公害防止が極めて重要であることにかんがみ、市長、事業者及び市民の責務を明らかにするとともに、公害防止に関する基本となる事項を定めることにより、その施策の総合的推進を図り、もって市民の健康を保護するとともに、生活環境を保全することを目的とする。

(定義)

第 2 条 この条例において「公害」とは、高知市環境基本条例（平成 9 年条例第 18 号）第 2 条第 2 号に規定する公害をいう。

(市長の責務)

第 3 条 市長は、あらゆる施策を通じて公害防止に努めるとともに、良好な生活環境を保全し、もって市民の健康で安全かつ快適な生活を確保しなければならない。

(事業者の責務)

第 4 条 事業者は、事業活動による公害を防止するため、自己の責任と負担において必要な措置を講じなければならない。

2 事業者は、法令又はこの条例に違反しない場合においても、公害を防止するため最大限の努力をしなければならない。

3 事業者は、公害防止に関する技術の開発及び研究を行うよう努めなければならない。

4 事業者は、市長その他の行政機関が実施する公害の防止のための施策に積極的に協力しなければならない。

(市民の責務)

第 5 条 市民は、健康で安全かつ快適な生活を営む自己の権利が公害により侵害されないようその確保に努めるとともに、自らも公害を発生させることがないように努めなければならない。

2 市民は、市長が実施する公害の防止に関する施策に積極的に協力しなければならない。

第2章 公害防止基本計画

(公害防止基本計画)

第6条 市長は、市民の健康で安全かつ快適な生活を確保するため、公害防止基本計画（以下「基本計画」という。）を定めなければならない。

2 前項の基本計画には、次に掲げる事項を定めるものとする。

- (1) 公害防止に関する基本構想
- (2) 公害の現況と公害防止に関する基本的施策
- (3) 前各号のほか、公害防止に関する重要な事項

3 市長は、基本計画を定めようとするときは、あらかじめ高知市公害対策審議会の意見を聞かなければならない。

4 市長は、基本計画を定めたときは、これを公表しなければならない。

5 前2項の規定は、基本計画の変更について準用する。

(計画の整合)

第7条 市長は、土地の開発整備に関する計画、土地の利用に関する計画、公共施設の整備に関する計画、産業に関する計画等の策定及びこれらの計画に基づく事業の実施にあたっては、これらが基本計画に整合するよう総合的な検討及び調整を行わなければならない。

第3章 公害防止の施策

第1節 工場、事業場等に対する規制

(工場、事業場等の立地における環境保全)

第8条 事業者は、工場、事業場等の立地に際しては、公害の防止及び生活環境の保全に特に留意するとともに、文化財その他の歴史的遺産を破壊し、又は損傷するおそれのない場所に設置するよう努めなければならない。

(基準総排出量の設定)

第9条 市長は、特に公害の防止を図る必要がある地域又は公共用水域（以下「水域」という。）について、その地域又は水域に係るすべての工場、事業場等からその地域又は水域へ排出される広域汚染の原因となる物質（以下「汚染原因物質」という。）のそれぞれの総排出量の許容限度（以下「基準総排出量」という。）を定めることができる。

2 市長は、基準総排出量及びその地域又は水域を定めようとするときは、あらかじめ高知市公害対策審議会の意見を聞かなければならない。

3 市長は、基準総排出量及びその地域又は水域を定めた場合は、これを告示しなければならない。

(規制措置)

第10条 市長は、工場、事業場等で、規則で定める業種のもの（以下「工場等」という。）において発生する騒音等の規制基準を規則で定めることができる。

2 工場等を設置している者は、当該工場等に係る規制基準を超えて騒音等を発生し、又は排出してはならない。

3 市長は、第1項の規定による規制基準を定めようとするときは、あらかじめ高知市公害対策審議会の意見を聞かなければならない。当該基準を変更し、又は廃止しようとするときも同様とする。

(工場等の届出)

第11条 工場等を設置しようとする者は、次の各号に掲げる事項を市長に届け出なければならない。

- (1) 氏名及び住所（法人にあつては、名称、代表者の氏名及び主たる事務所の所在地）
- (2) 工場等の名称及び所在地
- (3) 業種及び営業内容

- (4) 敷地及び建物並びに施設の状況
- (5) 公害発生が予想される施設の構造、使用の方法及び配置
- (6) 公害防止の方法
- (7) 産業廃棄物の種類、発生量及び処理方法
- (8) その他規則で定める事項
(工場等の変更の届出)

第 12 条 前条の規定による届出をした者又はこの条例の施行の際現に工場等を設置している者(設置の工事をしている者を含む。以下同じ。)が同条第 3 号から第 7 号までに掲げる事項を変更しようとするときは、市長に届け出なければならない。

(氏名等の変更の届出)

第 13 条 第 11 条の届出をした者又はこの条例の施行の際現に工場等を設置している者が同条第 1 号及び第 2 号に掲げる事項を変更したときは、その日から 30 日以内にその旨を市長に届け出なければならない。

(計画変更勧告)

第 14 条 市長は、第 11 条又は第 12 条の規定による届出があつた場合において、その届出に係る工場等から発生する公害が規制基準に適合しないおそれがあると認めるとき、又はその工場等から排出される汚染原因物質が基準総排出量の限度を超えて排出されるおそれがあると認めるときは、その届出を受理した日から 60 日(第 11 条第 3 号及び第 7 号に掲げる事項の変更にあつては 30 日)以内にその届出をした者に対し、その事態を除去するために必要な措置をとるよう計画を変更すべきことを勧告することができる。

(実施の制限)

第 15 条 第 11 条又は第 12 条の規定による届出をした者は、その届出が受理された日から 60 日(第 11 条第 3 号及び第 7 号に掲げる事項の変更にあつては 30 日)を経過した後でなければその届出に係る工事を開始してはならない。

2 市長は、前項の規定による届出に係る事項の内容が相当であると認めるときは、前項に規定する期間を短縮することができる。

(改善勧告)

第 16 条 市長は、規制基準を超えて騒音等を発生し、又は排出している工場等について、当該工場等を設置している者に対し、期限を定めて公害防止の方法を改善し、又は公害を発生する施設の構造、使用の方法若しくは配置を変更すべきことを勧告することができる。

(改善命令)

第 17 条 市長は、第 14 条の規定による勧告を受けた者がその勧告に従わないで工場等を設置し、規制基準に違反しているとき、又は前条の規定による勧告を受けた者がその勧告に従わないときは、期限を定めてその勧告に係る措置をとるべきことを命じ、又は騒音等を発生する作業若しくは排水等の排出の一時停止を命じることができる。

(措置の届出)

第 18 条 前 2 条に規定する勧告又は命令を受けた者が当該勧告又は命令に係る措置をとつたときは、速やかに市長に届け出て、その検査を受けなければならない。

(事故の措置)

第 19 条 工場等を設置している者は、事故の発生により法令及びこの条例に定められた規制基準を超えて騒音等を発生し、又は排出した場合及び発生又は排出するおそれが生じた場合は、直ちにその事故について応急の措置を講じ、速やかに復旧するよう努めるとともに、その旨を市長に報告しなければならない。

2 前項の規定による報告をした者は、当該事故発生の日から 15 日以内に当該事態の再発防止のための措置に関する計画を市長に届け出なければならない。

3 前項の規定により、計画を届け出た者が当該計画に係る措置を完了したときは、速やかにその旨を市長に報告しなければならない。

(事業委託者の協力義務)

第20条 事業者は、資本金の額若しくは出資の総額が自己より小さい法人たる事業者又は常時使用する従業者の数が自己より小さい法人若しくは個人たる事業者に対し、業として次の各号の一に掲げる行為を委託する場合には、当該委託を受けて同号の行為を行う事業者（以下「下請事業者」という。）の工場等から発生する公害の防止を図るため必要な協力をしなければならない。

(1) その者が業として行う販売又は製造（加工を含む。以下同じ。）の目的物たる物品又はその半製品、部品、付属品若しくは原材料の製造

(2) その者が業として行う販売又は製造の目的物たる物品又はその半製品、部品、付属品若しくは原材料の製造のための設備又はこれに類する器具の製造若しくは修理

2 市長は、前項の場合において、下請事業者の工場等から法令及びこの条例に定められた規制基準を超えて公害が発生していると認めるときは、当該委託をした事業者に対し、期限を定めて公害の防止に関し、必要な協力をすべきことを勧告することができる。

(中小企業者等に対する助成)

第21条 市長は、中小企業者等が公害防止のために行う施設の設置又は改善について金融上の助成及び技術的指導その他必要な措置を講ずるよう努めるものとする。

(工場等の移転、集団化)

第22条 市長は、用途地域を純化し、及び公害を防止するため必要に応じ、工場等と住宅その他の施設とが混在している地域で公害が著しい地域又は著しくなるおそれがある地域内に所在する工場等について、その地域外への移転又は集団化の促進を図ることに努めるものとする。

第2節 特定建設作業に対する規制

(特定建設作業の規制措置)

第23条 市長は、建設作業で規則で定める作業（以下「特定建設作業」という。）において発生する騒音等の規制基準を規則で定めることができる。

2 特定建設作業を行う者は、当該特定建設作業に係る規制基準を超えて騒音等が発生してはならない。

3 第10条第3項の規定は、特定建設作業に係る規制基準について準用する。

(実施の届出)

第24条 特定建設作業を伴う工事を施工しようとする者は、当該特定建設作業の開始の日の7日前までに次の各号に掲げる事項を市長に届け出なければならない。ただし、災害その他非常の事態の発生により、特定建設作業を緊急に行う必要がある場合は、この限りでない。

(1) 氏名及び住所（法人にあっては、名称、代表者の氏名及び主たる事務所の所在地）

(2) 建設工事に係る施設又は工作物の種類

(3) 特定建設作業の場所及び実施の期間

(4) 騒音防止の方法

(5) その他規則で定める事項

2 前項ただし書の場合において、当該建設工事を施工する者は、速やかに同項各号に掲げる事項を市長に届け出なければならない。

3 前2項の規定による届出には、当該特定建設作業の場所の付近の見取図及び特定建設作業を伴う建設工事の工程の概要を示した工事工程表を添付しなければならない。

(改善勧告)

第25条 市長は、特定建設作業に伴って発生する騒音等が昼間、夜間その他の時間の区分及び特定建設作業の作業時間等の区分並びに区域の区分ごとに規制基準に適合しないことにより、そ

の特定建設作業の場所の周辺の生活環境が著しくそこなわれると認めるときは、当該建設工事を施工する者に対し、期限を定めて騒音等の防止の方法を改善し、又は特定建設作業の作業時間を変更すべきことを勧告することができる。

(改善命令)

第 26 条 市長は、前条の規定による勧告を受けた者がその勧告に従わないで特定建設作業を行っているときは、期限を定めてその勧告に係る措置をとるべきことを命ずることができる。

第 3 節 公害の監視及び公表

(監視測定体制の整備)

第 27 条 市長は、公害の状況を把握し、公害防止のための措置を適正に実施するため必要な監視測定体制の整備に努めるものとする。

(管理及び監視)

第 28 条 事業者は、その管理に係る工場等及び特定建設作業の公害の発生源を厳重に管理するとともに、公害の発生原因及び発生状況を常時監視しなければならない。

(公害状況の公表)

第 29 条 市長は、調査及び監視の結果、明らかになった公害の状況を市民に公表するものとする。

2 市長は、前項の場合において、法令又はこの条例に違反して著しく公害を発生している者があるときは、その者を明らかにしなければならない。

第 4 章 公害防止協定

(公害防止協定の締結)

第 30 条 市長は、規制措置によるもののほか、公害防止に関する施策を積極的にすすめるため、事業者と公害防止に関する協定（以下「公害防止協定」という。）を締結することができる。

2 事業者は、前項の規定による公害防止協定の締結について、市長から求めがあつた場合は、これに応じなければならない。

3 公害防止協定の当事者は、公害防止協定に定められた事項を遵守しなければならない。

第 5 章 市民参加

(市民運動への配慮)

第 31 条 市長は、公害の防止に関する知識の普及及び公害防止の意識の高揚に努めるとともに、市民が自主的な運動を通じて公害防止に資することができるよう必要な措置を講ずるものとする。

第 32 条 削除

第 6 章 公害対策審議会

(公害対策審議会)

第 33 条 この条例により、この権限に属する事項を調査審議するほか、市長の諮問に応じ公害に関する重要事項を調査審議するため高知市公害対策審議会（以下「審議会」という。）を設置する。

2 審議会は、公害の防止に関する重要事項について市長に意見を述べることができる。

(組織)

第 34 条 審議会は、委員 15 人以内で組織する。

2 審議会は、専門的事項を調査審議させるため必要があるときは、特別委員若干人を置くことができる。

3 委員及び特別委員は、次の各号に掲げる者のうちから市長が委嘱する。

(1) 学識経験を有する者及び市民

(2) 関係行政機関の職員

(任期)

第 35 条 委員の任期は、2 年とする。ただし、委員が欠けた場合における補欠の委員の任期は、

前任者の残任期間とする。

- 2 前項の規定にかかわらず、学識経験を有する者及び市民以外の委員が委嘱されたときにおける当該職を失ったときは、委員の職を失う。
- 3 特別委員の任期は、当該専門的事項に関する調査審議が終了するまでの間とする。

(会長)

第 36 条 審議会に会長を置き、委員の互選によってこれを選出する。

- 2 会長は、審議会を代表し、会務を総理する
- 3 会長に事故あるとき、又は会長が欠けたときは、あらかじめ会長が指名した委員がその職務を代理する。

(会議)

第 37 条 審議会は、会長が招集し、会長が議長となる。

- 2 審議会は、委員及び議事に関係ある特別委員のそれぞれ過半数が出席しなければ会議を開くことができない。
- 3 審議会の議事は、出席した委員及び議事に関係ある特別委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(専門委員会)

第 38 条 審議会に特別の事項を調査審議するため、必要があるときは、専門委員会を設置することができる。

- 2 専門委員会の委員は、審議会の委員のうちから会長が指名する。

(委任)

第 39 条 第 33 条から前条までに定めるもののほか、審議会の運営に関し必要な事項は、会長が審議会に諮って定める。

第 7 章 補則及び罰則

(立入検査等)

第 40 条 市長は、この条例の施行のため必要のある場合は、その職員に工場、事業場等、特定建設作業の現場その他の場所に立ち入り、施設その他の物件を検査させ、又は関係人に対する指示を行わせることができる。

- 2 前項の規定による立入検査をする職員は、その身分を示す証明書を携帯し、関係人の請求があつたときは、これを提示しなければならない。

(報告の徴収)

第 41 条 市長は、この条例の施行のため必要のある場合は、工場等の設置者又は特定建設作業の施工者に対し、公害の防止に関する状況その他の必要な事項について報告を求めることができる。

(地位の承継)

第 42 条 第 11 条若しくは第 12 条の規定による届出をした者又は第 30 条第 1 項の規定による公害防止協定を市長と締結した者から当該工場等を譲り受け、若しくは借り受けた者は、当該届出をした者又は当該防止協定を締結した者の地位を承継する。

- 2 第 11 条若しくは第 12 条の規定による届出をした者又は第 30 条第 1 項の規定による公害防止協定を市長と締結した者について相続、合併又は分割（当該届出に係る工場等又は公害防止協定に係る事業を承継させるものに限る。）があつた場合は、相続人、合併後存続する法人若しくは合併により設立された法人又は分割により当該工場等若しくは当該事業を承継した法人は、当該届出をした者又は当該防止協定を締結した者の地位を承継する。

- 3 前 2 項の規定により、第 11 条若しくは第 12 条の規定による届出をした者又は第 30 条第 1 項の規定による公害防止協定を市長と締結した者の地位を承継した者は、その承継があつた日から 30 日以内にその旨を市長に届け出なければならない。

(罰則)

第 43 条 第 17 条の規定による命令に違反した者は、1 年以下の懲役又は 20 万円以下の罰金を処する。

第 44 条 次の各号の一に該当する者は、10 万円以下の罰金に処する。

- (1) 第 11 条の規定による届出をせず、又は虚偽の届出をした者
- (2) 第 26 条の規定による命令に違反した者

第 45 条 次の各号の一に該当する者は、5 万円以下の罰金に処する。

- (1) 第 12 条、第 13 条、第 18 条、第 19 条第 2 項、第 24 条第 1 項若しくは第 2 項若しくは第 42 条第 3 項の規定による届出をせず、又は虚偽の届出をした者
- (2) 第 15 条第 1 項の規定に違反した者
- (3) 第 19 条第 1 項若しくは第 3 項若しくは第 41 条の規定による報告をせず、又は虚偽の報告をした者
- (4) 第 40 条第 1 項の規定による検査を拒み、妨げ、又は忌避した者

第 46 条 法人の代表者又は法人若しくは人の代理人、使用人その他の従業員がその法人又は人の業務に関し、前 3 条の違反行為をしたときは、行為者を罰するほか、その法人又は人に対して各本条の罰金刑を科する。

(委任)

第 47 条 この条例の施行に関し必要な事項は、規則で定める。

附 則

(施行期日)

- 1 この条例は、昭和 50 年 10 月 1 日から施行する。ただし、第 33 条から第 39 条までの規定は、公布の日から施行する。

(経過措置)

- 2 この条例の施行の際現に工場等を設置している者は、第 11 条の規定による届出をしたものとみなす。
- 3 第 17 条の規定は、現に工場等を設置している者については、当該工場、事業場等が工場等となった日から 1 年間は、適用しない。

(春野町の編入に伴う経過措置)

- 4 春野町の編入（以下「編入」という。）の際現に旧春野町の区域において工場等を設置している者（設置の工事を行っている者を含む。）は、第 11 条の規定による届出をした者とみなす。
- 5 第 17 条の規定は、前項の規定により届出をした者とみなされた者については、編入の日から平成 20 年 12 月 31 日までの間、適用しない。

附 則（平成 4 年 4 月 1 日条例第 12 号）

(施行期日)

- 1 この条例は、平成 4 年 5 月 1 日から施行する。

(経過措置)

- 2 この条例の施行前にした行為に対する罰則の適用については、なお従前の例による。

附 則（平成 6 年 10 月 1 日条例第 43 号）

(施行期日)

- 1 この条例は、平成 7 年 4 月 1 日から施行する。

(経過措置)

- 2 この条例の施行前にした行為に対する罰則の適用については、なお従前の例による。

附 則（平成 9 年 4 月 1 日条例第 18 号抄）

(施行期日)

- 1 この条例は、公布の日から施行する。ただし、次項の規定中高知市公害防止条例（昭和 50

年条例第 28 号) 第 32 条の改正規定は、平成 9 年 10 月 1 日から施行する。

附 則 (平成 11 年 4 月 1 日条例第 14 号)

(施行期日)

1 この条例は、平成 11 年 5 月 2 日から施行する。

(経過措置)

2 この条例の施行の際現に高知市公害対策審議会の委員(以下「委員」という。)である者(この条例による改正前の高知市公害防止条例第 34 条第 3 項第 2 号に該当して委員の委嘱を受けている者及び同項第 3 号に該当して委員に任命されている市職員を除く。)は、この条例による改正後の高知市公害防止条例第 34 条第 3 項の規定に基づき委嘱されたものとみなす。ただし、その任期は、この条例の施行の際における委員としての残任期間に相当する期間とする。

附 則 (平成 13 年 7 月 1 日条例第 24 号)

この条例は、公布の日から施行し、平成 13 年 4 月 1 日から適用する。

附 則 (平成 18 年 7 月 1 日条例第 42 号)

この条例は、公布の日から施行し、平成 18 年 5 月 1 日から適用する。

附 則 (平成 20 年 1 月 1 日条例第 52 号)

この条例は、公布の日から施行する。

高知市里山保全条例

〔平成12年4月1日
条例第14号〕

改正 平成18年4月1日 条例第5号

第1章 総則

(目的)

第1条 この条例は、本市の里山の保全について、基本理念を定め、市、土地所有者等、市民及び事業者の責務を明らかにするとともに、里山の保全を効果的に推進するために必要な事項を定めることにより、自然と調和した潤いと安らぎのある安全かつ健康で文化的な都市の形成に寄与することを目的とする。

(定義)

第2条 この条例において、次の各号に掲げる用語の意義は、それぞれ当該各号に定めるところによる。

(1) 里山 市街地、集落地及び農地周辺の山地斜面に成立している樹林の区域又は樹林と草地、農地、水辺地等が一体となって健全な生態系を構成している区域若しくは構成し得る区域をいう。

(2) 土地所有者等 里山を所有し、管理し、又は占有している者をいう。

(基本理念)

第3条 里山の保全は、里山が現在及び将来にわたり市民が安全かつ健康で文化的な生活を維持するための重要な資源であることを認識し、次に掲げる指針に従い、この限られた資源を将来の世代に引き継いでいくことを目的として行われなければならない。

(1) 防災機能の確保、都市の生活環境の保全と回復を図ること。

(2) 生物種の維持、自然循環の維持その他自然の多様性に着目した自然環境の保全と回復を図ること。

(3) 地域の文化・歴史の学習・伝承の場として、市民参加を主体とした自然環境の保全と回復を図ること。

(市の責務)

第4条 市は、前条に定める基本理念にのっとり、里山の保全についての施策を策定し、及び実施する責務を有する。

2 市は、前項の施策の策定及び実施に当たっては、里山の状態、土地の所有及び利用の状況についての調査その他必要な措置を講ずるとともに、国及び他の地方公共団体その他関係機関と協力して行うように努めるものとする。

3 市は、第1項の施策の策定及び実施に当たっては、土地所有者等の権利を不当に制限することのないよう配慮するとともに、当該施策を土地所有者等、市民及び事業者等に周知するよう努めるものとする。

(土地所有者等、市民及び事業者の責務)

第5条 土地所有者等、市民及び事業者は、基本理念にのっとり、里山の保全に自ら努めるとともに、市が実施する里山の保全についての施策に協力する責務を有する。

第2章 里山の保全

第1節 里山保全地区

(里山保全地区の指定)

第6条 市長は、次の各号のいずれかに該当する里山を里山保全地区として指定することができる。

- (1) 防災機能を確保するために保全することが必要な里山
 - (2) 潤いと安らぎのある都市環境を形成するために保全することが必要な里山
 - (3) 健全な生態系を保持するために保全することが必要な里山
 - (4) 人と自然の豊かな触れ合いを確保するために保全することが必要な里山
 - (5) 歴史及び文化を伝承するために保全することが必要な里山
- 2 市長は、里山保全地区の指定をしようとするときは、あらかじめ、規則で定めるところにより、その旨を公告し、その案を当該公告の日から2週間公衆の縦覧に供しなければならない。
- 3 前項の規定による公告があったときは、市民及び利害関係人は、縦覧期間満了の日までに、縦覧に供された案について市長に意見書を提出することができる。
- 4 市長は、里山保全地区を指定しようとするときは、あらかじめ、高知市里山保全審議会の意見を聴かなければならない。この場合において、市長は、前項の規定により提出された意見書があるときは、その要旨を提出するものとする。
- (里山保全地区の指定の告示等)

第7条 市長は、里山保全地区の指定をしたときは、これを告示するとともに、当該指定に係る図書を公衆の縦覧に供しなければならない。

- 2 里山保全地区の指定は、前項の規定による告示があった日から、その効力を生ずる。
- (里山保全地区の指定の変更等)

第8条 前2条の規定は、里山保全地区の指定の変更及び解除について準用する。

(里山保全地区内の行為の届出等)

第9条 里山保全地区内において、次の各号のいずれかに該当する行為をしようとする者は、当該行為に着手する日（当該行為をするに当たって都市計画法（昭和43年法律第100号）、建築基準法（昭和25年法律第201号）その他の法律の規定による手続を必要とする場合は当該手続をする日）の30日前までに、規則で定めるところにより、その内容を市長に届け出なければならない。

- (1) 建築物その他の工作物の新築、改築又は増築
- (2) 宅地の造成、土地の開墾、土石の採取その他の土地の形質の変更
- (3) 木竹の伐採又は移植
- (4) 水面の埋立て
- (5) 前各号に掲げるもののほか、里山の保全に影響を及ぼすおそれのある行為で規則で定めるもの

- 2 前項の規定は、非常災害のため必要な応急措置として行う行為その他規則で定める行為には、適用しない。
- 3 第1項の届出をした者（次条において「届出者」という。）は、当該届出が受理された日から起算して30日を経過した後でなければ当該届出に係る行為に着手してはならない。
- 4 市長は、第1項の届出に係る行為の内容が相当であると認めるときは、前項に規定する期間を短縮することができる。
- (指導及び勧告)

第10条 市長は、里山保全地区内における前条第1項各号に掲げる行為が規則で定める基準に適合しないものであると認めるときは、届出者等（届出者及び前条第1項の規定により届出をすべき者をいう。以下この条において同じ。）に対し、原状回復、行為の変更又は中止その他必要な措置を講ずるよう指導することができる。

- 2 前項の規定により指導が行われている間は、届出者等は、当該指導の対象となっている行為をしてはならない。
- 3 市長は、届出者等が第1項の規定による指導に従わないときは、当該指導に従うよう勧告することができる。

(違反事実等の公表)

第11条 市長は、第9条第1項の届出をせず、又は虚偽の届出により同項各号に掲げる行為をした者がいるときは、その者の氏名その他の規則で定める事項を公表することができる。

2 市長は、前条第3項の規定による勧告に従わない者がある場合で、その者の行為が同条第1項の規則で定める基準に著しく適合しないものであって、権利の濫用に当たると認めるときは、その者の氏名その他の規則で定める事項を公表することができる。

(立入調査)

第12条 市長又はその命じた者若しくはその委任を受けた者は、里山保全地区の指定又は保全のために必要と認めるときは、他人の土地に立ち入り、又はその状況を調査することができる。

2 前項の規定により他人の土地に立ち入ろうとする場合においては、あらかじめ当該土地の占有者にその旨を通知しなければならない。ただし、あらかじめ通知することが困難である場合においては、この限りでない。

3 前項の規定により宅地又はかき、さく等で囲まれた土地に立ち入ろうとする場合においては、立入りの際あらかじめその旨を当該土地の占有者に告げなければならない。

4 第1項の規定により他人の土地に立ち入ろうとする者は、その身分を示す証明書を携帯し、関係人の請求があった場合においては、これを提示しなければならない。

5 土地所有者等は、正当な事由がない限り、第1項の規定による立入り又は調査を拒み、又は妨げてはならない。

6 第1項の規定による立入り及び調査の権限は、犯罪捜査のために認められたものと解してはならない。

第2節 里山保全協定

(里山保全協定の締結)

第13条 市長は、里山保全地区内の土地所有者等との間において、里山の保全に関する協定(以下「里山保全協定」という。)を締結することができる。

2 里山保全協定には、次に掲げる事項を定めなければならない。

- (1) 里山保全協定の目的となる土地の区域(以下「協定区域」という。)
- (2) 協定区域における行為の制限その他協定区域の保全に関する事項
- (3) 里山保全協定の有効期間
- (4) 里山保全協定に違反した場合の措置
- (5) その他必要と認める事項

3 市長は、里山保全協定を締結しようとするときは、あらかじめ、高知市里山保全審議会の意見を聴かなければならない。これを変更し、又は廃止しようとするときも同様とする。

4 市長は、里山保全協定を締結したときは、規則で定めるところにより、その旨を公告しなければならない。これを変更し、又は廃止したときも同様とする。

(土地所有者等の義務)

第14条 協定区域内の土地所有者等は、当該里山保全協定を遵守するとともに、当該協定区域内の自然環境の保全と回復に努めなければならない。

2 協定区域内の土地所有者等は、当該協定区域内の樹木等が滅失し、又は地形等に著しい変動が生じたときは、規則で定めるところにより、遅滞なくその旨を市長に届け出なければならない。

(助成等の措置)

第15条 市長は、協定区域内の土地所有者等に対し、里山の保全に関し必要な助言、指導及び助成等の措置をすることができる。

第3節 市民の里山

(市民の里山の設置)

第16条 市長は、里山保全地区のうち、市民が積極的に自然に触れ合う場として開放することが望ましいと認める区域について、土地所有者等との契約によりその権原を取得して、これを市民の里山として設置し、市民に開放することができる。

2 前項に規定するもののほか、市長は、里山保全地区内の市有地を市民の里山の区域とすることができる。

3 市長は、市民の里山を設置しようとするときは、あらかじめ高知市里山保全審議会の意見を聴かなければならない。

4 市長は、市民の里山を設置するときは、その旨を告示しなければならない。

(市民の里山の指定の変更等)

第17条 前条第3項及び第4項の規定は、市民の里山の区域の変更又は廃止について準用する。

(市民の里山の管理)

第18条 市民の里山の管理に関し必要な事項は、規則で定める。

第4節 標識の設置及び土地の買入れ

(標識の設置)

第19条 市長は、里山保全地区の指定又は里山保全協定の締結をしたときは、当該里山保全地区若しくは里山保全協定に係る協定区域又はこれらに近接する場所に、その旨を示す標識を設置するものとする。

(土地の買入れ)

第20条 市長は、里山保全地区の環境保全、市民の里山の設置その他里山の保全を効果的に推進するために特に必要があると認める土地があるときは、当該土地の買入れに努めるものとする。

2 市長は、前項により土地を買い入れようとするときは、あらかじめ高知市里山保全審議会の意見を聴かなければならない。

第3章 高知市里山保全審議会

(審議会の設置)

第21条 この条例により、その権限に属する事項を審議するほか、市長の諮問に応じて里山の保全に関する事項を調査審議するため、高知市里山保全審議会（以下「審議会」という。）を置く。

2 審議会の組織及び運営について必要な事項は、規則で定める。

第4章 雑則

(委任)

第22条 この条例の施行に関し必要な事項は、規則で定める。

第5章 罰則

第23条 第9条第1項の規定による届出をせず、又は虚偽の届出をした者は、10万円以下の罰金に処する。

第24条 第12条第5項の規定に違反して同条第1項の規定による立入り又は調査を拒み、又は妨げた者は、5万円以下の罰金に処する。

第25条 法人の代表者又は法人若しくは人の代理人、使用人その他の従業者が、その法人又は人の業務に関して前2条の違反行為をしたときは、行為者を罰するほか、その法人又は人に対して各本条の刑を科する。

附 則

この条例は、別に規則で定める日から施行する。

附 則 (平成18年4月1日条例第5号)

この条例は、公布の日から施行する。

高知市廃棄物の減量及び適正処理等に関する条例

〔平成6年1月1日
条例第1号〕

改正	平成7年10月1日	条例第45号	平成12年12月26日	条例第64号
	平成8年4月1日	条例第21号	平成13年4月1日	条例第12号
	平成9年4月1日	条例第11号	平成16年1月1日	条例第11号
	平成10年4月1日	条例第22号	平成17年4月1日	条例第83号
	平成11年4月1日	条例第12号	平成18年10月1日	条例第56号
	平成12年4月1日	条例第2号	平成19年10月1日	条例第45号

高知市廃棄物の処理及び清掃に関する条例（昭和47年条例第28号）の全部を改正する。

（目的）

第1条 この条例は、廃棄物の排出の抑制、分別及び再生利用の促進等による減量を推進するとともに、廃棄物を適正に処理し、並びに生活環境を清潔にすることにより、生活環境の保全、環境美化の促進並びに公衆衛生の向上を図ることを目的とする。

（定義）

第2条 この条例で使用する用語の意義は、次項に定めるもののほか、廃棄物の処理及び清掃に関する法律（昭和45年法律第137号。以下「法」という。）の例による。

2 この条例において次の各号に掲げる用語の意義は、それぞれ当該各号に定めるところによる。

- （1）再生利用 活用しなければ不要となる物若しくは廃棄物を再び使用すること又は資源として利用することをいう。
- （2）多量排出事業者 事業活動に伴って生じる一般廃棄物を多量に排出する土地又は建物の占有者若しくは占有者がいない場合はその管理者をいう。
- （3）適正処理困難物 法第6条の3第1項の規定により、一般廃棄物のうちその適正な処理が困難であると環境大臣が指定したものをいう。
- （4）施行令 廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令（昭和46年政令第300号）をいう。

（市の責務）

第3条 市は、あらゆる施策を通じて一般廃棄物の減量推進及び適正な処理を図らなければならない。

2 市は、一般廃棄物の減量推進及び適正な処理並びに再生品の使用等による再生利用に関し、事業者及び市民の意識の啓発を図るよう努めなければならない。

3 市は、一般廃棄物の減量推進及び適正な処理に関する技術の開発、情報の収集及び調査研究に努めなければならない。

4 市は、廃棄物を分別し、資源の回収等を行う市民の自主的な活動を支援するものとする。

5 市は、廃棄物を排出する事業所相互間の再生利用の活動に関し、情報提供等の支援を行うものとする。

（事業者の責務）

第4条 事業者は、その事業活動に伴って生じた廃棄物を自らの責任において適正に処理しなければならない。

2 事業者は、物の製造、加工、販売等の際し、廃棄物の減量及び適正な処理等のため、次に掲げる事項について、その推進に努めなければならない。

(1) 長期間使用することが可能な製品の開発、製品の修理及び回収の体制の確保を図ること。

(2) 製品の包装、容器等の適正化を図り、再び使用することが可能な包装、容器等の普及や、使用後の回収策を講ずること。

(3) 再生品の使用に努めるとともに、製品、容器等が廃棄物となった場合における処理の困難性についてあらかじめ自ら評価し、その適正な処理が困難となることのないようにすること。

3 事業者は、前2項に定めるもののほか、廃棄物の減量推進及び適正な処理に関する市の施策に協力しなければならない。

(市民の責務)

第5条 市民は、廃棄物の排出を抑制し、その生じた廃棄物をなるべく自ら処分するよう努めなければならない。

2 市民は、廃棄物の減量及び適正処理等のため、次に掲げる事項について、その促進に努めるものとする。

(1) 廃棄物を分別して排出し、資源の回収等を行う団体及び事業者の活動に参加、協力すること。

(2) 商品の内容、包装及び容器等について、再生品その他廃棄物の減量に配慮した製品の使用等により廃棄物の再生利用を図ること。

3 市民は、前2項に定めるもののほか、廃棄物の減量推進及び適正な処理に関する市の施策に協力しなければならない。

(清潔の保持)

第6条 土地又は建物の占有者（占有者がいない場合には管理者とする。以下同じ。）は、当該土地又は建物及びそれに面する歩道などの清掃を行いその清潔の保持に努めるとともに、境界に塀、その他の囲いを設ける等みだりに廃棄物を捨てられないよう当該土地又は建物の適正な管理に努めなければならない。

2 遺棄された犬、ねこ等の死体を発見した者は、速やかに市長に届け出なければならない。

3 何人も、公園、広場、道路、河川その他の公共の場所を汚し、又はこれらの場所においてみだりに紙くず、たばこの吸い殻、チューインガムのかみかす、空き缶等（飲料を収納し、又は収納していた缶その他の容器をいう。以下同じ。）その他の廃棄物を捨ててはならない。

4 土木、建築等工事の施行者は、不法投棄の誘発、都市美観の汚損を招かないよう工事に伴う土砂、がれき、廃材等の整理に努めなければならない。

5 第3項に規定する公共の場所で物品を販売し、又はビラ、チラシその他物品を配布した者は、当該行為に伴いその付近に散乱した物品等を速やかに収集し、それらの場所を清掃するよう努めなければならない。

(空き缶等回収容器の設置及び管理)

第6条の2 缶その他の容器に収納した飲料を自動販売機により販売する事業を行う者（以下「自動販売業者」という。）は、当該自動販売機の設置されている場所又はその周辺に空き缶等を回収するための回収容器（以下「回収容器」という。）を設置するとともに、当該回収容器を適正に管理しなければならない。

2 市長は、自動販売業者が前項の規定に違反していると認めるときは、当該自動販売業者に対し、適切な措置を講ずるよう指導し、又は勧告することができる。

（環境美化重点地域）

第6条の3 市長は、特に環境美化の促進及び美観の保護を図る必要があると認められる地域を環境美化重点地域（以下「重点地域」という。）として指定することができる。

2 市長は、重点地域を指定し、又は指定した重点地域を変更し、若しくは廃止するときは、規則で定めるところによりその3か月前までに告示しなければならない。

（罰則）

第6条の4 重点地域内において、第6条第3項の規定に違反してたばこの吸い殻、チューインガムのかみかす又は空き缶等を捨てた者は、50,000円以下の罰金に処する。

（一般廃棄物の処理計画）

第7条 市長は、廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行規則（昭和46年厚生省令第35号）第1条の3に規定する実施計画（以下「一般廃棄物処理実施計画」という。）を毎年度当初告示するものとする。

（一般廃棄物の排出方法）

第7条の2 市民は、市が収集する一般廃棄物については、一般廃棄物処理実施計画に定めるところにより分別し、指定の収集日時に所定のごみ集積所に排出しなければならない。

（市長の指示）

第8条 市長は、多量排出事業者で規則で定めるものに対し、一般廃棄物の減量及び適正な処理に関する計画の作成を指示することができる。

2 市長は、多量の一般廃棄物を生ずる土地又は建物の占有者で別表1に定めるものに対し、当該一般廃棄物を運搬すべき場所及び方法その他必要な事項を指示することができる。

（適正処理困難物の処理等）

第9条 市長は、法第6条の3第2項の規定に基づき、適正処理困難物の製造、加工、販売等を行う事業者に対し、その適正処理について必要な協力を求めるものとする。

（占有者の義務）

第10条 土地又は建物の占有者は、その土地又は建物内の一般廃棄物のうち、容易に処分することができるものについては、生活環境の保全上支障のない方法によりなるべく自ら処分するように努めるとともに、自ら処分しない一般廃棄物については、一般廃棄物処理実施計画に従い、適正に処理しなければならない。

2 土地又は建物の占有者は、次に掲げる一般廃棄物を排出しようとするときは、あらかじめ市長に届け出る等により、その指示に従わなければならない。

- (1) 有害性のある物
- (2) 爆発性のある物
- (3) 著しく悪臭を発する物

(4) 特別管理一般廃棄物

(5) 前各号に掲げるもののほか、市が行う処理に支障を及ぼすおそれのあるもの
(一般廃棄物処理手数料)

第 11 条 市が行う一般廃棄物の収集、運搬及び処分についての手数料は、別表 2 に定めるとおりとする。

(市が処分する産業廃棄物の種類及び処分手数料)

第 12 条 市が処分する産業廃棄物は、別表 3 に規定するもので、一般廃棄物とあわせて処分することができ、かつ、一般廃棄物の処分に支障のない範囲の量のもののうち、市長が認めるものとし、その処分手数料は、同表に定めるとおりとする。

(手数料の減免等)

第 13 条 市長は、天災その他特別の理由があると認めたときは、第 11 条の手数料を減免することができる。

2 前 2 条及び前項に定めるもののほか、手数料の徴収に関し必要な事項は、規則で定める。
(一般廃棄物処理業等の許可)

第 14 条 浄化槽法（昭和 58 年法律第 43 号）第 35 条第 1 項の規定による浄化槽清掃業の許可は、2 年ごとにその更新を受けなければ、その期間の経過によって、その効力を失う。

2 法第 7 条の規定による一般廃棄物処理業及び浄化槽法第 35 条第 1 項の規定による浄化槽清掃業の許可等に関し必要な事項は、規則で定める。

第 15 条 削除

(審議会)

第 16 条 一般廃棄物の減量推進及び適正な処理等の円滑な事業運営を図るため、高知市廃棄物処理運営審議会（以下「審議会」という。）を設置する。

2 審議会は、委員 15 人以内をもって組織する。

3 審議会の組織及び運営について必要な事項は、規則で定める。

(推進員)

第 17 条 市長は、一般廃棄物の減量推進及び適正な処理について熱意と識見を有する市民のうちから、廃棄物減量等推進員（以下「推進員」という。）を置くことができる。

2 推進員は、地域において、一般廃棄物の減量及び適正な処理をするための市の施策への協力その他の活動を推進するものとする。

(許可の取消し等)

第 18 条 この条例又はこの条例に基づく規則で定めた許可に関する事項並びに許可条件に違反した場合には、市長はその許可を取り消し、又は期間を定めてその業務の全部若しくは一部の停止を命ずることができる。

(委任)

第 19 条 この条例に規定するもののほか、この条例の施行について必要な事項は、規則で定める。

附 則

(施行期日)

1 この条例は、公布の日から施行する。

(経過措置)

- 2 この条例の施行の日前に、この条例による改正前の高知市廃棄物の処理及び清掃に関する条例の規定によってなされた処分、手続その他の行為は、この条例による改正後の高知市廃棄物の減量及び適正処理等に関する条例の相当規定によってなされたものとみなす。

(春野町の編入に伴う経過措置)

- 3 春野町の編入(以下「編入」という。)の日から平成25年3月31日までの間、旧春野町の区域において市が行う一般廃棄物の収集及び運搬に係る手数料(次項の手数料を除く。)の徴収については、この条例の規定にかかわらず、春野町廃棄物の処理及び清掃に関する条例(平成8年春野町条例第14号。以下「春野町条例」という。)の例による。
- 4 前項に規定する期間、旧春野町の区域において市が行う犬、ねこ等の死体の収集及び運搬に関する手数料は1体につき1,000円とする。
- 5 前2項の手数料の減免については、第13条第1項の規定を準用する。
- 6 編入の日前に春野町条例の規定に基づきされた処分、手続その他の行為は、この条例の相当規定に基づきされたものとみなす。
- 7 編入の際現に春野町条例第25条の規定により許可を受け旧春野町の区域内において一般廃棄物処理業及び処分業を行っている者は、平成20年3月31日までの間、引き続き当該区域内において当該許可に係る一般廃棄物処理業及び処分業を行うことができる。

附 則 (平成7年10月1日条例第45号)

(施行期日)

- 1 この条例は、公布の日から施行する。ただし、別表2の(1)イの項及び(2)の改正規定並びに別表3の改正規定は、平成8年4月1日から施行する。

(経過措置)

- 2 この条例による改正後の高知市廃棄物の減量及び適正処理等に関する条例(以下「改正後の条例」という。)別表2の(1)(イの項を除く。)の規定は、平成8年1月1日以後の処理に係る手数料から適用し、同日前の処理に係る手数料については、なお従前の例による。
- 3 改正後の条例別表2の(1)イの項及び・並びに別表3の規定は、平成8年4月1日以後の処理又は処分に係る手数料から適用し、同日前の処理又は処分に係る手数料については、なお従前の例による。

附 則 (平成8年4月1日条例第21号)

(施行期日)

- 1 この条例は、公布の日から施行する。

(高知市みどりの環境の保全と創出に関する条例の一部改正)

- 2 高知市みどりの環境の保全と創出に関する条例(昭和49年条例第63号)の一部を次のように改正する。

第47条中第2号を削り、第3号を第2号とし、第4号を第3号とし、第5号を第4号とする。

附 則 (平成9年4月1日条例第11号抄)

(施行期日)

- 1 この条例は、公布の日から施行する。

(廃棄物処理手数料等の経過措置)

- 3 第 21 条の規定による改正後の高知市廃棄物の減量及び適正処理等に関する条例別表 2 及び別表 3 の規定については、施行日以後に処理又は処分されたものに係る手数料から適用し、施行日前に処理又は処分されたものに係る手数料については、なお従前の例による。

附 則 (平成 10 年 4 月 1 日条例第 22 号)

この条例は、公布の日から施行する。

附 則 (平成 11 年 4 月 1 日条例第 12 号)

この条例は、平成 11 年 10 月 1 日から施行する。

附 則 (平成 12 年 4 月 1 日条例第 2 号) 抄

(施行期日等)

- 1 この条例は、公布の日から施行する。

(高知市廃棄物の減量及び適正処理等に関する条例の一部改正に伴う経過措置)

- 3 この条例の施行の前において第 6 条の規定による改正前の高知市廃棄物の減量及び適正処理等に関する条例第 15 条の規定により納付すべきであった手数料については、なお従前の例による。

(罰則に関する経過措置)

- 6 この条例の施行前にした行為に対する罰則の適用については、なお従前の例による。

附 則 (平成 12 年 12 月 26 日条例第 64 号)

この条例は、平成 13 年 1 月 6 日から施行する。

附 則 (平成 13 年 4 月 1 日条例第 12 号)

(施行期日)

- 1 この条例は、平成 13 年 5 月 1 日から施行する。

(経過措置)

- 2 この条例による改正後の高知市廃棄物の減量及び適正処理等に関する条例の規定は、平成 13 年 5 月 1 日以後に処分されたものに係る手数料から適用し、同日前に処分されたものに係る手数料については、なお従前の例による。

附 則 (平成 16 年 1 月 1 日条例第 11 号)

(施行期日)

- 1 この条例は、平成 16 年 7 月 1 日から施行する。

(経過措置)

- 2 この条例による改正後の高知市廃棄物の減量及び適正処理等に関する条例の規定は、平成 16 年 7 月 1 日以後に処理又は処分されたものに係る手数料から適用し、同日前に処理又は処分されたものに係る手数料については、なお従前の例による。

附 則 (平成 17 年 4 月 1 日条例第 83 号)

(施行期日)

- 1 この条例は、平成 17 年 7 月 1 日から施行する。

(経過措置)

- 2 この条例による改正後の高知市廃棄物の減量及び適正処理等に関する条例の規定は、この条例の施行の日以後に処分されるものに係る手数料から適用し、同日前に処分されたものに

係る手数料については、なお従前の例による。

附 則（平成 18 年 10 月 1 日条例第 56 号）

（施行期日）

- 1 この条例は、平成 19 年 4 月 1 日から施行する。

（経過措置）

- 2 この条例による改正後の高知市廃棄物の減量及び適正処理等に関する条例の規定は、この条例の施行の日以後に処分されるものに係る手数料から適用し、同日前に処分されたものに係る手数料については、なお従前の例による。

附 則（平成 19 年 10 月 1 日条例第 45 号）

この条例は、平成 20 年 1 月 1 日から施行する。

別表 1

市長が指示することのできる多量の一般廃棄物

区 分	排 出 量
(1) ごみ	常時多量排出量 1日平均10キログラム以上
	一時多量排出量 30キログラム以上
(2) その他一般廃棄物	市長が必要と認める量以上

別表 2

一 般 廃 棄 物 処 理 手 数 料

(1) 市が収集、運搬及び処分する場合

種 別	取 扱 区 分		単 位	処理手数料	
ア し 尿	定額制	回数割	普通便槽	1世帯当たり収集1回につき	400円
			改良便槽		800円
		人頭割	世帯人員1人につき1箇月	400円	
	従量制	回数割	収集1回につき	400円	
		従量制	18リットルにつき	230円	
イ 犬、ねこ等の死体			1体につき	1,000円	
備考					
<p>1 定額制は、規則で定める一般世帯で、規則で定める定期収集（以下「定期収集」という。）のうち月1回の収集を行うものに適用し、世帯人員には同居者を含む。</p> <p>2 改良便槽とは、強化プラスチック製無臭トイレ等で構造上水を使用するものをいう。</p> <p>3 し尿処理手数料は、回数割の額に人頭割又は従量割の額を加算した額とする。</p> <p>4 人頭割の基礎となる世帯人員には、1歳未満の乳児は含まない。</p> <p>5 従量制は、定額制を適用しないすべての場合を対象とする。</p> <p>6 定額制の規定にかかわらず、規則で定める場合については、従量制を適用する。</p> <p>7 し尿に係る収集は、定期収集を原則とし、定期収集以外の収集については、収集1回につき、特別収集手数料600円を加算する。</p> <p>8 下水道法（昭和33年法律第79号）第11条の3第1項の規定による水洗便所に改造しなければならない期間を経過した区域におけるし尿に係る収集は、規則で定めるところにより、収集1回につき、特別収集手数料300円を加算する。ただし、前項の特別収集手数料が加算される場合は、これを加算しない。</p>					

(2) 市が処分のみをする場合

種 別	単 位	処分手数料
ア 多量の一般廃棄物（し尿を除く。）	10 キログラムまでごとに	120 円
イ プラスチック製容器包装・ペットボトル	10 キログラムまでごとに	280 円
ウ 水銀含有廃棄物	5 キログラムまでごとに	690 円
エ 犬，ねこ等の死体	1 体につき	400 円
備考 一般家庭の廃棄物で，アの項にあつては，30 キログラム未満，イの項にあつては10 キログラム未満，ウの項にあつては5 キログラム未満のものについては，それぞれの項の規定にかかわらず，処分手数料を徴収しない。		

別表 3

産 業 廃 棄 物 処 分 手 数 料

種 別	単 位	処分手数料
ペットボトル	10 キログラムまでごとに	280 円

わんぱーくこうちアニマルランド条例

〔平成 17 年 10 月 15 日〕
〔 条 例 第 1 0 7 号 〕

(設置)

第 1 条 野生動物の保護及び繁殖並びに種の保存を進めるとともに、動物の展示及び動物に関する調査研究を行うことにより、市民の教養文化及び動物愛護意識の向上並びに環境教育の推進に寄与するため、本市にわんぱーくこうちアニマルランド(以下「アニマルランド」という。)を設置する。

(位置)

第 2 条 アニマルランドの位置は、次のとおりとする。

高知市棧橋通六丁目 9 番 1 号

(事業)

第 3 条 アニマルランドは、次に掲げる事業を行う。

- (1) 動物の収集、飼育及び展示に関する事業
- (2) 動物愛護及び環境教育の推進に関する事業
- (3) 動物に関する資料の収集及び展示その他動物に関する調査研究に関する事業
- (4) 野生動物の保護及び繁殖その他種の保存に関する事業
- (5) 前各号に掲げるもののほか、第 1 条の設置目的を達成するため必要な事業

(入園料)

第 4 条 アニマルランドへの入園は、無料とする。

(開園時間)

第 5 条 アニマルランドの開園時間は、午前 9 時から午後 5 時までとする。ただし、市長が必要と認めるときは、これを変更することができる。

(休園日)

第 6 条 アニマルランドの休園日は、次のとおりとする。ただし、市長が必要と認めるときは、臨時に休園し、又は臨時に開園することができる。

- (1) 水曜日。ただし、その日が国民の祝日に関する法律(昭和 23 年法律第 178 号)に規定する休日(以下この号において「祝日法による休日」という。)に当たるときは、その日後において、その日に最も近い祝日法による休日、日曜日及び土曜日でない日とする。
- (2) 12 月 28 日から翌年の 1 月 1 日までの日

(入園の制限)

第 7 条 市長は、次の各号のいずれかに該当する場合は、アニマルランドへの入園を拒否し、又は退去を命ずることができる。

- (1) 他の入園者に迷惑を及ぼし、又は及ぼすおそれのあるとき。
- (2) 施設等を損傷し、又は損傷するおそれのあるとき。
- (3) 動物に危害を加え、又は加えるおそれのあるとき。
- (4) 動物(身体障害者補助犬法(平成 14 年法律第 49 号)第 2 条第 1 項に規定する身体障害者補助犬及びこれと同等の能力を有すると認められる犬を除く。)を携帯するとき。
- (5) 次条の規定に違反したとき。
- (6) 市長の許可を受けることなく第 9 条の行為をしたとき。
- (7) 前各号に掲げるもののほか、アニマルランドの管理上支障があると認められるとき。

(行為の禁止)

第 8 条 入園者は、アニマルランドにおいて、次に掲げる行為をしてはならない。

- (1) 施設等を損傷し、又は汚損すること。

- (2) 竹木を伐採し、又は植物を採取すること。
- (3) 鳥獣魚類を捕獲し、又は殺傷すること。
- (4) 立入禁止区域に立ち入ること。
- (5) 前各号に掲げるもののほか、アニマルランドの管理上支障があると認める行為
(行為の制限)

第9条 アニマルランドにおいて、次に掲げる行為をしようとする者は、市長の許可を受けなければならない。

許可を受けた事項を変更しようとするときも、また同様とする。

- (1) 行商、募金その他これらに類する行為をすること。
- (2) 業として写真又は映画を撮影すること。
- (3) 展示会その他これに類する催しのためにアニマルランドの全部又は一部を独占して利用すること。
(使用の許可)

第10条 市長は、アニマルランドの一部をその用途又は目的を妨げない限度において使用することを許可することができる。

(許可の取消し等)

第11条 市長は、第9条又は前条の許可を受けた者(以下「使用者」という。)が次の各号のいずれかに該当するときは、当該許可を取り消し、又は当該許可に基づく行為若しくは使用を制限することができる。

- (1) この条例若しくはこの条例に基づく規則又はこれらに基づく指示に違反したとき。
- (2) 偽りその他不正な手段により許可を受けたとき。
- (3) 許可に付した条件に違反したとき。
- (4) その他市長が必要と認めたとき。

(使用料)

第12条 第9条の許可を受けた者は、高知市都市公園条例(昭和35年条例第7号)の規定の例により算定した額の使用料を前納しなければならない。

2 第10条の許可を受けた者は、高知市財産条例(昭和39年条例第13号)の規定の例により算定した額の使用料を前納しなければならない。

(使用料の減免)

第13条 市長は、規則で定める特別の理由があるときは、前条の使用料を減額し、又は免除することができる。

(権利譲渡等の禁止)

第14条 使用者は、許可に伴う権利を譲渡し、又は転貸してはならない。ただし、市長の承認を得た場合は、この限りでない。

(原状回復)

第15条 使用者は、許可を受けた行為若しくは使用が終了したとき、又は許可を取り消されたときは、直ちに施設等を原状に回復しなければならない。

(損害の賠償等)

第16条 アニマルランド内の施設若しくは竹木その他の物件を損傷し、又は滅失した者は、これを原状に回復し、又はその損害を賠償しなければならない。

(委任)

第17条 この条例の施行に関し必要な事項は、規則で定める。

附 則

(施行期日)

1 この条例は、公布の日から施行する。

(経過措置)

- 2 この条例の施行の日前にわんぱーくこうち条例の一部を改正する条例(平成17年条例第106号)による改正前のわんぱーくこうち条例(平成5年条例第30号)の規定に基づきされた処分, 手続その他の行為(同条例第3条第2号に規定するアニマルランドに係るものに限る。)は, この条例の規定に基づきされた処分, 手続その他の行為とみなす。

わんぱーくこうち条例

〔平成5年4月1日
条例第30号〕

改正 平成 8年10月 1日 条例第 40号

改正 平成17年10月15日 条例第106号

(設置)

第1条 子どもたちの心身ともに健全な成長に資するため、自由に遊び自由に学ぶふれあいの場として、本市にわんぱーくこうち(以下「わんぱーく」という。)を設置する。

(位置)

第2条 わんぱーくの位置は、次のとおりとする。

高知市棧橋通六丁目9番1号

(施設)

第3条 わんぱーくに、次に掲げる施設を置く。

- (1) プレイランド
- (2) 庭園広場、展示室その他の関連施設

(入園料)

第4条 わんぱーくへの入園は、無料とする。

(わんぱーくの管理等)

第5条 市長は、わんぱーくの管理を、地方自治法(昭和22年法律第67号)第244条の2第3項の規定に基づき市長が指定する者(以下「指定管理者」という。)に行わせることができる。

2 前項の規定に基づき指定管理者にわんぱーくの管理を行わせる場合における当該指定管理者の指定の手續等については、高知市公の施設に係る指定管理者の指定手續等に関する条例(平成17年条例第69号)の定めるところによる。

(指定管理者が行う業務)

第6条 前条第1項の規定に基づき指定管理者が管理を行う場合において、指定管理者は、次に掲げる業務を行うものとする。

- (1) 第9条第1項の遊戯施設の使用の許可に関する業務
- (2) わんぱーくの維持管理に関する業務
- (3) 前2号に掲げるもののほか、第1条の設置目的を達成するために市長が必要と認める業務

(プレイランドの開園時間)

第7条 第3条第1号のプレイランド(以下「プレイランド」という。)の開園時間は、午前9時から午後5時までとする。ただし、市長が必要と認めるときは、これを変更することができる。

(プレイランドの休園日)

第8条 プレイランドの休園日は、次のとおりとする。ただし、市長が必要と認めるときは、臨時に休園し、又は臨時に開園することができる。

- (1) 水曜日。ただし、その日が国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する休日(以下この号において「祝日法による休日」という。)に当たるときは、その日後において、その日に最も近い祝日法による休日、日曜日及び土曜日でない日とする。
- (2) 12月28日から翌年の1月1日までの日

(遊戯施設)

第9条 プレイランドの遊戯施設(以下「遊戯施設」という。)で規則で定めるものを使用するときは、1遊戯施設につき1人1回500円以内の使用料を徴収する。

2 前項の使用料について回数券を発行する場合は、1割以内の割引をすることができる。
(利用料金の収入等)

第10条 市長は、第5条第1項の規定に基づきわんぱーくの管理を指定管理者に行わせる場合において適当と認めるときは、指定管理者に遊戯施設の利用に係る料金(以下「利用料金」という。)を当該指定管理者の収入として収受させることができる。

2 前項の規定に基づき利用料金を指定管理者の収入として収受させる場合にあっては、前条の規定にかかわらず、遊戯施設を使用する者は、利用料金を当該指定管理者に納付しなければならない。

3 利用料金は、前条に規定する使用料の額の範囲内において、指定管理者があらかじめ市長の承認を得て定めるものとする。

(入園の制限)

第11条 市長は、次の各号のいずれかに該当する者に対しては、わんぱーくへの入園を拒否し、又は退去を命ずることができる。

- (1) 他の入園者に迷惑を及ぼし、又は及ぼすおそれのある者
 - (2) 施設等を損傷し、又は損傷するおそれのある者
 - (3) 他の入園者に迷惑を及ぼすおそれのある物を携帯する者
 - (4) 前3号に掲げるもののほか、次条の規定に違反した者又は管理上支障があると認められる者
- (行為の禁止)

第12条 わんぱーくにおいて、入園者は、次に掲げる行為をしてはならない。

- (1) 施設等を損傷し、又は汚損すること。
- (2) 竹木を伐採し、又は植物を採取すること。
- (3) 鳥獣魚類を捕獲し、又は殺傷すること。
- (4) 立入禁止区域に立ち入ること。
- (5) 前各号に掲げるもののほか、管理上支障がある行為

(行為の制限)

第13条 わんぱーくにおいて、次に掲げる行為をしようとする者は、市長の許可を受けなければならない。許可を受けた事項を変更しようとするときも、同様とする。

- (1) 行商、募金その他これらに類する行為をすること。
- (2) 業として写真又は映画を撮影すること。
- (3) 興行を行うこと。
- (4) 競技会、展示会、博覧会その他これらに類する催しのためにわんぱーくの全部又は一部を独占して利用すること。

(使用の許可)

第14条 市長は、わんぱーくの一部をその用途又は目的を妨げない限度において使用することを許可することができる。

(許可の取消し等)

第15条 市長は、第13条又は前条の許可を受けた者(以下「使用者」という。)が次の各号のいずれかに該当するときは、当該許可を取り消し、又は当該許可に基づく行為若しくは使用を制限することができる。

- (1) この条例若しくはこの条例に基づく規則又はこれらに基づく指示に違反したとき。
- (2) 偽りその他不正な手段により許可を受けたとき。
- (3) 許可に付した条件に違反したとき。

(4) その他市長が必要と認めたとき。

(使用料)

第 16 条 第 13 条の許可を受けた者は、高知市都市公園条例(昭和 35 年条例第 7 号)の規定の例により算定した額の使用料を前納しなければならない。

2 第 14 条の許可を受けた者は、高知市財産条例(昭和 39 年条例第 13 号)の規定の例により算定した額の使用料を前納しなければならない。

(使用料の減免)

第 17 条 市長は、規則で定める特別の理由があるときは、前条の使用料を減額し、又は免除することができる。

(権利譲渡等の禁止)

第 18 条 使用者は、その権利を譲渡し、又は転貸してはならない。ただし、市長の承認を得た場合はこの限りでない。

(原状回復)

第 19 条 使用者は、許可を受けた行為若しくは使用が終了したとき又は許可を取り消されたときは、直ちに施設等を原状に回復しなければならない。

(損害の賠償等)

第 20 条 わんぱーく内の施設若しくは竹木その他の物件を損傷し、又は滅失した者は、これを原状に回復し、又はその損害を賠償しなければならない。

(委任)

第 21 条 この条例の施行に関し必要な事項は、規則で定める。

附 則

(施行期日)

1 この条例は、平成 5 年 4 月 2 日から施行する。

(高知市立動物園条例の廃止)

2 高知市立動物園条例(昭和 26 年条例第 3 号)は、廃止する。

附 則(平成 8 年 10 月 1 日条例第 40 号)

この条例は、公布の日から施行する。

附 則(平成 17 年 10 月 15 日条例第 106 号)

(施行期日)

1 この条例は、公布の日から施行する。

(経過措置)

2 この条例の施行の際現にこの条例による改正前のわんぱーくこうち条例第 16 条の規定に基づき委託しているわんぱーくこうちの管理及び当該管理の委託を受けた者による使用料の収受等については、平成 18 年 3 月 31 日までの間は、なお従前の例による。

高知市みどりの環境の保全と創出に関する条例

昭和 49 年 10 月 15 日
条 例 第 6 3 号

改正 昭和 5 6 年 4 月 1 日 条例 第 2 号
平成 4 年 4 月 1 日 条例 第 1 2 号
平成 6 年 1 0 月 1 日 条例 第 4 3 号

平成 8 年 4 月 1 日 条例 第 2 1 号
平成 1 9 年 4 月 1 日 条例 第 2 1 号

目次

- 第 1 章 総則(第 1 条—第 5 条)
 - 第 2 章 みどりのまちづくり基本計画
 - 第 1 節 みどりのまちづくり基本計画(第 6 条)
 - 第 2 節 削除
 - 第 3 章 自然の保護
 - 第 1 節 特別保護地区(第 13 条—第 18 条)
 - 第 2 節 保存緑地(第 19 条・第 20 条)
 - 第 3 節 保存樹木及び保存樹林(第 21 条—第 27 条)
 - 第 4 節 保護措置等(第 28 条—第 30 条)
 - 第 4 章 緑化の推進(第 31 条—第 36 条)
 - 第 5 章 公共の場所等の清潔及び美観の保持(第 37 条—第 43 条)
 - 第 6 章 補則(第 44 条—第 49 条)
- 附則

前文

自然は、人間にとって生命をはぐくむ母胎であり、遠い昔から今日にいたる長い歳月を自然とともに生活してきたわれわれは、自然から試練とともに恩恵を受け、それを生かすことによつて現代の文明をきずきあげてきた。すべての市民が、健康で文化的な生活を営むための良好な環境は、すべての市民の基本的権利として守られ、現代の市民から将来の市民へ継承されなければならない。

わたしたちのまち高知市は、美しい自然と清潔なたたずまいの都市として、長い歴史を歩んできたが、最近における急速な都市化の進行や産業優先の開発は、適切な制御がなされないまま無秩序な開発を生み、いたるところで自然を破壊し、環境を汚染し、生活環境を著しく悪化させている。

自然をはじめとする人間の環境は、厳粛で微妙な法則によつて調和を保っているものであつて、ひとたび破壊されるとその復元に長い年月を要し、あるいは全く復元できない場合さえあり、このまますすめば、われわれの将来に重大な環境悪化をもたらすおそれがある。

われわれは、このような状態を速やかに改善し、自然を尊び、自然を愛し、その調和をそこなわぬ利用に努めるとともに、緑化を推進し、風致景観を保全し、生活の場をみどりとうるおいのあるものとし、もつて市民が健康で文化的な生活を営むためのよりよい環境の創出に、市民の総力を結集すべきであると考えます。

ここに、われわれは、あらゆる力をつくしてその理想と目的を達成するため、高知すみどりの環境の保全と創出に関する条例を制定する。

第 1 章 総則

(目的)

第1条 この条例は、都市生活にとって良好な自然と豊かな緑がきわめて重要であることにかんがみ自然の保護、緑化の推進等のみどりのまちづくりについて基本となる事項を定めるとともに、その施策を総合的に推進することにより、現在及び将来の市民の健康で快適な生活の確保に寄与することを目的とする。

(市長の責務)

第2条 市長は、市民が常に良好な環境を享受できるよう自然の保護、緑化の推進等のみどりのまちづくりに関する基本的かつ総合的な施策を策定し、これを実施しなければならない。

(事業者の責務)

第3条 事業者は、その事業活動の実施に当たっては、自然の保護及び緑化の推進等について必要な措置を講ずるとともに、市の実施するみどりのまちづくりに関する施策に協力しなければならない。

(市民の責務)

第4条 市民は、自然の保護及び緑化の推進等に努めるとともに、市の実施するみどりのまちづくりに関する施策に協力しなければならない。

(市民運動への配慮)

第5条 市長は、市民が自然の保護、緑化の推進等に関する意識を高め、その自主的な運動を通じてみどりのまちづくりを推進していくための必要な措置を講ずるよう配慮するものとする。

第2章 みどりのまちづくり基本計画

第1節 みどりのまちづくり基本計画

(基本計画)

第6条 市長は、自然の保護、緑化の推進等に関するみどりのまちづくり基本計画(以下「基本計画」という。)を定めなければならない。

2 前項の基本計画には、次に掲げる事項を定めるものとする。

- (1) 自然の保護と緑化の推進等のみどりのまちづくりに関する基本構想
- (2) 特別保護地区等の指定及び自然保護に関する基本的事項
- (3) みどりの街区、公共施設、工場、事業場、近隣共同緑化等の都市緑化に関する基本的事項
- (4) 前各号のほか、自然の保護とみどりのまちづくりに関する重要な事項

3 市長は、基本計画を定めようとするときは、あらかじめ高知市緑政審議会(以下「審議会」という。)の意見を聞かなければならない。

4 市長は、基本計画を定めたときは、これを公表しなければならない。

5 前2項の規定は、基本計画の変更について準用する。

第2節 削除

第7条から第12条まで 削除

第3章 自然の保護

第1節 特別保護地区

(特別保護地区の指定)

第13条 市長は、良好な自然環境を保全するため、必要と認める地区を次に掲げる区分により特別保護地区として指定することができる。

- (1) 特別自然保護地区 原生の状態にある植生又は学術上特に貴重な植生のある地域
- (2) 特別動物環境保護地区 野生動物の貴重な生息地又は代表的な群生地

2 市長は、前項の特別自然保護地区又は特別動物環境保護地区(以下「特別保護地区」という。)を指定しようとするときは、あらかじめ審議会の意見を聞かなければならない。

3 市長は、特別保護地区を指定しようとするときは、規則で定めるところによりその旨を公告し、その案を当該公告の日から14日間公衆の縦覧に供しなければならない。

- 4 前項の規定による公告があつたときは、当該地域に係る住民及び利害関係人は、同項の縦覧期間満了の日までに、縦覧に供された案について、市長に意見書を提出することができる。
- 5 市長は、前項の規定により縦覧に供された案について異議がある旨の意見書の提出があつたとき、又は当該保護地区の指定に関し広く意見を聞く必要があると認めるときは、公聴会を開催するものとする。
- 6 市長は、特別保護地区を指定したときは、その旨及びその区域を告示しなければならない。
- 7 特別保護地区の指定は、前項の規定による告示によつてその効力を生ずる。
- 8 第2項、第6項及び前項の規定は、特別保護地区の指定の解除及び区域の変更について、第2項から前項までの規定は、特別保護地区の拡張について、それぞれ準用する。

(特別保護地区における行為の制限)

第14条 特別保護地区内においては、次の各号に掲げる行為は、市長の許可を受けなければしてはならない。

- (1) 建築物その他工作物を新築し、改築し、増築し、又は移転すること。
- (2) 宅地を造成し、土地を開墾し、鉱物を掘採し、土石を採取し、水面を埋め立て、又は干拓する等の土地の形質の変更を行うこと。
- (3) 木竹を伐採し、掘り取り、又は保護植生を破壊すること。
- (4) 保護動物(卵を含む。)を捕獲し、採取し、又は保護動物の生息環境を破壊すること。
- (5) 前各号に掲げるもののほか、特別保護地区の保全に影響を及ぼすおそれのある行為で規則で定めるもの

2 次の各号に掲げる行為については、前項の規定は、適用しない。

- (1) 非常災害のために必要な応急措置として行う行為
- (2) 国又は地方公共団体が行う行為
- (3) 森林法(昭和26年法律第249号)第25条第1項又は第2項の規定により指定された保安林の区域若しくは同法第41条の規定により指定された保安施設地区内において同法第34条第2項(同法第44条において準用する場合を含む。)の許可を受けた者が行う当該行為に係るもの
- (4) 通常管理行為又は規則で定める行為

3 特別保護地区内において、非常災害のために必要な応急措置として第1項各号に掲げる行為をした者は、その行為をした日から14日以内に、市長にその旨を届け出なければならない。

4 特別保護地区内において、国又は地方公共団体が、第1項各号に掲げる行為をしようとするときは、あらかじめ市長にその旨を通知するものとする。

(許可申請等)

第15条 前条第1項各号に掲げる行為をしようとする者は、その行為をしようとする日の30日前までに、市長に行為の種類、場所、施行方法及び着手の時期その他規則で定める事項を記載した申請書を提出し、市長の許可を受けなければならない。

2 前項により許可を受けた事項を変更しようとするときは、あらかじめ市長に申請し、その許可を受けなければならない。

3 市長は、前2項の許可申請が、特別保護地区指定の目的を阻害するおそれがあると認めるものについては、許可をしてはならない。

4 市長は、第1項及び第2項の許可には、特別保護地区における自然環境及び動物環境の保全のために必要な限度において条件を付することができる。

5 特別保護地区に指定され、又は拡張された際、前条第1項各号に掲げる行為に着手している者が引き続いてその行為を行おうとする場合は、その指定又は区域の拡張の日から14日以内に市長にその旨を届け出なければならない。

(中止命令等)

第 16 条 市長は、特別保護地区内において、許可を受けないで第 14 条第 1 項各号の行為を行つて
いる者又は許可に付せられた条件に違反した者若しくは虚偽の申請をして許可を受けた者に対し
て、その行為の中止を命じ、又は原状回復を命じ、若しくは原状回復が著しく困難である場合に
は、これに代わるべき必要な措置をとることを命ずることができる。

(助成措置)

第 17 条 市長は、特別保護地区の土地の所有者又は権原に基づく占有者(以下「占有者」という。)
に対し、その保護に関し必要な助言又は技術的援助をするほか、規則で定めるところにより、補
助金の交付等の助成をすることができる。

(土地の買入れ)

第 18 条 市長は、特別保護地区内の土地で当該地区の自然環境を保護するため特に必要があると認
めるものについて、その土地の所有者から第 15 条第 1 項又は第 2 項の許可を受けることができな
いため、その土地の利用に著しい支障をきたすことになることにより、その土地を市において買
い入れるよう申出があつた場合においては、これの買入れに努めるものとする。

第 2 節 保存緑地

(保存緑地の指定)

第 19 条 市長は、良好な自然環境を保護するため、次の各号に掲げる山林、樹林等を、所有者又は
占有者との保全協定により、保存緑地として指定することができる。

- (1) 良好な自然環境又はすぐれた景観を形成している山林、樹林、社寺叢等で、市民の健全な生活
環境を確保するために必要なもの
- (2) 公害又は災害の防止のためのしや断地帯、緩衝地帯又は避難地帯として適切な位置、規模及び
形態を有するもの
- (3) 前各号に掲げるもののほか、市長が特に必要と認めたもの

2 市長は、前項の保存緑地を指定しようとするときは、あらかじめ審議会の意見を聞かなければ
ならない。これを廃止し、又は変更しようとするときも同様とする。

3 市長は、第 1 項の規定による協定を締結したときは、指定地域の所在地の区域、指定内容その
他必要な事項を速やかに公告するものとする。これを廃止し、又は変更したときも同様とする。

(助成措置)

第 20 条 市長は、保存緑地の土地の所有者又は占有者に対し、その保護に関し必要な助言又は技術
的援助をするほか、規則で定めるところにより、補助金の交付等の助成をすることができる。

第 3 節 保存樹木及び保存樹林

(保存樹木等の指定)

第 21 条 市長は、美観風致又は良好な環境を確保するため、保護すべき樹木又は樹木の集団を保存
樹木又は保存樹林(以下「保存樹木等」という。)として指定することができる。

2 市長は、前項に規定する保存樹木等の指定に当たっては、あらかじめ審議会の意見を聞かなけ
ればならない。これを解除し、又は変更しようとするときも同様とする。

3 第 1 項の規定は、次の各号に掲げる樹木等については、適用しない。

- (1) 文化財保護法(昭和 25 年法律第 214 号)第 109 条第 1 項、第 110 条第 1 項又は第 182 条第 2 項
の規定に基づき指定され、若しくは仮指定された樹木又は樹木の集団
- (2) 森林法(昭和 26 年法律第 249 号)第 25 条の規定により指定された保安林に係る樹木の集団
- (3) 国又は地方公共団体の所有若しくは管理に係る樹木又はその集団で前各号に掲げる以外のもの

4 市長は、第 1 項に規定する保存樹木等の指定をしたときは、その旨を所有者に通知するととも
に告示しなければならない。これを解除し、又は変更したときも同様とする。

(行為等の届出)

第 22 条 保存樹木等の所有者は、次に掲げる行為をしようとするときは、市長に、規則で定めるところにより、その行為をしようとする日の 30 日前までに届け出なければならない。

- (1) 保存樹木等を伐採し、掘り取り、枝条を切り取り、又は剥皮すること。
- (2) 保存樹木の樹冠の投影面積の土地又は保存樹林内に移動の容易でない物件を設置し、若しくは堆積し、又は廃棄物を投棄すること。
- (3) 保存樹木等に広告物を掲出し、又は広告物を掲出する物件を設置すること。
- (4) 前各号に掲げるもののほか、著しく保存樹木等の生育を妨げる行為

2 次に掲げる行為については、前項の規定は、適用しない。

- (1) 非常災害のために必要な応急措置として行う行為
- (2) 通常の管理行為又は軽易な行為で、保存樹木等の良好な生育を妨げるおそれのない行為
(行為の着手の禁止)

第 23 条 前条の届出をした者は、その届出をした日から 30 日を経過した後でなければ、その届出に係る行為に着手してはならない。ただし、市長が、その保存樹木等の保存上支障を及ぼすおそれがないと認めたときは、その期間を短縮することができる。

(行為の中止等の勧告)

第 24 条 市長は、第 22 条第 1 項の届出があつた場合に、当該保存樹木等の保存のために必要があると認めるときは、その届出をした者に対して保存樹木等の保全に必要な限度においてその行為を中止し、又は変更し、若しくは必要な措置をとるべきことを勧告することができる。

(中止命令等)

第 25 条 市長は、第 22 条第 1 項の届出をせずに同項各号に掲げる行為を行つている者、虚偽の届出をした者又はその届出をしている者であつても行為の中止等の勧告を受け入れないため、当該保存樹木等の保全上重大な支障を及ぼすおそれがあると認められるものについては、その行為の中止、原状回復その他必要な措置をとることを命ずることができる。

(着手禁止期間の延長)

第 26 条 市長は、第 22 条第 1 項の届出があつた場合に、実地調査その他止むを得ない理由があるときは、第 23 条の期間を延長することができる。この場合においては、延長する期間、理由等を届出者に通知しなければならない。

(助成措置)

第 27 条 市長は、保存樹木等の所有者に対し、当該樹木の保存に関し必要な助言又は技術的援助をするほか、規則で定めるところにより、補助金の交付等の助成をすることができる。

第 4 節 保護措置等

(標識の設置)

第 28 条 市長は、第 13 条の特別保護地区、第 19 条の保存緑地及び第 21 条の保存樹木等(以下「保護地区等」という。)を指定したときは、規則で定めるところにより、その所在地、区域その他必要な事項を表示する標識を設置するものとする。

2 前項に規定する土地の所有者又は占有者は、正当と認められる理由がない限り、前項の標識の設置を拒み、又は妨げてはならない。

3 何人も、第 1 項の規定により設置された標識を市長の承認を得ず移転し、除却し、又はき損してはならない。

(所有者等の義務)

第 29 条 保護地区等の所有者及び占有者は、指定された区域内の自然環境の保全、樹木等の枯損の防止及び動植物の良好な生息環境の維持等に努めなければならない。

2 保護地区等の所有者及び占有者は、その区域内の樹木等が滅失し、又は枯死し、あるいは地形等に著しい変動が生じたときは、遅滞なくその旨を市長に届け出なければならない。

3 保護地区等の所有者は、その区域内の土地を他に譲渡しようとするときは、あらかじめその旨を市長に届け出なければならない。

(開発に伴う自然の保護)

第30条 何人も開発又は土地の区画形質の変更に当たっては、市民の健康で快適な生活環境の確保に留意し、緑地の損失を最小限にとどめるとともに、その回復について適切な措置を講じなければならない。

2 都市計画区域内において、農地及び採草放牧地以外の目的で1ヘクタール以上の開発行為をしようとする者は、その開発面積の50パーセント以上が山林、樹林等の緑地であるときは、別に定めるところにより、現存樹木等の保存を図らなければならない。

第4章 緑化の推進

(公共施設の緑化)

第31条 市は、その管理する道路、公園、広場、運動場、学校、保育所その他の公共施設について緑化計画を定め、積極的に緑化に努めなければならない。

(みどりの街区)

第32条 市長は、市街地における美観風致の維持及び緑化を推進するため必要があると認めるときは、当該街区をみどりの街区に指定することができる。

2 市長は、前項の指定をしようとするときは、あらかじめ審議会の意見を聞かなければならない。

3 市長は、みどりの街区を指定したときは、これを告示するとともに、その街区についての緑化計画を定めなければならない。

(修景及び緑化についての勧告等)

第33条 市長は、みどりの街区内の土地及び建築物の所有者若しくは占有者又は屋外広告物の設置者等に対し、緑化の推進及び建築物又は屋外広告物等の意匠、色彩等について必要な措置を講ずるよう指導し、又は勧告することができる。

(近隣共同緑化協定)

第34条 都市計画区域内における相当規模の一団の土地又は道路、河川等に隣接する相当の区間にわたる土地(これらの土地のうち、公共施設の用に供する土地その他規則で定める土地を除く。)の所有者及び建築物その他の工作物の所有を目的とする地上権又は賃借権を有する者(以下本条において「土地所有者等」という。)は、市街地の良好な環境を確保するため、その全員の合意により、当該土地の区域における緑化に関する協定(以下「近隣共同緑化協定」という。)を締結し、市長に提出してその認定を受けることができる。

2 近隣共同緑化協定には、次に掲げる事項を定めなければならない。

(1) 緑化協定の目的となる土地の区域

(2) 次に掲げる緑化に関する事項のうち必要なもの

ア 樹木等の種類

イ 樹木等を植栽する場所

ウ かき又はさくの構造

エ その他緑化に関する事項

(3) 緑化協定の有効期間

(4) 緑化協定に違反した場合の措置

3 市長は、前項の近隣共同緑化協定が、この条例の目的に適合しているときは、当該近隣共同緑化協定を認定し、その旨を公表しなければならない。

4 近隣共同緑化協定を締結した土地所有者等は、当該近隣共同緑化協定の定めるところに従って緑化を図らなければならない。

5 市長は、近隣共同緑化協定に定めるところに従つて、緑化を行う土地所有者等に対し必要な助言又は技術的指導をするほか、規則で定めるところにより、補助金の交付等の助成をすることができる。

6 近隣共同緑化協定を廃止し、又は変更しようとするときは、あらかじめ市長に届け出なければならない。

(工場等の緑化)

第 35 条 敷地面積 3,000 平方メートル以上の工場、事業場又はそれらの団地(以下「工場等」という。)を設置している者又は設置しようとする者は、工場等の植樹及び美化を図らなければならない。

2 工場等を新たに設置しようとする者又は拡張後の敷地面積が 3,000 平方メートル以上となる工場等の増設をしようとする者は、あらかじめ市長に工場等緑化計画書を提出し、その承認を受けなければならない。

3 市長は、工場等を設置している者と、工場等の植樹及び美化について、緑化協定を締結することができる。

(市民の木、市民の花)

第 36 条 市長は、全市域に郷土にふさわしい緑を豊かにするため、市民の木、市民の花(以下「市民の木等」という。)を選定することができる。

2 市長は、前項の市民の木等を選定しようとするときは、あらかじめ審議会の意見を聞かなければならない。

3 市長は、市民の木等を選定したときは、その旨を告示するとともに、その普及を図るため必要な技術的指導をするほか、苗木及び種子の配布等の措置を講ずるものとする。

第 5 章 公共の場所等の清潔及び美観の保持

(公共の場所の清潔の保持)

第 37 条 何人も道路、公園、広場、河川、海岸その他公共の場所を汚損してはならない。

(街路樹、緑地帯等における行為の制限)

第 38 条 何人も、市長が管理する街路樹又は緑地帯においては、市長の許可がある場合を除き、次に掲げる行為をしてはならない。

(1) 木竹を伐採し、掘り取り、枝条を切除し、剥皮し、又は草花等を採取すること。

(2) 植樹柵又は支柱を破損すること。

(3) 樹木等の損傷のおそれがある場所又は方法で、ものを燃焼すること。

(4) 植樹柵及び緑地帯等を占用し、若しくは使用し、又はそれらの中にふん尿、塵芥、廃棄物その他の物件を放置すること。

(5) 樹木及び支柱に広告物を表示し、若しくは植樹柵及び緑地帯等の中に広告物を掲出する物件を設置すること。ただし、本号の適用に当たっては、政治的活動の自由その他基本的人権を不当に侵害しないように留意しなければならない。

(適用除外)

第 39 条 国又は地方公共団体が法令に基づいて行う行為、非常災害のために必要な応急措置として行う行為及び通常の管理行為については、前条の規定は適用しない。ただし、それらの行為をしようとするとき及び工事が完了したときは、市長に通知し、又は届け出るものとする。

(違反に対する措置)

第 40 条 市長は、第 38 条各号に掲げる行為を行つた者又は行かせた者に対し、これらの行為を直ちに中止させ、若しくは原状回復又は除却をさせるほか、美観風致を維持するために必要な措置を命ずることができる。

2 市長は、第 38 条第 4 号に規定する塵芥、廃棄物その他放置された物件又は同条第 5 号に規定する広告物について、前項の措置を命じようとする場合においては、これらの行為を行った者又は行わせた者を、過失がなくて確知することができないときは、その措置を自ら行い、又は市長が命じた者若しくは委任した者に行わせることができる。ただし、これらの広告物のうち、広告塔、広告板又は広告物を掲出する物件については、5 日以上を期限を定めて、その期限までに原状回復又は除却しないときは、自ら除却する旨若しくはその命じた者又は委任した者が、原状回復又は除却する旨を公告するものとする。

3 市長は、前項の措置を行った後、それらの行為を行った者又は行わせた者が判明した場合、その措置に要した経費を弁済させることができる。

(あき地等の管理)

第 41 条 市街化区域内で、人が居住し、又は人が通常往来する地域及びその周辺のあき地等の所有者及び占有者は、雑草の繁茂による犯罪、ごみの不法投棄の誘発及びカ、ハエ、ネズミ等の発生並びに交通上の支障等を防止するため、必要な措置を講ずるとともに、ブタクサ、セイタカアワダチソウ等の有害な雑草を除却しなければならない。

(飼犬等の飼育)

第 42 条 飼犬、飼猫等の愛がん動物の飼育者は、その動物の性質、形状等に応じ、その動物が近隣住民の生活環境や公共の場所の清潔を害さないよう飼育するとともに、ふん尿については飼育者の責任において処理しなければならない。

(勧告及び命令)

第 43 条 市長は、第 41 条又は第 42 条の規定に違反して当該公共の場所及びあき地等の環境を著しく害していると認められる者に対して、その違反を是正するために必要な措置をとるべきことを勧告し、又は命ずることができる。

第 6 章 補則

(報告の徴収及び立入調査)

第 44 条 市長は、この条例の目的を達成するため必要があると認めるときは、当該関係保護地区等並びに第 13 条、第 19 条、第 21 条、第 30 条、第 34 条、第 35 条及び第 41 条に規定する土地の所有者又は占有者その他の関係人に対し、必要な報告を求め、又は市の職員をして当該土地に立ち入らせ必要な調査をさせることができる。

2 前項の規定により立入り調査をする職員は、その身分を示す証明書を携帯し、所有者又は占有者その他の関係人の請求があつたときは、これを提示しなければならない。

3 所有者又は占有者その他の関係人は、正当な理由がない限り第 1 項の規定による報告又は調査若しくは立ち入りを拒み、又は妨げてはならない。

(罰則)

第 45 条 次の各号のいずれかに該当する者は、20 万円以下の罰金に処する。

- (1) 第 14 条第 1 項の規定に違反した者
- (2) 第 15 条第 4 項の規定により許可に付せられた条件に違反した者
- (3) 第 16 条の規定による命令に違反した者

第 46 条 次の各号のいずれかに該当する者は、10 万円以下の罰金に処する。

- (1) 第 22 条第 1 項の規定による届出をせず、又は虚偽の届出をした者
- (2) 第 25 条の規定による命令に違反した者

第 47 条 次の各号のいずれかに該当する者は、5 万円以下の罰金に処する。

- (1) 第 23 条の規定に違反した者
- (2) 第 38 条第 1 号から第 4 号までに規定する行為に関し、第 40 条第 1 項の命令に違反した者
- (3) 第 43 条の規定による命令に違反した者

(4) 第 44 条第 3 項の規定に違反した者又は虚偽の報告をした者

(両罰規定)

第 48 条 法人の代表者又は法人若しくは人の代理人、使用人その他の従業者が、その法人又は人の業務に関して第 45 条から前条までの違反行為をしたときは、行為者を罰するほか、その法人又は人に対して各本条の罰金刑を科する。

(委任)

第 49 条 この条例の施行に関し必要な事項は、規則で定める。

附 則

1 この条例は、昭和 49 年 11 月 15 日から施行する。

2 この条例の施行の日において、現に第 35 条第 1 項の工場等の建設工事に着手している者は、施行の日から起算して 30 日以内に、市長に工場等緑化計画書を提出し、その承認を受けなければならない。

附 則(昭和 56 年 4 月 1 日条例第 2 号)

この条例は、公布の日から施行する。

附 則(平成 4 年 4 月 1 日条例第 12 号)

(施行期日)

1 この条例は、平成 4 年 5 月 1 日から施行する。

(経過措置)

2 この条例の施行前にした行為に対する罰則の適用については、なお従前の例による。

附 則(平成 6 年 10 月 1 日条例第 43 号)

(施行期日)

1 この条例は、平成 7 年 4 月 1 日から施行する。

(経過措置)

2 この条例の施行前にした行為に対する罰則の適用については、なお従前の例による。

附 則(平成 8 年 4 月 1 日条例第 21 号)抄

(施行期日)

1 この条例は、公布の日から施行する。

附 則(平成 19 年 4 月 1 日条例第 21 号)

この条例は、公布の日から施行し、平成 17 年 4 月 1 日から適用する。

高知市都市公園条例

昭和 35 年 3 月 23 日
条 例 第 7 号

改正

昭和 38 年 6 月 25 日条例第 38 号	昭和 48 年 7 月 15 日条例第 36 号	平成 3 年 12 月 25 日条例第 39 号
昭和 39 年 3 月 30 日条例第 31 号	昭和 48 年 12 月 25 日条例第 50 号	平成 5 年 4 月 1 日条例第 18 号
昭和 40 年 8 月 1 日条例第 22 号	昭和 49 年 4 月 1 日条例第 29 号	平成 6 年 4 月 1 日条例第 20 号
昭和 41 年 7 月 20 日条例第 15 号	昭和 49 年 7 月 1 日条例第 45 号	平成 6 年 10 月 1 日条例第 43 号
昭和 42 年 3 月 25 日条例第 13 号	昭和 49 年 9 月 10 日条例第 57 号	平成 7 年 4 月 1 日条例第 24 号
昭和 42 年 10 月 15 日条例第 48 号	昭和 49 年 12 月 25 日条例第 80 号	平成 7 年 10 月 1 日条例第 49 号
昭和 43 年 3 月 30 日条例第 11 号	昭和 50 年 5 月 1 日条例第 19 号	平成 8 年 4 月 1 日条例第 17 号
昭和 43 年 8 月 1 日条例第 19 号	昭和 50 年 7 月 25 日条例第 23 号	平成 9 年 4 月 1 日条例第 11 号
昭和 43 年 12 月 27 日条例第 56 号	昭和 50 年 10 月 7 日条例第 54 号	平成 11 年 10 月 5 日条例第 56 号
昭和 44 年 3 月 31 日条例第 5 号	昭和 51 年 4 月 1 日条例第 10 号	平成 12 年 4 月 1 日条例第 2 号
昭和 44 年 3 月 31 日条例第 9 号	昭和 51 年 12 月 25 日条例第 67 号	平成 17 年 1 月 1 日条例第 66 号
昭和 45 年 4 月 1 日条例第 5 号	昭和 52 年 4 月 1 日条例第 10 号	平成 17 年 4 月 1 日条例第 77 号
昭和 45 年 7 月 15 日条例第 30 号	昭和 54 年 4 月 1 日条例第 19 号	平成 17 年 10 月 15 日条例第 119 号
昭和 46 年 3 月 15 日条例第 1 号	昭和 56 年 4 月 1 日条例第 13 号	平成 18 年 10 月 1 日条例第 57 号
昭和 47 年 4 月 1 日条例第 29 号	昭和 59 年 4 月 1 日条例第 17 号	平成 20 年 1 月 1 日条例第 23 号
昭和 47 年 6 月 24 日条例第 39 号	昭和 60 年 7 月 2 日条例第 36 号	平成 21 年 1 月 1 日条例第 17 号
昭和 48 年 4 月 1 日条例第 13 号	昭和 63 年 4 月 1 日条例第 8 号	平成 22 年 10 月 1 日条例第 60 号

目次

- 第 1 章 総則(第 1 条・第 2 条)
 - 第 2 章 都市公園の管理(第 3 条―第 12 条の 2)
 - 第 3 章 駐車場の管理(第 12 条の 3―第 12 条の 17)
 - 第 4 章 雑則(第 13 条―第 18 条)
 - 第 5 章 罰則(第 19 条―第 22 条)
- 附則

第 1 章 総則

(目的)

第 1 条 この条例は、都市公園法(昭和 31 年法律第 79 号。以下「法」という。)及び法に基づく命令に定めるもののほか、都市公園の設置及び管理につき必要な事項を定めることを目的とする。

第 2 条 削除

第 2 章 都市公園の管理

(行為の制限)

第 3 条 都市公園において、次の各号に掲げる行為をしようとする者は、市長の許可を受けなければならない。

- (1) 行商、募金その他これらに類する行為をすること。
- (2) 業として写真又は映画を撮影すること。
- (3) 興行を行うこと。
- (4) 競技会、展示会、博覧会その他これらに類する催しのために都市公園の全部又は一部を独占して利用すること。

- (5) 指定された場所へ車両を乗り入れ、又は留め置くこと。
- 2 前項の許可を受けようとする者は、行為の目的、行為の期間、行為を行う場所又は公園施設、行為の内容その他市長の指示する事項を記載した申請書を市長に提出しなければならない。
- 3 第1項の許可を受けた者は、許可を受けた事項を変更しようとするときは、当該事項を記載した申請書を市長に提出してその許可を受けなければならない。
- 4 市長は、第1項各号に掲げる行為が公衆の都市公園の利用に支障を及ぼさないと認める場合に限り、第1項又は前項の許可を与えることができる。
- 5 市長は、第1項又は第3項の許可に都市公園の管理上必要な範囲内で条件を付することができる。

(許可の特例)

第4条 法第6条第1項又は第3項の許可を受けた者は、当該許可に係る事項については、前条第1項又は第3項の許可を受けることを要しない。

(行為の禁止)

第5条 都市公園においては、次の各号に掲げる行為をしてはならない。ただし、法第5条第1項、法第6条第1項若しくは第3項又は第3条第1項若しくは第3項の許可に係るものについては、この限りでない。

- (1) 都市公園を損傷し、又は汚損すること。
- (2) 竹木を伐採し、又は植物を採取すること。
- (3) 土地の形質を変更すること。
- (4) 鳥獣、魚類を捕獲し、又は殺傷すること。
- (5) はり紙若しくははり札をし、又は広告を表示すること。
- (6) 立入禁止区域に立ち入ること。
- (7) 指定された場所以外の場所へ車両を乗り入れ、又は留め置くこと。
- (8) 都市公園をその用途外に使用すること。

(利用の禁止又は制限)

第6条 市長は、都市公園の損壊その他の理由によりその利用が危険であると認められる場合又は都市公園に関する工事のためやむを得ないと認められる場合においては、都市公園を保全し、又はその利用者の危険を防止するため、区域を定めて、都市公園の利用を禁止し、又は制限することができる。

(公園施設の設置若しくは管理の許可申請者の資格及び申請書の記載事項)

第7条 法第5条第1項の規定により都市公園内において公園施設を設け、又は管理させることができる者は、市内に住所又は事務所を有する者でなければならない。

2 法第5条第1項に規定する申請書の記載事項は、次の各号に掲げるものとする。

(1) 公園施設を設けようとするときは、次に掲げる事項

ア 申請者の住所、氏名(法人にあつては主たる事務所の所在地、名称及び代表者の氏名とする。以下同じ。)

イ 種類及び数量

ウ 設置の目的

エ 設置の期間

オ 設置の場所

カ 公園施設の構造

キ 公園施設の管理の方法

ク 工事实施の方法

ケ 設置工事期間

- コ 都市公園の復旧方法
- サ その他市長の指示する事項
- (2) 公園施設を管理しようとするときは、次に掲げる事項
- ア 申請者の住所、氏名
- イ 種類及び数量
- ウ 管理の目的
- エ 管理の期間
- オ 管理の方法
- カ その他市長の指示する事項
- (3) 許可を受けた事項を変更しようとするときは、次に掲げる事項
- ア 申請者の住所、氏名
- イ 変更する事項
- ウ 変更する理由
- エ その他市長の指示する事項

(都市公園の占用許可申請書の記載事項)

第8条 法第6条第2項に規定する申請書の記載事項は、次の各号に掲げるものとする。

- (1) 申請者の住所、氏名
- (2) 工作物その他の物件又は施設(以下「占用物件」という。)の種類及び数量
- (3) 占用物件の管理方法
- (4) 工事実施の方法
- (5) 工事の着手及び完了の時期
- (6) 都市公園の復旧方法
- (7) その他市長の指示する事項

(許可を要しない占用物件の軽微な変更)

第9条 法第6条第3項ただし書に規定する許可を要しない軽易な変更事項は、次の各号に掲げるものとする。

- (1) 占用物件の内部の塗装又は占用物件の外部の色彩を変えない塗装
- (2) 占用物件の構造を変えない修繕
- (3) 占用物件の主要構造部に影響を与えない内部の模様替え

(設計書等)

第10条 公園施設の設置若しくは都市公園の占用の許可を受けようとする者又はそれらの許可を受けた事項の一部を変更しようとする者は、当該許可の申請書に設計書、仕様書及び図面を添付しなければならない。

(使用料)

第11条 法第5条第1項、法第6条第1項若しくは第3項又は第3条第1項若しくは第3項の許可を受けた者は、別表1に定める額(消費税法(昭和63年法律第108号)第6条第1項の規定により非課税とされるものを除くものにあつては、算定した当該使用料に100分の105を乗じて得た額(その額に10円未満の端数があるときは、これを切り捨てた額))を使用料として納付しなければならない。

(監督処分)

第12条 市長は、次の各号のいずれかに該当する者に対して、この条例の規定によつてした許可を取り消し、その効力を停止し、若しくはその条件を変更し、又は行為の中止、原状回復若しくは都市公園よりの退去を命ずることができる。

- (1) この条例又はこの条例の規定に基づく処分に違反している者

(2) この条例の規定による許可に付した条件に違反している者

(3) 偽りその他不正な手段によりこの条例の規定による許可を受けた者

2 市長は、次の各号の一に該当する場合においては、この条例の規定による許可を受けた者に対し、前項に規定する処分をし、又は同項に規定する必要な措置を命ずることができる。

(1) 都市公園に関する工事のためやむを得ない必要が生じた場合

(2) 都市公園の保全又は公衆の都市公園の利用に著しい支障が生じた場合

(3) 都市公園の管理上の理由以外の理由に基づく公益上やむを得ない必要が生じた場合

(公園施設の設置及び管理の委託)

第 12 条の 2 市長は、法第 5 条第 1 項の規定に基づき、公園施設の設置及び管理に関する業務の全部又は一部を公共的団体に委託することができる。

第 3 章 駐車場の管理

(駐車場の利用許可等)

第 12 条の 3 都市公園内の駐車場で次に定めるもの(以下「駐車場」という。)を利用しようとする者は、市長の許可を受けなければならない。

名称 高知市桂浜公園駐車場

位置 高知市浦戸 779 番地

(駐車場の管理等)

第 12 条の 4 市長は、駐車場の管理を、地方自治法(昭和 22 年法律第 67 号)第 244 条の 2 第 3 項の規定に基づき市長が指定する者(以下「指定管理者」という。)に行わせることができる。

2 前項の規定に基づき指定管理者に駐車場の管理を行わせる場合における当該指定管理者の指定の手續等については、高知市公の施設に係る指定管理者の指定手續等に関する条例(平成 17 年条例第 69 号)の定めるところによる。

(指定管理者が行う業務)

第 12 条の 5 前条第 1 項の規定に基づき指定管理者が管理を行う場合において、指定管理者は、次に掲げる業務を行うものとする。

(1) 駐車場の利用の許可に関する業務

(2) 駐車場の維持管理に関する業務

(3) 駐車場を利用する車両の入出場のために必要な業務

(4) 前 3 号に掲げるもののほか、市長が必要と認める業務

(指定管理者の権限)

第 12 条の 6 指定管理者は、第 12 条の 4 第 1 項の規定に基づく指定が効力を有する間、第 12 条の 3、第 12 条の 11 及び第 12 条の 15 に規定する市長の権限を行うものとする。ただし、地方自治法第 244 条の 2 第 11 項の規定により、管理の業務の全部又は一部の停止を命ぜられた期間における当該停止を命ぜられた業務に係るものを除く。

(供用時間)

第 12 条の 7 駐車場の供用時間は、午前 6 時から午後 10 時 30 分までとする。

2 駐車場の有料供用時間は、午前 8 時 30 分から午後 6 時までとする。

3 市長は、管理上及び公益上必要があると認めるときは、前 2 項に規定する時間を変更することができる。

(供用の休止)

第 12 条の 8 市長は、駐車場の整備及び補修その他管理上必要があるときは、前条の規定にかかわらず、駐車場の全部又は一部の供用を休止することができる。この場合においては、当該駐車場の見やすい箇所にその旨を掲示する。

(駐車場の使用料)

第 12 条の 9 第 12 条の 3 の許可を受けた者(以下「利用者」という。)は、別表 2 に掲げる額の範囲内において、市長が定める使用料を市長に納付しなければならない。

(利用料金の収入等)

第 12 条の 10 市長は、第 12 条の 4 第 1 項の規定に基づき駐車場の管理を指定管理者に行わせる場合において適当と認めるときは、指定管理者に駐車場の利用に係る料金(以下「利用料金」という。)を当該指定管理者の収入として収受させることができる。

2 前項の規定に基づき利用料金を指定管理者の収入として収受させる場合にあつては、前条の規定にかかわらず、利用者は、利用料金を当該指定管理者に納付しなければならない。

3 利用料金は、別表 2 に掲げる額の範囲内において、指定管理者があらかじめ市長の承認を得て定めるものとする。

4 利用料金の減免及び還付については、第 16 条及び第 17 条の 9 の規定を準用する。この場合において、これらの規定中「市長」とあるのは「指定管理者」と、第 16 条中「使用料」とあるのは「利用料金」と、第 17 条の 9 中「使用料等(第 11 条及び第 12 条の 9 に規定する使用料、第 17 条の 3 第 1 項に規定する分担金及び第 17 条の 4 第 1 項に規定する汚水処理施設使用料をいう。)」とあるのは「利用料金」と読み替えるものとする。

(駐車の拒否)

第 12 条の 11 市長は、次の各号のいずれかに該当する場合は、駐車を拒否することができる。

- (1) 発火性又は引火性の物品を積載しているとき。
- (2) 駐車場の施設を汚損するおそれのあるとき。
- (3) 前 2 号に掲げるもののほか、駐車場の管理に支障があると認めるとき。

(禁止行為)

第 12 条の 12 利用者は、駐車場において、次の行為をしてはならない。

- (1) 他の車両の駐車を妨げること。
- (2) 駐車場の施設及び駐車中の車両を汚染し、又は破損するおそれのある行為をすること。
- (3) みだりに火気を使用し、又は騒音を発すること。
- (4) 営業行為や演説、宣伝、署名運動及びこれに類似する行為をすること。
- (5) 飲酒運転及び無免許運転をすること。
- (6) ごみその他の汚物を捨てること。
- (7) 前各号に掲げるもののほか、管理上支障を及ぼすおそれのある行為をすること。

(立入禁止)

第 12 条の 13 駐車場に駐車する車両の運転手、同乗者、乗客その他用務のある者以外の者は、駐車場に立ち入ることができない。

(造作等の制限)

第 12 条の 14 利用者は、駐車場を利用するため特別の設備をし、又は造作を加えてはならない。

(利用許可の取消し等)

第 12 条の 15 市長は、次の各号のいずれかに該当する利用者については、その利用許可を取り消し、又は駐車場の利用を禁止する。

- (1) この条例及びこの条例に基づいて定める規則に違反する者
- (2) 法令に違反する行為を行つた者
- (3) 前 2 号に掲げるもののほか、管理上支障があると認める者

(原状回復又は損害賠償義務)

第 12 条の 16 駐車場及び附属設備を破損した者は、市長の定めるところにより、直ちにこれを原状に回復し、又はその損害を賠償しなければならない。

2 前条の規定に基づく利用許可の取消しによつて、利用者が被つた損害について、市は賠償の責めを負わない。

(駐車場内における損害についての責任)

第 12 条の 17 駐車場内における盗難、破損、車両相互の接触又は衝突によつて生じた損害その他の火災事変又は不可抗力による損害については、市は賠償の責めを負わない。ただし、市の責めによる損害については、この限りでない。

第 4 章 雑則

(権利の譲渡禁止等)

第 13 条 法第 5 条第 1 項、法第 6 条第 1 項、同条第 3 項、第 3 条第 1 項若しくは第 3 項の許可を受けた者は、その権利を他人に譲渡し、又は転貸することができない。

(届出)

第 14 条 次の各号のいずれかに該当する場合においては、当該行為をした者は、すみやかにその旨を市長に届け出なければならない。

- (1) 法第 5 条第 1 項又は法第 6 条第 1 項若しくは第 3 項の許可を受けた者が、公園施設の設置又は都市公園の占用に関する工事を完了したとき。
- (2) 前号に掲げる者が、公園施設の設置若しくは管理又は都市公園の占用を廃止したとき。
- (3) 第 1 号に掲げる者が法第 10 条第 1 項の規定により都市公園を原状に回復したとき。
- (4) 法第 27 条第 1 項又は第 2 項の規定により同条第 1 項に規定する必要な措置を命ぜられた者が、命ぜられた工事を完了したとき。
- (5) 都市公園を構成する土地物件について所有権を移転し、又は抵当権を設定し、若しくは移転したとき。
- (6) 第 12 条第 1 項又は第 2 項の規定により同条第 1 項に規定する必要な措置を命ぜられた者が、命ぜられた措置を完了したとき。

(使用料の徴収)

第 15 条 使用料は、公園施設の設置若しくは管理、都市公園の占用又は第 3 条第 1 項各号に掲げる行為については、都市公園の使用の許可の際に徴収する。

2 都市公園の使用の期間が会計年度をまたぐものについては、初年度分は使用の許可の際、次年度以降の分については当該年度分をその年度の始めに徴収する。

3 使用料が特に多額であるか、又は特別の事情により一時に納付することが困難であると認めるときは、分割徴収することができる。

(使用料の減免)

第 16 条 市長は、法第 5 条第 1 項、法第 6 条第 1 項、同条第 3 項、第 3 条第 1 項、同条第 3 項又は第 12 条の 3 の許可を受けた者の責めに帰することのできない理由によつて、それらの許可に係る行為又はそれらの利用をすることができなくなつた場合その他市長が必要と認める場合においては、使用料の全部又は一部を免除することができる。

(都市公園の区域の変更及び廃止)

第 16 条の 2 市長は、都市公園の区域を変更し、又は都市公園を廃止するときは、当該都市公園の名称、位置、変更又は廃止に係る区域その他必要と認める事項を明らかにして、その旨を公告しなければならない。

(公園予定区域及び予定公園施設についての準用)

第 17 条 第 3 条から第 16 条までの規定は、法第 33 条第 4 項に規定する公園予定区域又は予定公園施設について準用する。

(汚水処理施設の利用許可等)

第 17 条の 2 都市公園内の汚水処理施設で市長が別に定めるもの(以下「汚水処理施設」という。)を利用して汚水を排除しようとする者は、別に定めるところにより市長の許可を受けなければならない。

2 汚水処理施設を利用することができる者は、当該汚水処理施設が設置された都市公園における公園施設の設置者又はこれに準ずる者その他市長が認める者とする。

3 市長は、第 1 項の規定による許可を受けた者(以下「汚水処理施設利用者」という。)が次の各号のいずれかに該当するときは、汚水処理施設の利用を禁止し、又は利用の許可を取り消すことができる。この場合において、汚水処理施設利用者が被った損害については、市は賠償の責めを負わない。

(1) 条例その他の法令及びこの条例の規定に基づき別に市長が定めた事項に違反したとき。

(2) 次条に規定する汚水処理施設分担金又は第 17 条の 4 に規定する汚水処理施設使用料を納付しないとき。

(3) 前 2 号に掲げるもののほか、管理上支障があると認めるとき。

(汚水処理施設分担金)

第 17 条の 3 市長は、汚水処理施設利用者に対し、汚水処理施設分担金(以下「分担金」という。)を賦課し、これを徴収する。

2 分担金は、排水設備を汚水処理施設に連絡する管に接続する際に賦課するものとし、その額は、汚水処理施設利用者 1 人につき 371,000 円とする。

3 市長は、分担金を賦課したときは、当該分担金の額及びその納付期限等を汚水処理施設利用者へ通知しなければならない。

4 分担金は、一括して徴収するものとする。ただし、汚水処理施設利用者が分割納付の申出をしたときは、1 年以内に分割して徴収することができる。

(汚水処理施設使用料)

第 17 条の 4 市長は、汚水処理施設利用者から汚水処理施設使用料を徴収するものとする。

2 汚水処理施設使用料は、毎利用月において汚水処理施設利用者が排除した汚水の量(以下「汚水量」という。)に応じ、別表 3 により算定した額に 100 分の 105 を乗じて得た額(その額に 1 円未満の端数があるときは、その端数金額を切り捨てた額)とする。

(汚水処理施設使用料の算定)

第 17 条の 5 市長は、汚水処理施設使用料の算定の基準日として、あらかじめ定例日を定める。

2 市長は、定例日における汚水量を基に、その日の属する月分(以下「当月分」という。)及び前月分として汚水処理施設使用料を算定する。

3 前項の場合において、汚水量は、各月均等とみなす。ただし、当該汚水量に 1 立方メートル未満の端数があるときは、その端数を当月分に繰り入れる。

4 汚水量は、当該汚水処理施設利用者の水道の使用水量とする。ただし、これにより難しい場合には、汚水処理施設利用者から必要な資料の提出を求めて汚水量を認定することができる。

(特別な場合における汚水処理施設使用料の算定)

第 17 条の 6 汚水処理施設の利用を休止し、又は廃止した場合その他市長が特に必要があると認めた場合は、定例日以外の日における汚水量を基に、汚水処理施設使用料を算定することができる。

2 汚水処理施設の利用を開始し、若しくは現に休止しているその利用を再開した場合又は前項に規定する場合における基本料金は、別に定める日割計算の方法により算定する。

3 前項の場合における従量料金は、当該利用日数が 30 日を超えない場合にあってはその汚水量をもつて算定し、当該利用日数が 30 日を超える場合にあっては前条第 2 項及び第 3 項の規定の例により算定する。

(汚水処理施設使用料の徴収方法)

第 17 条の 7 汚水処理施設使用料は、納入通知書により 2 箇月分をまとめて徴収する。

2 前条第 1 項に規定する場合における汚水処理施設使用料は、その都度これを徴収することができる。

(分担金及び汚水処理施設使用料の減免)

第 17 条の 8 市長は、汚水処理施設利用者が国又は地方公共団体である場合その他市長が必要と認める場合においては、分担金及び汚水処理施設使用料の全部又は一部を免除することができる。

(使用料等の不還付)

第 17 条の 9 既納の使用料等(第 11 条及び第 12 条の 9 に規定する使用料、第 17 条の 3 第 1 項に規定する分担金並びに第 17 条の 4 第 1 項に規定する汚水処理施設使用料をいう。)は、還付しない。

ただし、市長が特別の事由があると認めるときは、その全部又は一部を還付することができる。

(委任)

第 18 条 この条例の施行につき必要な事項は、市長が定める。

第 5 章 罰則

第 19 条 次の各号のいずれかに該当する者に対しては、5 万円以下の過料を科する。

(1) 第 3 条第 1 項又は第 3 項(第 17 条においてこれらの規定を準用する場合を含む。)の規定に違反して同条第 1 項各号に掲げる行為をしたもの

(2) 第 5 条(第 17 条において準用する場合を含む。)の規定に違反して同条各号に掲げる行為をした者

(3) 第 12 条第 1 項又は第 2 項(第 17 条においてこれらの規定を準用する場合を含む。)の規定による市長の命令に違反した者

第 20 条 詐欺その他不正の行為により使用料、分担金又は汚水処理施設使用料の徴収を免れた者に対しては、その徴収を免れた金額の 5 倍に相当する金額(当該 5 倍に相当する金額が 5 万円を超えないときは、5 万円とする。)以下の過料を科する。

第 21 条 法人の代表者又は法人若しくは人の代理人、使用人その他の従業者が、その法人又は人の業務に関し、前 2 条の違反行為をしたときは、行為者を罰するほか、その法人又は人に対して各本条の過料を科する。

第 22 条 法第 5 条の 3 の規定により市長に代わつてその権限を行う者は、この章の規定の適用については、市長とみなす。

附 則

(施行期日)

1 この条例は、昭和 35 年 4 月 1 日から施行する。

(経過措置)

2 この条例施行の際、現に権原に基いて都市公園の一部を使用している者は、その権原に基いてなお使用することができるものとされている期間、当該使用をすることについて法第 5 条第 2 項又は法第 6 条第 1 項の許可を受けたものとみなす。

(春野町の編入に伴う経過措置)

3 春野町の編入の日(以下「編入日」という。)前に春野町都市公園条例(昭和 57 年春野町条例第 699 号。以下「春野町条例」という。)の規定に基づきされた処分、手続その他の行為は、この条例の相当規定に基づきされたものとみなす。

4 編入日前に法第 6 条第 1 項又は第 3 項の規定により春野町長の許可を受けた者に係る使用料(平成 19 年度分までに限る。)及び前項の規定によりこの条例の相当規定に基づき許可を受けたものとみなされた者に係る使用料については、この条例の規定にかかわらず、春野町条例の例による。

5 編入日前にした春野町条例に違反する行為に対する罰則の適用については、なお従前の例による。

附 則(昭和 38 年 6 月 25 日条例第 38 号)

1 この条例は、昭和 38 年 7 月 1 日から施行する。

2 この条例施行の際、現に都市公園の一部の占用の許可を受け、使用中のものに係る使用料については、なお従前の例による。

3 高知市公園条例(昭和 28 年高知市条例第 44 号)は、廃止し、同条例に規定する桂浜公園及び筆山公園は、それぞれ当該名称をもつてこの条例による都市公園とする。

附 則(昭和 39 年 3 月 30 日条例第 31 号)

この条例は、昭和 39 年 4 月 1 日から施行する。

附 則(昭和 40 年 8 月 1 日条例第 22 号)

この条例は、公布の日から施行する。

附 則(昭和 41 年 7 月 20 日条例第 15 号)抄

1 この条例は、公布の日から施行する。

附 則(昭和 42 年 3 月 25 日条例第 13 号)

この条例は、公布の日から施行する。

附 則(昭和 42 年 10 月 15 日条例第 48 号)

この条例は、公布の日から施行する。

附 則(昭和 43 年 3 月 30 日条例第 11 号)

この条例は、公布の日から施行する。

附 則(昭和 43 年 8 月 1 日条例第 19 号)抄

1 この条例は、公布の日から施行する。

附 則(昭和 43 年 12 月 27 日条例第 56 号)

この条例は、昭和 44 年 1 月 1 日から施行する。

附 則(昭和 44 年 3 月 31 日条例第 5 号)

この条例は、昭和 44 年 4 月 1 日から施行する。

附 則(昭和 44 年 3 月 31 日条例第 9 号)

この条例は、公布の日から施行する。

附 則(昭和 45 年 4 月 1 日条例第 5 号)

この条例は、公布の日から施行する。

附 則(昭和 45 年 7 月 15 日条例第 30 号)

この条例は、公布の日から施行する。

附 則(昭和 46 年 3 月 15 日条例第 1 号)

この条例は、公布の日から施行する。

附 則(昭和 47 年 4 月 1 日条例第 29 号)

この条例は、公布の日から施行する。

附 則(昭和 47 年 6 月 24 日条例第 39 号)

この条例は、昭和 47 年 7 月 1 日から施行する。

附 則(昭和 48 年 4 月 1 日条例第 13 号)

この条例は、公布の日から施行する。

附 則(昭和 48 年 7 月 15 日条例第 36 号)

この条例は、公布の日から施行する。

附 則(昭和 48 年 12 月 25 日条例第 50 号)

この条例は、公布の日から施行する。

附 則(昭和 49 年 4 月 1 日条例第 29 号)

この条例は、公布の日から施行する。ただし、第 15 条の 2 及び別表 3 の規定は、高知市桂浜公園有料駐車場開設の日から施行する。

附 則(昭和 49 年 7 月 1 日条例第 45 号)

この条例は、公布の日から施行する。

附 則(昭和 49 年 9 月 10 日条例第 57 号)

この条例は、昭和 49 年 10 月 1 日から施行する。

附 則(昭和 49 年 12 月 25 日条例第 80 号)

この条例は、公布の日から施行する。

附 則(昭和 50 年 5 月 1 日条例第 19 号)

この条例は、昭和 50 年 5 月 3 日から施行する。

附 則(昭和 50 年 7 月 25 日条例第 23 号)

この条例は、公布の日から施行する。

附 則(昭和 50 年 10 月 7 日条例第 54 号)

この条例は、公布の日から施行する。

附 則(昭和 51 年 4 月 1 日条例第 10 号)

この条例は、公布の日から施行する。

附 則(昭和 51 年 12 月 25 日条例第 67 号)

- 1 この条例は、公布の日から施行する。
- 2 高知市立児童遊園条例(昭和 41 年条例第 8 号)の一部を次のように改正する。
第 3 条中「別表 2」を「別表 1」に改める。

附 則(昭和 52 年 4 月 1 日条例第 10 号)

この条例は、公布の日から施行する。

附 則(昭和 54 年 4 月 1 日条例第 19 号)

この条例は、公布の日から施行する。

附 則(昭和 56 年 4 月 1 日条例第 13 号)

この条例は、公布の日から施行する。

附 則(昭和 59 年 4 月 1 日条例第 17 号)

この条例は、公布の日から施行する。

附 則(昭和 60 年 7 月 2 日条例第 36 号)

この条例は、公布の日から施行し、昭和 60 年 4 月 1 日から適用する。

附 則(昭和 63 年 4 月 1 日条例第 8 号)

この条例は、公布の日から施行する。

附 則(平成 3 年 12 月 25 日条例第 39 号)抄

(施行期日)

- 1 この条例は、平成 4 年 4 月 1 日から施行する。

(道路占用料等に係る経過措置)

- 4 第 17 条から第 19 条までの規定(以下この項において「改正規定」という。)による改正後の条例の規定に基づく占用料又は使用料については、施行日以後に占用又は利用の許可を受けたものに係る占用料又は使用料から適用し、施行日前に改正規定による改正前の条例の規定に基づき占用又は利用の許可を受けたものに係る占用料又は使用料については、なお従前の例による。

附 則(平成 5 年 4 月 1 日条例第 18 号)

(施行期日)

- 1 この条例は、公布の日から施行する。

(経過措置)

- 2 この条例による改正後の高知市都市公園条例別表2の規定は、この条例の施行の日(以下「施行日」という。)以後に利用の許可を受けたものに係る使用料から適用し、施行日前に利用の許可を受けたものに係る使用料については、なお従前の例による。

附 則(平成6年4月1日条例第20号)

(施行期日)

- 1 この条例は、公布の日から施行する。

(経過措置)

- 2 この条例による改正後の高知市都市公園条例別表2の規定は、この条例の施行の日(以下「施行日」という。)以後に利用の許可を受けたものに係る使用料から適用し、施行日前に利用の許可を受けたものに係る使用料については、なお従前の例による。

附 則(平成6年10月1日条例第43号)

(施行期日)

- 1 この条例は、平成7年4月1日から施行する。

(経過措置)

- 2 この条例の施行前にした行為に対する罰則の適用については、なお従前の例による。

附 則(平成7年4月1日条例第24号)

(施行期日)

- 1 この条例は、公布の日から施行する。

(経過措置)

- 2 この条例による改正後の高知市都市公園条例別表2の規定は、この条例の施行の日(以下「施行日」という。)以後に利用の許可を受けたものに係る使用料から適用し、施行日前に利用の許可を受けたものに係る使用料については、なお従前の例による。

附 則(平成7年10月1日条例第49号)

(施行期日)

- 1 この条例は、平成8年1月1日から施行する。

(経過措置)

- 2 この条例による改正後の高知市都市公園条例別表3の規定は、この条例の施行の日(以下「施行日」という。)以後の下水の量に係る汚水処理施設使用料から適用し、施行日前の下水の量に係る汚水処理施設使用料については、なお従前の例による。
- 3 前項の場合において、施行日の属する月分に係る汚水処理施設使用料については、下水を各日均等に排除したものとみなし、施行日前に係る日数に応じた下水の量と施行日以後に係る日数に応じた下水の量のそれぞれの割合に応じて算定した額を合計して算出するものとする。

附 則(平成8年4月1日条例第17号)

(施行期日)

- 1 この条例は、公布の日から施行する。

(経過措置)

- 2 この条例による改正後の高知市都市公園条例別表1(以下「改正後の別表1」という。)の規定は、この条例の施行の日(以下「施行日」という。)以後の占用に係る使用料から適用し、施行日前の占用に係る使用料については、なお従前の例による。
- 3 前項の規定にかかわらず、施行日前に占用の許可を受けた物件で施行日以後引き続き占用するもの(施行日以後占用の期間の満了により引き続き占用の許可を受けたものを含む。以下「継続物件」という。)に係る平成8年度以後の年度分の使用料は、当該継続物件に係る当該年度分の使用料として改正後の別表1の規定により算定して得た額が当該継続物件に係る前年度分の使用

料に1.1を乗じて得た額(以下「調整使用料額」という。)を超える場合には、当該調整使用料額とする。

附 則(平成9年4月1日条例第11号)抄

(施行期日)

1 この条例は、公布の日から施行する。

(道路占用料等に係る経過措置)

4 第22条、第23条及び第24条(高知市都市公園条例第17条の3第4項の改正規定を除く。)の規定による改正後の条例の規定に基づく占用料又は使用料については、施行日以後に占用又は利用の許可を受けたものに係る占用料又は使用料から適用し、施行日前に占用又は利用の許可を受けたものに係る占用料又は使用料については、なお従前の例による。

(下水道使用料等に係る経過措置)

5 第24条(高知市都市公園条例第17条の3第4項の改正規定に限る。)、第25条及び第26条の規定による改正後の条例の規定にかかわらず、施行日前から継続して使用している汚水処理施設、下水道又は団地下水道の使用で施行日から平成9年4月30日までの間に使用料の支払いを受ける権利が確定するものに係る使用料(施行日以後初めて使用料の支払いを受ける権利が確定する日が同月30日後であるものにあつては、当該確定したもののうち、施行日以後初めて使用料の支払いを受ける権利が確定する使用料の額を前回確定日(その直前の使用料の支払いを受ける権利が確定した日をいう。以下同じ。)から施行日以後初めて使用料の支払いを受ける権利が確定する日までの期間の月数で除し、これに前回確定日から同月30日までの期間の月数を乗じて計算した金額に係る部分に対応する部分に限る。)については、なお従前の例による。

6 前項の月数は、暦に従って計算し、1月に満たない端数を生じたときは、これを1月とする。

附 則(平成11年10月5日条例第56号)

(施行期日)

1 この条例は、平成12年1月1日から施行する。

(経過措置)

2 この条例による改正後の高知市都市公園条例別表3の規定は、この条例の施行の日(以下「施行日」という。)以後の下水の量に係る汚水処理施設使用料から適用し、施行日前の下水の量に係る汚水処理施設使用料については、なお従前の例による。

3 前項の場合において、施行日の属する月分に係る汚水処理施設使用料については、下水を各日均等に排除したものとみなし、施行日前に係る日数に応じた下水の量と施行日以後に係る日数に応じた下水の量のそれぞれの割合に応じて算定した額を合計して算出するものとする。

附 則(平成12年4月1日条例第2号)抄

(施行期日等)

1 この条例は、公布の日から施行する。

2 第12条の規定による改正後の高知市都市公園条例(以下「改正後の都市公園条例」という。)別表1の規定は、平成10年4月1日から適用する。

(高知市都市公園条例の一部改正に伴う経過措置)

4 この条例の施行の際現に汚水処理施設の利用の許可を受けている者は、改正後の都市公園条例第17条の2第1項の規定による許可を受けた者とみなす。

(罰則に関する経過措置)

6 この条例の施行前にした行為に対する罰則の適用については、なお従前の例による。

附 則(平成17年1月1日条例第66号)

(施行期日)

1 この条例は、平成17年4月1日から施行する。

(経過措置)

2 この条例による改正後の高知市都市公園条例別表3の規定は、この条例の施行の日(以下「施行日」という。)以後の下水の量に係る汚水処理施設使用料から適用し、施行日前の下水の量に係る汚水処理施設使用料については、なお従前の例による。

3 前項の場合において、施行日の属する月分に係る汚水処理施設使用料については、下水を各日均等に排除したものとみなし、施行日前に係る日数に応じた下水の量と施行日以後に係る日数に応じた下水の量のそれぞれの割合に応じて算定した額を合計して算出するものとする。

附 則(平成17年4月1日条例第77号)

この条例は、公布の日から施行し、平成16年4月1日から適用する。

附 則(平成17年10月15日条例第119号)

(施行期日)

1 この条例は、公布の日から施行する。

(経過措置)

2 この条例の施行の際現にこの条例による改正前の高知市都市公園条例第15条の4第1項の規定に基づき委託している駐車場の管理については、平成18年3月31日までの間は、なお従前の例による。

附 則(平成18年10月1日条例第57号)

この条例は、公布の日から施行する。

附 則(平成20年1月1日条例第23号)

この条例は、公布の日から施行する。

附 則(平成21年1月1日条例第17号)

(施行期日)

1 この条例は、平成21年4月1日から施行する。

(経過措置)

2 この条例による改正後の高知市都市公園条例別表3の規定は、この条例の施行の日(以下「施行日」という。)以後の下水の量に係る汚水処理施設使用料から適用し、施行日前の下水の量に係る汚水処理施設使用料については、なお従前の例による。

3 前項の場合において、施行日の属する月分に係る汚水処理施設使用料については、下水を各日均等に排除したものとみなし、施行日前に係る日数に応じた下水の量と施行日以後に係る日数に応じた下水の量のそれぞれの割合に応じて算定した額を合計して算出するものとする。

附 則(平成22年10月1日条例第60号)

(施行期日)

1 この条例は、平成23年1月1日から施行する。

(経過措置)

2 この条例による改正後の高知市都市公園条例第17条の6第2項及び第3項の規定は、この条例の施行の日以後に汚水処理施設の利用を開始し、若しくは現に休止しているその利用を再開した場合又は同条第1項に規定する場合における汚水処理施設使用料の算定(以下「利用の開始等に係る汚水処理施設使用料の算定」という。)から適用し、同日前の利用の開始等に係る汚水処理施設使用料の算定については、なお従前の例による。

別表1

1 公園管理者以外の者が公園施設を設ける場合

公園施設の種類	単位	金額
都市公園法施行令(昭和31年政令第290号)第5条第5項、第6項及び第8項に定める公園施設	1平方メートル 1年につき	700円

2 公園施設を管理する場合

公園施設の種類及び名称	金額
売店及び休憩所	公営住宅法の一部を改正する法律(平成8年法律第55号)による改正前の公営住宅法(昭和26年法律第193号)第12条第1項及び公営住宅法施行令の一部を改正する政令(平成8年政令第248号)による改正前の公営住宅法施行令(昭和26年政令第240号)第4条により算出した額の範囲内

3 都市公園を占用する場合

占用物件名		単位	金額
電柱(支柱, 支線柱及び支線を含む。)その他これに類するもの	第1種電柱	1本 1年につき	1,000円
	第2種電柱	1本 1年につき	1,600円
	第3種電柱	1本 1年につき	2,200円
電話柱(支柱, 支線柱及び支線を含む。)その他これに類するもの		電気通信事業法(昭和59年法律第86号)第132条第2項第5号及び電気通信事業法施行令(昭和60年政令第75号)第5条による土地等の使用の対価	
送電塔その他これに類するもの		1平方メートル 1年につき	1,400円
公衆電話所		電気通信事業法第132条第2項第5号及び電気通信事業法施行令第5条による土地等の使用の対価	
水道管, 下水道管, ガス管その他これらに類するもの	外径が0.4メートル未満	1メートル 1年につき	190円
	外径が0.4メートル以上	1メートル 1年につき	480円
工事用施設及び材料置場		1平方メートル 1日につき	30円
線類	上空	1メートル 1年につき	10円
	地下	1メートル 1年につき	5円
露店その他		1平方メートル 1月につき	150円

備考 第1種電柱とは、電柱(当該電柱に設置される変圧器を含む。以下同じ。)のうち3条以下の電線(当該電柱を設置する者が設置するものに限る。以下同じ。)を支持するものを、第2種電柱とは、電柱のうち4条又は5条の電線を支持するものを、第3種電柱とは、電柱のうち6条以上の電線を支持するものをいうものとする。

4 第3条第1項各号に掲げる行為をする場合

行為の種類		単位	金額
行商, 募金その他これらに類する行為		1人 1月につき	600円
業として行う写真の撮影		1人 1月につき	700円
業として行う映画の撮影		撮影機1台 1時間につき	1,400円
興行		1平方メートル 1日につき	20円
第3条第1項第4号の行為	占用物件を設ける部分	1平方メートル 1日につき	30円
	占用物件を設けない部分	1平方メートル 1日につき	10円

別表 2

自動車種別区分 ＼ 区分		普通自動車	小型 ・軽自動車	2輪自動車及び原 動機付自転車	自転車
駐車料金	1台1日	800円	400円	50円	無料
	1回につき				
定期駐車 料金	1台1箇月に つき	9,780円	4,890円	780円	
回数駐車料金		回数券 11枚つづり1 冊 8,000円	回数券 11枚つづり1 冊 4,000円	回数券 11枚つづり1 冊 500円	

備考 この表において普通自動車、小型自動車及び軽自動車とは、それぞれ道路運送車両法施行規則(昭和26年運輸省令第74号)別表第1に掲げる普通自動車、小型自動車及び軽自動車(2輪自動車を除く。)の区分によることとする。

ただし、普通自動車のうち自動車登録規則(昭和45年運輸省令第7号)別表第2に掲げる自動車種別分類番号3及び30から39までのものは、小型自動車に区分する。

別表 3

使用料月額		
基本料金	従量料金(1立方メートルにつき)	
円 900	汚水量	料金
	1立方メートルから 10立方メートルまで	円 10
	10立方メートルを超え 20立方メートルまで	136
	20立方メートルを超え 30立方メートルまで	153
	30立方メートルを超え 50立方メートルまで	176
	50立方メートルを超え 200立方メートルまで	221
	200立方メートルを超え 1,000立方メートルまで	270
	1,000立方メートルを超えるもの	312

高知市緑政審議会条例

〔昭和56年4月1日
条例第19号〕

改正 平成9年12月26日条例第44号
平成11年4月1日条例第11号

平成11年12月27日条例第57号
平成22年1月1日条例第2号

(設置)

第1条 本市におけるみどりのまちづくり及び都市公園行政の円滑な運営をはかるため、高知市緑政審議会(以下「審議会」という。)を置く。

(所掌事務)

第2条 審議会は、市長の諮問に応じ次に掲げる事項について調査審議する。

- (1) 自然の保護、緑化の推進等に関する事。
- (2) 都市公園、児童遊園の設置及び管理に関する事。

(組織)

第3条 審議会は、委員若干人をもつて組織し、次の各号に掲げる者のうちから市長が委嘱する。

- (1) 関係行政機関の職員
- (2) 関係団体の役職員
- (3) 学識経験を有する者

(任期)

第4条 委員の任期は、2年とする。ただし、委員が欠けた場合における補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 委員が委嘱されたときにおける当該職を失った場合は、委員を辞したものとみなす。

(会長及び副会長)

第5条 審議会に会長及び副会長各1人を置き、委員の互選によつて定める。

2 会長は、会務を総理する。

3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるとき、又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第6条 審議会は、会長が招集する。

2 審議会は、委員の過半数が出席しなければ、会議を開くことができない。

3 審議会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、会長の決定するところによる。

4 審議会において必要と認めるときは、委員以外の者の出席を求め、その説明又は意見を聞くことができる。

(幹事)

第7条 審議会に幹事若干人を置き、本市の職員のうちから市長が任命する。

2 幹事は、会長の命を受け、審議会の審議をたすける。

(庶務)

第8条 審議会の庶務は、環境部において処理する。

(雑則)

第9条 この条例に定めるもののほか、審議会の運営に関し必要な事項は、市長が定める。

附 則

この条例は、公布の日から施行する。

附 則(平成9年12月26日条例第44号)

この条例は、平成10年4月1日から施行する。

附 則(平成11年4月1日条例第11号)

この条例は、公布の日から施行する。

附 則(平成11年12月27日条例第57号)

この条例は、平成12年4月1日から施行する。(後略)

附 則(平成22年1月1日条例第2号)抄

1 この条例は、平成22年4月1日から施行する。

(高知市緑政審議会条例の一部改正)

8 高知市緑政審議会条例(昭和56年条例第19号)の一部を次のように改める。

第8条中「都市整備部」を「環境部」に改める。

環 境 年 表

年	国	高知県	高 知 市	
			条例・計画等	その他
昭和 25				<ul style="list-style-type: none"> 西日本パルプ(後の高知パルプ)操業開始。廃液を江ノロ川に放流。 住民と西日本パルプ間で協議書締結 災害管理委員会設置
29	・清掃法		・清掃条例	
31	・工業用水法			
33	・水質保全法 ・工場排水規制法			
35				・江ノロ川の汚染が顕著となる
37	・ばい煙の排出規制等に関する法律			・大谷清掃工場竣工
39				<ul style="list-style-type: none"> 週2回のステーション収集方法を実施 浦戸湾を守る会結成
42	・公害対策基本法			<ul style="list-style-type: none"> 総務部庶務課 公害担当職員配置 宇賀清掃工場竣工
43	<ul style="list-style-type: none"> 大気汚染防止法 騒音規制法 	<ul style="list-style-type: none"> 厚生労働部環境衛生課に公害対策班を新設 県公害対策協議会設置 		<ul style="list-style-type: none"> ばい煙測定開始 機構改革 安全対策室に安全対策課公害係を設置
44			・騒音規制法の政令委任を受ける	<ul style="list-style-type: none"> 下知下水処理場完成 高知市市民憲章制定
45	<ul style="list-style-type: none"> 公害対策本部設置 公害対策基本法改正(調和条項の削除) 大気汚染防止法改正(上乗せ規制等) 騒音規制法改正 水質汚濁防止法 廃棄物の処理及び清掃に関する法律 	<ul style="list-style-type: none"> 県公害防止条例 厚生労働部公害課新設 高知県公害対策本部設置 		・公害防止設備資金融資制度発足
46	<ul style="list-style-type: none"> 環境庁設置 悪臭防止法 	<ul style="list-style-type: none"> 公害防止員設置 環境保全局新設(公害課) 衛生研究所に公害部設置 		<ul style="list-style-type: none"> 機構改革 安全対策部に公害対策課を設置。公害係配置 公害バトカーによる公害監視開始 市公害対策本部設置 県市町村公害行政担当職員連絡会議発足 浦戸湾を守る会、高知パルプの排水管に生コン投入
47	・自然環境保全部		<ul style="list-style-type: none"> 都市計画法の用途地域変更に伴う騒音規制区域の拡大(高須地区) 公共用水域に対する環境基準類型指定 騒音規制区域の拡大(大津、介良地区) 	<ul style="list-style-type: none"> 機構改革 公害対策課に公害検査室を設置 菖蒲谷清掃工場竣工 潮江地区ばい塵問題 港六社と住民間で公害防止協定締結 高知パルプ操業停止
48	・海洋汚染防止法	<ul style="list-style-type: none"> 高知県公害防止センター新設 環境保全指導員設置 	<ul style="list-style-type: none"> 悪臭防止法の政令指定を受ける 土地保全条例 	<ul style="list-style-type: none"> 機構改革 環境管理部公害対策課となり、企画係、指導係を設置 公害測定車を配置 四国公害行政連絡協議会発足
49			<ul style="list-style-type: none"> 水質汚濁防止法の政令指定を受ける みどりの環境の保全と創出に関する条例 	・東孕し尿中継場竣工

年	国	高知県	高 知 市	
			条例・計画等	その他
50		・生活環境部新設(公害課)	・公害防止条例	・公害監視員制度発足 ・市公害防止基本計画策定 ・公害対策審議会発足 ・機構改革 福祉生活部公害対策課となり、公害係1係となる
51	・振動規制法	・公害課を公害対策室に改める		・登録制による資源・不燃ごみ収集開始
53		・保健環境部設置(公害対策室)		
55				・宇賀清掃工場竣工
56		・公害対策室を公害対策課に改める	・都市計画法の用途地域変更に伴う騒音規制区域の一部変更	・市公害対策審議会廃止
58			・振動規制法の政令委任を受ける	
59				・し尿陸上処理施設 東部環境センター正式稼働
60	・浄化槽法			・機構改革 保健環境部公害対策課となる ・江ノ口川上流塚ノ原地区で生活排水対策運動実施 ・三里最終処分場竣工
61			・ほたる条例	
62				・機構改革 市民環境部環境課となり、公害係、自然保護係の2係となる。 ・鏡川清流保全条例検討委員会発足(63.3答申)
平成元		・清流保全条例公布	・鏡川清流保全条例公布	・鏡川清流保全審議会発足 ・合併処理浄化槽設置補助制度開始 ・プラスチックごみ収集開始 ・浦戸湾七河川一斉清掃始まる
2	・再生資源の利用の促進に関する法律	・清流保全条例施行	・鏡川清流保全条例施行	
3		・高知県レッドデータブック刊行	・鏡川清流保全基本計画策定	
4			・水質汚濁防止法に基づく生活排水対策重点地域に指定される	・鏡川清流保全基金設置 ・高知クリーン推進会発足
5	・環境基本法(公害対策基本法は廃止)			
6	・環境基本計画策定	・新荘川清流保全計画策定	・廃棄物の減量及び適正処理等に関する条例 ・生活排水対策推進計画策定	・エコサイクル高知設立
7	・容器包装リサイクル法		・一般廃棄物処理基本計画策定	
8		・高知県環境基本条例	・都市美条例	・冬季鏡川一斉清掃始まる ・し尿処理手数料改定
9	・環境影響評価法		・環境基本条例	
10	・地球温暖化の推進に関する法律			・中核市へ移行 ・機構改革 環境下水道部環境対策課 環境保全係、減量リサイクル係、産業廃棄物係の3係となる ・'98'豪雨でメッキ工場水没。青酸ナトリウム流失

年	国	高知県	高 知 市	
			条例・計画等	その他
11	・ダイオキシン類対策特別措置法	・植物版レッドリスト発表 ・仁淀川清流保全計画策定	・ダイオキシン類による健康被害の防止と生活環境の保全に関する条例	・三里最終処分場拡張工事終了
12	・循環型社会形成推進基本法 ・容器包装リサイクル法完全施行 ・食品リサイクル法 ・建設リサイクル法	・県が動物版レッドリスト発表 ・安芸川・伊尾木川清流保全計画	・環境基本計画策定 ・里山保全条例	・機構改革 環境部設置 ・ペットボトルの拠点回収開始 ・「エコタウン高知市・事業計画」が国の認証を受ける
13	・環境省発足 ・家電リサイクル法本格施行 ・PCB特別措置法	・高知県四万十川の保全及び流域の振興に関する基本条例	・環境保全率先実行計画策定	・プラスチック製容器包装分別収集開始
14	・土壌汚染対策法 ・自動車リサイクル法			・高知市清掃工場竣工 ・ヨネッツこうち開館 ・ISO14001認証取得(18年度まで)
15	・鳥獣の保護及び狩猟の適正化に関する法律		・第2次一般廃棄物処理基本計画策定	
16	・京都議定書発効			・ごみ処理手数料改定
17	・自動車リサイクル法全面施行			・鏡村、土佐山村と合併
18		・清流四万十川総合プラン21策定	・第2次生活排水対策推進計画策定 ・第2次環境保全率先実行計画策定	・機構改革 ごみ減量推進課を設置
19			・新鏡川清流保全基本計画策定	・環境保全課に生活排水係を設置 ・エコパーク宇賀完成 ・ごみ処理手数料改定
20	・地球温暖化の推進に関する法律改正 ・エネルギーの使用の合理化に関する法律改正	・物部川清流保全計画策定		・春野町と合併 ・機構改革 春野環境センターを設置
21			・高知市地球温暖化防止対策地域推進計画策定	・機構改革 環境政策課とごみ減量推進課を統合し、環境政策課となる
22			・歩きたばこ等に防止に関する条例	・機構改革 みどり課が環境部となる ・環境政策課に低炭素都市推進室を設置

平成 22 年度版 高知市環境白書

平成 23 年 3 月発行

編集発行

高知市環境部環境政策課

〒780-8571 高知市本町 5 丁目 1 番 45 号

TEL 088-823-9209
